

本書ヲ見ルモノハ

新撰地理外國之部附圖

菊子

ヲ必ズ参照スベシ



育教等用  
書用科教科理地



# 新撰地理

外國  
全部

理學士山上萬次郎編



東京

合資  
會社

富山房





ALEXANDER VON HUMBOLDT.

トルンボフ・フォン・ルデンサキレア

祖鼻之學理地世近



アレキサンデル・フォン・フンボルト(Alexander von Humboldt)先生は四曆千七百六十九年九月十四日を以てドイツ國ベルリン府に生れ、千八百五十九年五月六日を以て同地に没す。享年實に九十一。

先生少年の時、夙に多面性の知識を有し、博學を以て有名にして、却て専門流に一事を攻究せざるを以て、これを譏れるものありき。然れ共、斯く萬事に注意する、三才圖繪的研究は、先生の得意とする所にして、他人の譏言を顧るに足らずとせし、蓋し後日大に伸びる所あらんことを準備せられしものなり。

先生の大旅行を爲せしは、千七百九十年ベルギーよりオランダを経て、イギリスに渡り、フランスに至りしを以て初めとす。又九十六年にはアルプス山の地質并に地理を研究せり。爾後千八百四年まで數年間、南アメリカ、メキシコ、キューバ島を巡回す。斯大旅行に由て、先生の獲たる所甚多く、有名なる大著述あり。實に古來博識の士多しと雖も、先生程博物學の有ゆる各科に通達したるものは無かるべし。

先生南アメリカ旅行中、火山の列を爲すを見て、火山噴裂并に地震の歴史を編す。先生夙に火

山と地震と關係する事の親密なるを認め、活火山を以て其地近傍の地震避けと稱せり。

先生夥多の著書の内、尤も有名なるは、天然一般(Ansichten der Natur)にして、宇宙の事網羅して遺す無し。今に傳へて學者の珍重する處たり。

千八百廿九年、先生アジアロシアに旅行し、ウラルの金礦を研究せり。後東進してトボルクを経、支那の西境に至る。其旅行記は(亞細亞の地質と氣候)と題して公にせり。

これより先き、先生 Kosmos と題する書を發刊し、年八十を踰ゆるも、尙ほ諸學士の演説を聴き、これを該書に載せ、世人の理學思想を、高尚の域に導くことを務めらる。蓋しドイツ國にても、古來文學を以て樂みとなす人多かりしは、他の國々も同じく、或は雨窓に小説を繙き、或は晴夜に詩集を弄吟せしに、先生の Kosmos 出て、頓に世人の嗜好を變ぜしめ、遂に今日の如く、理學思想を發達せしむるに至りしと云ふ。

噫、Kosmos の力偉なる哉。先生の德亦盛哉。先生の理學に熱心にして、勤勉なる、九十一歳の時没する年迄、Kosmos 刊行の業に従事せられたり。云ふ。學友金田理學士の著述による。

## 訂新撰地理外國之部

### 緒言

一、余は、從來の著述に、一大改訂を加へ、文部省の中學校教科細目を參酌し、明治三十二年三月を以て、新撰地理外國之部を編述せしに、直ちに中等學校の教科用として、世に行はるゝに至れり。然れども、其後學友及び教授當局者より、續々該書に就ての評論に接したり。故に余は爰に必要なる修正を施して、本書を公にせり。

二、本書は、中學校教科細目に準據せり。然れども、中等學校に於て、比較的詳密に授くべき、清韓兩國は、教材の分量、及び教授の順序より見るも、これを最後に授くべきの至當なるは、理論上及び經驗上、余の確信する所なり。但し教師の注意により、第二章アジア總論を終りたるの後に、適當の時間を割て、清韓兩國の概説を授くるは、余の同意を表する所なり。

三、中等學校の比較的上級に於て授くべき、外國地理に在ては、必ずしも旅行體



を用ふべきの要なし且現今世界交通の有様にては、世界の本往還を稱す  
べき通路は、其水陸如何なるを問はず、其數多からざれば、旅行體のみを以て  
世界地理の全體を説き盡さんことは、到底望み得べからず、故に余は系統的  
に、章節を分て論述したり、然れども適當なる汽船航路、又は鐵道によりて、時  
時圖上に旅行を試みて、學生の興味を喚起せんことは、余の切望に堪へざる  
所なり。

四、人文地理、特に實業及び軍備に、重きを置きたるは、余の特に一言する所なり  
五、地名の稱呼に就ては、左の方針を取れり、其理由は繁に涉り、僅々の頁を以て  
説き盡すこと能はざるにより、單に要點のみを記す。

(イ)清韓兩國の地名は、漢字を用ひ、其讀方は漢音とす、(但し貿易港、其他二三の例外  
あり)。

(ロ)其他の地名中、已に日本的となりたるもの、例之はイギリス、オランダ等の如き  
は、其儘これを用ふ。

(ハ)清韓兩國の地名、及び二三の例外、(東海の如し)を除き、大抵片假名を用ふ。(但し本  
邦の條、  
約文、其他公文には、難詰にして不都合なる漢  
字を當つるの懸弊あり、これに注意すべし)。

(ニ)右の地名は、すべてイギリス讀みに、最も近きものを取る、但しフランスの地名  
は、フランス讀み、ドイツの地名は、ドイツ讀みによる、右の中、地方によりて、異な  
れる讀み方あるものは、一地方のものを用ふ、例之は、ハンブルヒ、ケーニツヒス  
ヘルヒヒ、讀めるが如し。

(ホ)各國の原音に従て讀むことは、本邦現今の程度に於て、これを實行する時機、尙  
ほ早しき認むるにより、此法を採用せず。

(三)片假名は、すべて外國音に類似するを主眼とせり、但し成るべく、精密に一致せ  
しめんことは、國字改良又は新國字製造の問題を先決するに非れば、望み得べ  
からず、故に強て此點に重きを置かず、又イギリス語を、主たる外國語とする、學  
校に於ては、片假名に關せずして、正則的の讀み方を、授くるも可なり。

六、地名に對する、外國語の記入に就ては、左の方針を取れり、但し其理由は繁に  
涉るを以て、大抵省略す。

(イ)清韓兩國の地名(例外あり)、及び二三の場合を除き、イギリスにて呼べる原名を、  
本文の左側に記入し、これに番號を附し、下段に同ト番號を以て、ドイツ、フラン  
スの原語を重ねて記す、其例左の如し。



本文。

ヨーロッパ

16. Europe

下段。

16. Europa  
Europe

上はドイツ。  
下はフランス。

(ロ)イギリス的に非る地名の場合に於ても、本文の左側に、之に相當する原名を記し、下段にドイツ、フランスの原語を重ねて記す、其例左の如し。

本文。

下段。

裏海

5. Caspian Sea

5. Kaspischer See  
Mer. Caspienne

(ハ)岬、島、海等の語に對しては、二三の例外を除き、大抵原語を省きたり、故に語尾に就て、不審を抱くこと勿れ、其例左の如し。

本文。

下段。

ペルシア海

8. Persian

8. Persischer  
Persique

(ニ)冠詞は、特別なる場合の外、特に、これを除きたり、故に必要あるときは、これを補加して授くべし。

(\*)原名一定せざるものは、アムドレー、スチーレン等、信用すべき地圖より、これを採定し、最も普通なるものを用ひたり。

(ハ)に述べたる理由により、原名の終りに、句讀・等を切ることを廢したり。  
七、教授當局者は、最近統計年鑑を参照すべし、第十八日本帝國統計年鑑は、明治三十二年十二月に出版せらるべき豫定にして、其價凡貳圓七拾錢なり、世界に關するは Statesman's Year-Book を良しとす、最近のものは ロンドンに於て、明治三十二年二月に出版せられたり、但し丸善にて價凡そ五圓五拾錢なり、又余が別に著す所の、新撰大地誌、前篇世界之部、卷之一、及び卷之二は、本書に對して、必要な参考書なり、但し第三冊の出版を以て世界の部を完成すべく、其實行の日も近きに在り。

八、本書に對するの地圖は、練習用白圖と共に、別の上梓す。

九、本書は、成る可く、材料を豊富にしたるを以て、適當なる加



除をなせば、中學校の教科用たるも、同時に師範學校の教科用たるを得べし、これ編纂上、當初より注意したる所なり。

十三、外國語の原名を加へたるは、是等三外國語の一を、中等教科の上に課する學校にも適せしめんが爲めなり、然れども、これが爲めに混雜を招くの憂を慮りて、ドイツ、フランスは下段に置くの注意を取れり。

十一、本書は日本之部と體裁を一にせしむる爲め、特に注意を加へたり、今一々爰に贅せず。

十二、從來外國地理を教ふるの上に於て、往々世人の誤解せる二大缺點あり、一は**自ら尊ぶの極**、**排外的思想に陥り**、一は**自ら卑むるの極**、**外國崇拜の主義に傾けり**、本書に於て

は、力めて此弊を避けたるも同時に、列國の真相、世界の現状、有の儘にこれを記載し、成るべく議論に涉らず、而して本書の終りに於て、**本邦の位置**なる一章を加へたる、著者微意の在る所、具眼の士、これを歡迎するに吝ならざるは、余の確信する所なり。

明治三十二年十一月

山上萬次郎識



訂正撰地理。外國之部。目次。

第一章。世界總論。

第一節。天文地理。

第二節。地文地理。

第三節。人文地理。

第二章。アジア。

第一節。總論。

第二節。北部アジア。

一、シベリア。

二、中アジア。

三、コーカサス。

一頁

一。

二。

六。

一九。

一九。

三五。

三五。

四五。

四五。



第三節。西部アジア。

五〇。

一、イラン諸邦。

五〇。

甲、ベルチスタン。

五〇。

乙、アフガニスタン。

五〇。

丙、ヘルシア。

五一。

二、アラビア。

五三。

三、アジアトルコ。

五四。

第四節。南部アジア。

五七。

一、印度。

五七。

附セイロン。

六三。

附ポルチユガル領印度。及フランス領印度

六三。

附チポール及ブータン。

六三。

二、印度支那。

六三。

甲、フランス領印度支那。

六四。

乙、シヤムロ。

六六。

丙、イギリス領海峽殖民地。

六七。

丁、ビルマ。

六八。

三、マレイ群島。

六八。

第三章。オセアニア。

七一。

第一節。總論。

七一。

第二節。邦土誌。

七一。

一、オーストララシア。

七一。



甲、オーストラリア。	七一。
乙、タスマニア。	七八。
丙、ニューギニア。	七九。
一、マレイシア。	七九。
二、ポリネシア。	八〇。
三、ボリネシア。	八〇。
第四章。 ヨーロッパ。	八五。
第一節。 總論。	八五。
第二節。 ロシア。	九二。
第三節。 スウェーデン、ノールウェー。	九八。
第四節。 デンマーク。	一〇一。
第五節。 ドイツ。	一〇二。

第六節。 オーストリア、ハンガリー。	一〇八。
第七節。 スイス。	一一一。
第八節。 フランス。	一一三。
第九節。 ベルギー。	一一八。
第十節。 オランダ。	一二〇。
第十一節。 イギリス諸島。	一二三。
第十二節。 スペイン。	一三〇。
第十三節。 ポルトガル。	一三三。
第十四節。 イタリア。	一三五。
第十五節。 バルカン半島。	一四一。
第五章。 アフリカ。	一四七。



第一節。 總論。

一四七。

第二節。 アフリカ邦土誌。

一五四。

第六章。 アメリカ。

一六二。

第一節。 總論。

一六二。

第二節。 南アメリカ總論。

一六三。

第三節。 南アメリカ邦土誌。

一六八。

第四節。 北アメリカ總論。

一七六。

第五節。 北アメリカ邦土誌。

一八二。

一、西印度諸島。

一八二。

二、中央アメリカ。

一八五。

三、メキシコ。

一八七。

四、合衆國。

一八九。

五、イギリス領北アメリカ。

一九九。

第七章。 東部アジア。

二〇六。

第一節。 支那。

二〇六。

總論。

二〇六。

地方誌

二三〇。

イ、支那本部。

二三〇。

ロ、滿州。

二四二。

ハ、蒙古。

二四六。

ニ、新疆省。

二四七。

ホ、青海。

二四八。



へ、西藏。

二四九。

附香港。

二五〇。

附澳門。

二五一。

第二節。朝鮮。

二五二。

總論。

二五二。

地方誌。

二五八。

京畿道。

二五八。

南韓。

二五九。

北韓。

二六二。

第三節。本邦の位置

二六四。

訂新撰地理。外國之部。挿畫目錄。

シベリア犬橋。

四二に對す

パークーの石油泉噴出。

四九。

アラビア人の帳幕生活。

五三。

ヒマラヤ山系の遠望。

五八。

印度人象に乗れる圖。

五九。

印度の榕樹。

六一。

フィリッピン群島の水上生活。

七〇。

オーストラリアの土人。

七五。

オーストラリアの金田。

七六。

ニュージージーランド土人の文身。

八二。



- ノルウエイの峽灣。 九九。
- ハンブルヒ港。 一〇六。
- ハンガリーの平原。 一〇九。
- パリーの凱旋門。 一一六。
- パリーの公園。 一一六に對す
- ロンドンの水晶宮。 一二八に對す
- ヴェスヴィアス火山。 一四〇。
- スエズ運河。 一五五。
- エジプト三角塔及び男面獅身の像。 一五六。
- エロンピアの風俗。 一六九。
- パタゴニア人馬を捕ふるの圖。 一七三。

- ブラジルの鰐。 一七四。
- 合衆國コロラド大峽谷。 一九一。
- アメリカインデアンの生活。 一九二。
- 大ニユーヨーク高架鐵道。 一九六。
- ナイアガラ瀑布。 二〇〇。
- グリーンランドの景及びエスキモー人の小屋。 二〇三。
- 阿片烟を吸ふの圖並に纏足。 二一八に對す
- 一輪車と漢人。 二三〇に對す
- 萬里の長城。 二四五。
- 朝鮮人の風俗。 五二四に對す







正訂 新撰地理。 外國之部。

理學士 山上萬次郎著。

第一章。 世界總論。

第一節。 天文地理。

一、位置。地球は、太陽系中の八大遊星の一にして、金星と火星との間に横はり、太陽との距離平均三千八百萬里あり。

二、形及び大きさ。地球は、兩極に少しく扁平なる球體にして、其最短直徑の長さ、三千二百三十八里、最長直徑の長さ、三千二百四十九里、其面積三千三百萬方里あり。

三、運動。地球の運動に二種あり、自轉及び公轉これなり、自轉は晝夜の別を生じ、公轉は四季の差を生ず。

(世界總論) 天文地理

1. Rotation  
Rotation

2. Revolution  
Révolution

Erde  
Terre



東四兩半球の緯線はカナの分點に於ては赤道を通過する

陸地は二千萬八百里に及ぶ。水陸兩半球に分つことを得べし。

四、區劃。地球自轉の軸(地軸)の兩端(極)二點を起點とし、經緯線を作りて、地球上に於ける位置と區劃とを定む。經線はイギリスのグリニッチを通過するものを本初子午線とし、西經十七度四十七分の線(アフリカの西なるカナリヤ諸島を通ず)によりて、地球を東西兩半球に、又赤道によりて地球を南北兩半球に分つ、而して地球の表面は、水と陸とに分れ、其比は凡そ二、八と一との如く、且陸は北半球に多く、水は南半球に多し、よりて地球を水陸兩半球に分つことを得べし。

### 第二節。地文地理。

#### 一、陸界。

區分。陸地は、東大陸及び西大陸に分る、更にこれを細別

して六大陸とす、即ち東大陸は、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニア、の四よりなり、西大陸は、北アメリカ、及び南アメリカより成る。

1. Asia

2. Europe

3. Africa

4. Oceania

5. North America

6. South America

主軸に於ては、大抵南北に走り、中央に平地を存す。

コロンビア山系、アンデス山系、の總稱なり。

エヴェレスト峰の高さは二万九千九百尺、海面より低きものは千三百尺に及ぶ。

地勢。東大陸は東西に、西大陸は南北に長く、山脈の主軸此最長の方向に一致して、大陸の中央よりも一方に偏在す。此現象は、殊に西大陸に於て顯著にして、コーデレラ山系は西方の海岸に接近して南北に走り、従て地勢は其一方に急斜し、他方に緩斜して、大平原をなす。

地面の最高點は、ヒマラヤ山系のエヴェレスト峰にして、海面以下に位する窪地の最たるは、死海の面なり。

海岸線は、大抵北西及び北東の方向を取るを以て、陸は多く北に開き南に縮り、大なる半島は、南方に向て突出す、又海

- |                                     |                        |                     |
|-------------------------------------|------------------------|---------------------|
| 5. Nord-Amerika<br>Amérique du Nord | 3. Afrika<br>Afrique   | 1. Asien<br>Asie    |
| 6. Süd-Amerika<br>Amérique du Sud   | 4. Oceanien<br>Océanie | 2. Europa<br>Europe |



岸線は、北半球に於てよく發達す、これ其文化に遲速を生じたる一因なりとす。

### 二、水界。

區劃。地球上の水を洋海と内陸の水とに分ち、洋海を大洋及び副洋に分つ、大洋に五あり、太平洋、大西洋、印度洋、北氷洋及び南氷洋これなり。  
1. Ocean 2. Pacific O. 3. Atlantic O. 4. Indian O. 5. Arctic O. 6. Antarctic O.

副洋は、獨立の海流を有せず、又大洋と全く絶縁するときは存在すること能はざるものにして、地中海、日本海の如し、内陸の水、即ち河湖の巨大なるものは、西大陸に多し、即ちアマゾン河、ミシシッピ河及びシユーベリオル湖以下の五大湖此陸中にあり。

東大陸には、無口湖頗る多く、何れも鹹湖なり、就中、最も大

ア、世界第一の淡水湖  
シ、第一の淡水湖  
ミ、第一の淡水湖  
ヒ、第一の淡水湖  
長、第一の淡水湖  
の、第一の淡水湖

- |   |                                     |                               |
|---|-------------------------------------|-------------------------------|
| 5. Nord-Eismeer<br>O. Glacial Arctique  | 3. Atlantischer O.<br>O. Atlantique | 1. Ocean<br>Océan             |
| 6. Süd-Eismeer<br>O. Glacial Antarcique | 4. Indischer O.<br>O. Indien        | 2. Grosser O.<br>O. Pacifique |

なるは裏海にして、實に世界第一の大湖たり。

これ等河湖の水には、往々内陸に終始して、全く内地灌域を有するものあり、アジアの内地灌域は最も廣大なり。

### 三、氣界。

溫度。地球上の最寒地は、北アメリカの北部なる多島海中にして、シベリアの北部これに次ぐ、最熱地は、サハラ沙漠より、アジア南部に連れる、一帯の地なり、又北半球の温帯に於ては、大陸の西岸は、東岸より温度高くして、且雨量多し、これ海流及び風の方角によるなり。

雨量。沿海地殊に大陸の西岸は、大抵雨量多し、地球上雨少き地は、サハラよりゴビに至る各沙漠地にして、雨最も多き地は、印度のカルカッタ四近なり。

沙漠の無雨なるは、山脈の遮るるに由り、印度の多雨なるは、季候風の恵になる



風。太平洋、大西洋には貿易風發達し、印度洋は、季候風の本地なり、アジアは、多く此風に支配せらる、支那南海には、大風、西印度諸島には、ハリケイン(一種の颶風)屢起るを以て名あり、極四近は氣壓低くして、西風常に吹くを見る。

氣候は、又地勢に従て大差あり、洋海の影響を受くる所は、<sup>手アス</sup>溫度の差少く、雨量多けれども、大陸の内部は、正にこれに反せり、海の影響の有無により、氣候を大別して大陸性氣候及海洋性氣候となす、中央アジアは、大陸性氣候の好例なり。

### 第三節。人文地理。

人種。世界の人口は、凡そ十五億あり、而して皮膚、毛髮及び頭蓋骨の如何により、これを蒙古、アメリカ、コーカシアン、  
1. Caucasian  
2. Ethiopian  
3. Malay

- 1. Kaukasische Caucasique
- 2. Äthiopische Äthiopique

- 3. Malayische Malaise

蒙古人種は八千萬  
シリアの大部に  
住し其數五億  
コーカシアン人種は六億  
住し其數六億  
コーカシアン人種は四千萬  
住し其數四千萬  
エシオピアン人種は九千萬  
住し其數九千萬  
マレイ人種は五千萬  
住し其數五千萬

蒙古人種。皮膚黄色に、顔は廣くして扁平なり、額骨秀で、眼小にして目皆舉り、頭髮硬にして黒く、鬚髯少し。

コーカシアン人種。皮膚白皙にして、額廣長に、顔細長く、鼻隆く、目皆舉らず、頭髮は、褐色を帯びて縮れ、鬚髯に富む。

エシオピアン人種。皮膚黒色に、鼻低くして太く、腮出で、唇厚く、額扁平、頭髮黒くして短く、且縮れ、鬚髯少し。

マレイ人種。皮膚褐色にして、外容は、蒙古人種の如し、頭蓋并に眼は、コーカシアン人種の如く、鬚髯少し。

アメリカ人種。皮膚は銅色を帯び、鼻隆く、額骨聳へ、眼長くして眸黒く、頭髮直にして黒色なり、鬚髯少し。

人類は自然力を利用し、又能く自然の狀況に應化することを得るを以て、地球上全く其住居する所とならざるの地殆んどなし、然れども動植物と同じく氣候、食物等自然の狀況により、心身發達の上に大なる差異を生ずることを免れ



發達せる人種  
は北半球の北  
部に起りたり

ず、温帯地方の人は、寒帯地方の人の如く、衣食の爲めに、心身の全力を奪はるゝに至らず、又熱帯地方の人の如く、逸居するときは、其生を遂ぐることも能はざる代りに、勤勞して其業を勉むるものは、常に能くこれが報酬を得べし、故に人々奮發して、諸種の業務に勉勵し、従て人文の進歩も、他の二帯の人類に超絶するに至れり。

生業。人文發達の度に従て其生業亦各、其類を異にす。

- (一) 最下級に位するものは、漁獵のみを以て其生業とす。
- (二) 其次は、遊牧の野民にして、水草を逐ふて轉居し、天幕を以て家となす。アラビア人は、多く此階級に屬す。
- (三) 第三階級に至れば、民衆は、一所に定住し、其食料は、主として、これを耕作物に仰ぐもの、これなり、これに伴ふて、牧畜、鍛業、手工業の發達を促し、耕作地の近傍に家屋を建築し、遂に村落、都市を成すに至る。

(四) 其初め各人の需用は、衣食住の必需品にあれども、漸次實用品に加ふるに、便益品を以てするに至る、而して、これ等の物品を自ら製造し、又は他と交換するものあり、茲に於てか、諸種の工業起り、貿易始まる。

(五) 最後には、智心を満足せしむる爲め、學術技藝に従事するもの出づ。

國家。人類團體の最も自然に出で、且最も單純なるものは、家族なり、夫れより進て、村落を構へ、都邑を成す、其相互に言語風俗習慣を同くするものを總稱して、これを民族と云ふ、一若くは數民族國土を有し、共に一主宰者を戴きて、完全なる獨立の團結をなすときは、始めて國家を形成す。

現今世界中に國を立つる民族、其數甚だ多し、アシア洲には、我大日本、支那、清、朝鮮、韓、シヤム、ロあり、ヨーロッパには、最も多く、就中イギリス、ドイツ、フランス、オーストリア、イタリ、ロシアの六國最も盛なり。

西大陸にて、最も有名なるを、北アメリカの合衆國となす、其南にメキシコあり、南アメリカには、ブラジル、アルゴエンチオン、チリ、ペルー等の諸國



あり。

政躰。現今世界に行はるゝ重なる政躰二あり、君主政治及び民主政治これなり、君主政治とは、君主上に在りて、一國を統治するものにして、其中亦自ら二種に分る、專制君主制及び立憲君主制これなり。

民主政とは、國民の選舉したる代議士、主として國政を料理するものにして、行政部の長を大統領と稱す。

各國政治上の便宜に依り、領土を大小の管轄區に分割するを例とす、中央政府の所在地は、これを首府と稱す、今其主要なるものを左に掲ぐ。

國名。

日本。

支那。

朝鮮。

政體。 首府。

○立憲帝政。 東京。

專制帝政。 北京。

專制帝政。 漢城。

イギリス。

フランス。

ロシア。

ドイツ。

○立憲帝政。 ロンドン。

△民主政。 パリ。

△立憲帝政。 セント、ペートルスブルグ。

○立憲帝政。 ベルリン。

△立憲王政。 ヴィエナ。

△立憲王政。 ローマ。

△立憲王政。 マドリット。

△專制帝政。 ヨンスタンチノープル。

△民主政。 ワシントン。

ローマに於ては主としてラテン語を通行する

國語。 國語は、國民の特徴なり、世界中最も多數人の使用する國語は、支那語(凡四億人)にして、其最も廣く世界の各部に行はるゝものは、イギリス語(凡一億人)なり。

宗教。 今世界の主なる宗教を擧ぐれば左の如し。

一、佛教。 釋迦の教旨にして、アジア東部の人民これを信仰す。



- 二、婆羅門教。婆羅門を天地の主宰として信奉し、印度に行はる。
- 三、基督教。耶穌基督の教旨にして、専らヨーロッパ、アメリカ兩大陸に行はる。舊教、新教、ギリシヤ教の三大別あり。
- 四、回教。マホメットの教旨にして、西部アミア、トルコ、北部アフリカの人、これを信奉す。

### 産業。

天産物。 礦産は、廣く地球の各部に播布し、特に山岳地方に多し、礦物の中、金、銀、銅、鐵、石炭、石油等を、最も主要なるものとす、就中鐵及び石炭は、實業上及び軍事上、最も缺ぐ可らざるものなり。

鐵及び石炭の産出は、合衆國及びイギリスを以て最多額とし、ドイツこれに次ぐ、金は合衆國、ロシア、チイストラリア、南部アフリカ、銀は合衆國、メキシコ、銅は合衆國、スペイン等より産す、我國よりも亦多量に産出す、石油業の最も盛大なるは、合衆國、ペンシルヴァニア州にして、裏海の近傍も亦

其産出に富む、金剛石の産地は、ブラザールの内地及び南アフリカを第一とす。

植物は、溫度、水分、土質の如何に依りて、支配せらる、熱帶地方は種類極めて多く、形狀長大、花實艷美にして、液汁に富む、而して極地に至るに従ひ、植物は漸々稀疎となり、其種類も亦減少す。

世界中最も暖濕なる地は、アマゾン河の流域にして、植物の生育も此地に於て、最も盛なり、温帶地方は植物の生育も、亦寒熱帶の中庸を得、椰子樹其跡を絶ち、檉栗の如き落葉樹及び松、杉、檜等の松柏類、これに代て森林を成す。

吾人の衣食に供するは、即ち耕種植物にして、就中穀物を最とす、本邦、支那の人は、米を常食とし、ヨーロッパ、アメリカの人は、小麥を常食とす、本邦、印度、支那は有名なる米産地に



して、ロシア及び合衆國は、小麥を多く産す。其他棉花、藍、珈琲、甘蔗、胡椒、丁子等は、熱帶地方の耕種植物にして、温帶地方には茶、桑、葡萄、林檎、亞麻、煙草等を栽培す。ミシシッピ河の灌域、今日は全く玉蜀黍棉花の圃となれり。

動物も亦、極地より赤道に近くに從ひ、漸々其種類及び美麗の度を増加し、形状も亦巨大となる。象、獅子は熱帶地方の産なり、獨り海産動物の巨大なるもの、美なる毛皮を有するものは、却て寒帶地方に多し。鯨、海馬、膾炙獸、臘虎は此例なり。

東大陸の動物は、西大陸に比すれば、巨大にして、勇猛なるを常とす。象、獅子、虎、河馬、狸、孔雀、鷲鷹の如きは、其特有産なり。西大陸には、アメリカ虎、大蝙蝠、樹懶及びコンドル、鳥、蟒蛇等を産す。オーストラリアは、有袋類と稱する下等哺乳動物の特産地たり。

馬、牛、羊の如き家畜は、人為によりて各地に轉移せられ、大に其播布の區域

東大陸、西大陸、オーストラリアは生物の播布上各自ら別區域をなす

を擴張し、アメリカ、オーストラリアにては、今や一大富源を成すに至れり。又羊毛の大産地はオーストラリア、アルマニエンチーン、ロシア及び合衆國トス。蠶の主産地は、本邦支那、イタリヤ等とす。

貿易。前述の如く國によりて天産物の種類に異同あり、産額に多少あるを以て、有無相通ずるの貿易は、各國年々盛大を極め、イギリス國の如きは、明治三十一年に於ける外國貿易額七十六億圓に達せり。

交通。航路、鐵道、郵便、電信の四者を以て現今世界交通の主なる機關とす。

世界航路の主なるものを擧ぐれば左の如し。

北アメリカのサンフランシスコ若くは、ヴァンクーヴァーより、横濱に至るの一線、オーストラリアに至るの一線、新大陸の西岸各港に至るの一線。



香港より横濱に至るの一線、オーストラリアに至るの一線、アシアの南岸を経てヨーロッパに至るの一線。

イギリスのソウシアフル港より、一方はヨーロッパ大陸各港へ、一方は南北兩アメリカの各港へ、一方は喜望峯又はスエズ運河を経て、アシア及びオーストラリアに至るの諸線。

若しニカラガ運河落成の曉には、同運河は、交通の一大要點として、<sup>ハバナ</sup>スエズ運河と相對するの位置に立つべきなり。

現今世界商船の總計は、四萬隻、二千萬噸にして、イギリスは、凡そ其半數を有し、合衆國、ドイツ、ノルウェイこれに次ぐ。鐵道。最近時代に於て、人文の上に一大影響を與へたるものは鐵道なり、鐵道の布設最も普きは、ヨーロッパ諸國なり、北アメリカにはロッキーマウンテン系を横斷する所の連合太平洋鐵道、カナダ太平洋鐵道、南太平洋鐵道、北太平洋鐵道等あり。

本邦商船の噸數は、明治三十一年に於ては、六十一萬噸に達し、英國は、六十二萬噸に達す。

北アメリカの鐵道は、合衆國の噸數は、半ばを有す。

りて東西洋の間を貫通す、アシアには、未だ各國の間を連接するものなしと雖ども、近時シベリア鐵道は工事中なり。

郵便。郵便の制度は、其遞送の迅速にして、且區域の廣大なるに從て、其效用益、大となるを以て、明治七年、スウィツル國ヘルン府に各國の委員會合して、二十二箇國間の同盟成り、我國も明治十年一月其聯合に加盟したり、現今此聯合に同盟したるもの、諸殖民地を合するとき、實に八十餘國ありと云ふ。

電信。電信は、郵便と相須て交通の方便を最も完全ならしむるものにして、郵便と同じく又各國聯合の必要あり、現今萬國電信聯合に加盟したるもの總て四十一國あり、我國も明治十二年此同盟に加はりたり、今世界交通の主要なる



### 電信線路を擧ぐるときは、左の如し。

陸上線には、セントペートルスブルグよりウラヤオストツクに達するシベリア線、北アメリカの東西兩岸に通ずる線路等あり。

海底線には、東洋と西洋との聯絡線並にヨーロッパ、アメリカの間を連接する大西洋海底線あり。

東西洋聯絡線は東京長崎上海香港より、シंगाポールを経て、印度の東岸マドラスに通じ、更に其西岸ボンベイより、紅海を経て、エジプトのアレキサンドリアに達し、地中海線によりてマルセイユに達す、又長崎よりウラヤオストツクに達する海底線あり、シベリア線に連接す。

大西洋海底線は、ヨーロッパよりアメリカに通ずるもの數多あり、近時本邦及びアメリカの間に太平洋海底電線を架設するの計畫あり。

## 第二章。アジア。

I. Asia

### 第一節。總論。

位置。アジアは、東半球の北部を占め、ヨーロッパの東、アフリカの東北にあり。

境界。北は北氷洋、南は印度洋に臨み、オーストラリアに對し、東は太平洋を隔て、遙かに北アメリカに對し、西はウラル山脈、裏海、黒海、地中海等によりて、ヨーロッパに境し、スエズ運河を含める地峽及び紅海によりて、アフリカに接す。

廣袤。東西の長さ最も大なる所、二千五百餘里、南北の幅最も廣き所、二千三百餘里あり、面積凡そ二百九十萬方里にして、地球上陸地全躰の三分の一を占む。

コイカサス地  
方にアツアの  
中に算入す

1. Asien  
Asie

2. Ural  
Oural

3. Schwarzes M.  
M. Noire

4. Rothes M.  
M. Rouge



パミール高原  
は世界屋脊の  
通稱あり

地勢。アジア大陸の地勢を知らんとせば、先づパミール高原に目を注がんとす。この高原は、アジアの中央より少しく南に偏し、印度の北にあり、此パミール高原より高大なる山脈、東北東、東南、南、西の五方に走る。

其東北に向ふものは、天山山系となり、阿爾泰山系に連り、更にヤプロノイ、スタノヴォイ兩山脈に連りて、アジアの東北隅に至る。  
 1. Yablonoï  
 2. Stanowoi  
 又東に向ふものは、崑崙山系となり、二分して、一は祁連山、陰山等の諸山脈を起し、興安嶺によりて、彼ヤプロノイ山脈に連り、一は支那本部に入り、南北に分れ、揚子江の南北に連亘し、其脈延て本部の地體に連る、其南嶺の西部、西藏に接する邊は、山脈南北に並走して、横断山脈の名あり。  
 3. Kuen-lun  
 パミール高原より東南に走るものは、有名なるヒマラヤ山系にして、其東部は横断山脈に接す、又同高原より西南に走るものは、サリマン山脈、西方に走るものは、ヒンヅークーシユ山脈にして、  
 4. Caucasus  
 1. Hindu Kush  
 2. Elburz  
 3. Asia Minor  
 5. Suliman  
 アの西端に終り、コーカサス山脈は、裏海と黒海との間に横はりて、これを並

- |                              |                       |                          |                         |                   |
|------------------------------|-----------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------|
| 1. Hindukusch<br>Indou-Kouch | 5. Suliman<br>Soliman | 3. Kuen-lun<br>Kouen-lun | 1. Jablonoi<br>Jablonoi | 1. Pamir<br>Pamir |
| 2. Elburz<br>Elbourz         |                       | 4. Himalaja<br>Himalaya  | 2. Stanowoi<br>Stanowoi | 2. Altai<br>Altai |

*Ma la t'm i llo g*

走す。

斯の如く、パミール高原より、山脈支出するを以て、アジアの地勢自ら左の五部分に分る。

北部アヲア、ヤプロノイ及びヒンヅークーシユ兩山脈以北の地にして、シベリアの大部をなし、低平なる原野多し。

中央アヲア、阿爾泰山系とヒマラヤ山系との間は、中央アヲアの高原にして、ゴビ沙漠は、其北部に、西藏高原は、其南部にありて、中間に塔里木河の低地を挟む、中央アヲアの東境は、即ち興安嶺より、横断山脈を含める、支那本部の西部によりて成る、これより以東は、即ち東部アヲアに属す。

東部アヲア、此區域は、本邦、朝鮮、滿州、支那本部を包含し、山地多きも、其中に支那北部の大平原あり。

南部アヲア、ヒマラヤ山系以南、サリマン山系以東を含み、南部にデツカン高原及び印度大平原あり。  
 2. Deccan

西部アヲア、サリマン山脈以西、ヒンヅークーシユ山脈以南に當れる地

(マシヤ) 概論

(111)

- |                   |                   |                               |
|-------------------|-------------------|-------------------------------|
| 2. Dekan<br>Dékan | 1. Tarim<br>Tarim | 3. Kleinasien<br>Asie Mineure |
|                   |                   | 4. Kaukasus<br>Caucase        |







は、此洋の北部を二分し、東をベンガル灣、西をアラビア海とす、アラビア半島は、又東西に狭長なる灣を有す、東はヘルシア灣にして、此灣とアラビア海と通ずる所をオマーン灣と云ひ、西は紅海にして、此海と印度洋と通ずる所をアデン灣と云ふ。  
 4. Aden  
 紅海を過ぎ、スエズ運河を過ぐれば、地中海に入る、此海に沿へるアマア沿岸の西方には、ヨーロッパに屬する群島羅列して、多島海の稱あり、これよりマルモラ海に入り、ボスフォラス海峡を過ぎ、黒海に入る、アマアトルコの黒海沿岸は、區域短く、極めて出入に乏しく、良港稀なり。

水系

の雙子河、三、中心に一大分水界の存在するを特色とす。

沿海瀝域を有する主要なる河は、北氷洋斜面區域に、オビ、エニセイ、レナ、太平洋斜面區域に、黒龍江、黄河、揚子江、珠江、印度洋斜面區域に、サルウイン、イラワディー、ブラハプトラ、ガンヂス、インダス、シヤテル、アマアあり。  
 11. Amur 12. Hoang-ho 13. Yang-tse-kiang  
 8. Obi 9. Yenissei 10. Lena  
 14. Salwin 15. Irawadi 16. Brahamaputra 17. Ganges 18. Indus 19. Shat-el-Arab

- |           |             |              |             |         |               |
|-----------|-------------|--------------|-------------|---------|---------------|
| 10. Lena  | 8. Ob       | 7. Bosphorus | 5. Archipel | 3. Oman | 1. Bengalen   |
| Lena      | Obi         | Bosphore     | Archipel    | Oman    | Bengale       |
| 11. Amoor | 9. Jenissei |              | 6. Marmara  | 4. Aden | 2. Persischer |
| Amour     | lenissëi    |              | Marmara     | Aden    | Persique      |

内地瀝域は殆ど四分の一を占む

瀝域の面積は我國より少し多く、大にして其面積は地中海の下のあり

内地瀝域を有する主要なる河は、ウラル、シルダリア、アムダリア、伊犁、塔里木なり。

湖沼

アジアには、鹹湖の大なるもの多し、ユーラシア大陸の中間に裏海あり、これに次ぐを、アラル海及バルカッシユ湖とす、其他支那の青海及び羅布湖共に名あり、以上は何れも内地瀝域に屬せり、淡水湖にては、大なるもの少し、其中シベリアのバイカル湖、支那本部の洞庭及び鄱陽の二湖稍大なりとす。

氣候

アジア大陸の大部は、緯度上、温帯に位すと雖ども、其氣候は、所謂大陸性氣候にして、バミール高原、ゴビ沙漠、西藏高原、これが適例なり、南西の高原も亦乾燥なる氣候を有す、即ちアラビア及びヘルシアの高原これなり。

- |                   |                  |             |                    |
|-------------------|------------------|-------------|--------------------|
| 18. Indus         | 16. Brahamaputra | 14. Saluen  | 12. Hoang-ho       |
| Indus             | Brahmapoutre     | Salouen     | Hoang-ho           |
| 19. Schat-el-Arab | 17. Ganges       | 15. Irawady | 13. Jang-tse-kiang |
| Chat-el-Arab      | Gange            | Iraouadi    | Yang-tse-kiang     |



シベリアも、寒暑共に烈しく、其最北部は地球上最寒地の中に數へられ、地面下深く永久凍結し、盛夏と雖ども、其表面融解するに過ぎず。

南部アジアの大部及び西部アジア沿岸は、熱帶性氣候を有し、特にカルカッタ四近は、地球上雨量最も多き所にして、其北部なる中央アジアと正反對なり。

西部アジアに屬する小アジアの大部は、氣候頗る溫和なり、東部アジアの氣候は、多く海洋性氣候なり、然れども北アメリカ及びヨーロッパ西岸の同緯地方に比しては、溫度遙に低しとす。

アジアは、季候風能く發達し、該風交代の期節には、颶風起るを常とす、支那海にては、これを大風と云ふ。

本邦中部の氣候最も良好なり

海流中、ベーリング海峡より流れ來れる極流は、著しきことなしと雖ども、フィリッピン群島より東北に向へる、日本海流即ち黒潮は最も有名なり、印度洋の赤道海流は、勢稍弱し。

住民。アジアは、凡ての人種を包括し、黒人種及びマレー人種は、南部アジアの群島に多く、コーカシアン人種は、西部アジアの大部及び印度平原に多く、蒙古人種は、中央アジア及び東部アジアに多し。

人口凡そ八億三千萬にして、世界人口の凡そ半以上を占む、此中バミール高原、北氷洋岸なるシベリアの凍土帶、ゴビの沙漠は、殆んど無人の境なるに反して、ガンダス、楊子江、黄河の沖積平原は、世界上人口最も稠密なる地方に屬す。

- |               |              |           |               |          |
|---------------|--------------|-----------|---------------|----------|
| 28. Baikal    | 26. Aral     | 24. Tarim | 22. Amu Darja | 20. Ural |
| Baikal        | Aral         | Tarim     | Amou Daria    | Oural    |
| 27. Balchasch | 25. Eurasien | 23. Ili   | 21. Sir Darja |          |
| Balkach       | Eurasie      | Ili       | Syr Daria     |          |



文明。大體に就て、これを言ふときは、漁獵の民は、北氷洋岸より北緯六十五度に至る北帯の區域を占め、遊牧の民は、これより以南、北緯三十五度に至る中央の區域と、アラビア及びイランの地とを占有し、其他の印度、日本、支那、小アジアに於ては、農耕を業とする定住の民住居す。

教育は我國を除きては、實に云ふに足るものなし。

宗教。主要なるは、皆起源を此大陸に發しぬ、隨てアジア人民の信奉する宗教は、頗る多し、概するに、東部アジアは、佛敎の國にして、西部アジアは、回敎の國なり、北部アジアは、基督教徒及びシヤマン教徒多く、南部アジアは、婆羅門教徒及び回教徒多し、其他西藏には喇嘛教あり、ベルシアには拜火教行はる。

Shamanismus  
Chamanisme

邦制。地勢上より見れば、ヨーロッパは、ユーラシア大陸の一半島にて、アジアの附屬たるに過ぎずと雖ども、政治上より見れば、これに反す、我國を除くの外、支那、朝鮮、シヤム、ロ、ベルシアの如き、國勢振はず、アフガニスタン、チボール、ブータンの如き、其實イギリスの制肘を受け、北部アジアは、全くロシアの領地に歸し、南部アジアは、殆んどイギリス及びフランスの領地となり了れり、今邦制上より、アジアを細別すれば左の如し。

日本(帝國)

朝鮮(帝國)

東部アジア。

支那(帝國)

支那本部、滿州、附香港(イギリス領) 澳門(ポルトガル領)

蒙古、青海、天山南路、天山北路、西藏、**中央アジア。**

(アジア) 概論

- 1. Nepal  
Népaul
- 2. Bhutan  
Boutan



ロシア領アシア  
 シベリア  
 中アシア  
 コーカサス

北部アジア。

フランス領印度支那

東京  
 安南  
 コチン支那  
 カンボヂア  
 印度支那

シヤムロ(王國)

イギリス領海峽殖民地

イギリス領印度

ビルマ  
 印度半島

附

セイロン

フランス領印度

ポルチユガル領印度

印度

南部アジア。

ネポール(酋長國)

ブータン(酋長國)

イギリス領

オランダ領マレー群島

合衆國領

ベルチスタン

アフガニスタン(酋長國)イラン

ペルシア(王國)

アラビア

アシアトルコ附サイアラス(イギリス領)

西部アジア。

産業。アジアは、産物に富むと雖ども、富源は未だ十分に  
 開發せられざるものゝ如し、シベリア南部、支那東南部及び  
 印度平原等は農産、シベリアの南部及び支那の南部は林産、  
 ベーリング海峡四近は水産を以て著はれ、阿爾泰ウラル崑



崙の諸山脈は、貴金屬及び寶石の産を以て名高し、工業は未だ盛ならずと雖ども、近來印度及び本邦に隆起せる製造事業は、ヨーロッパ諸國の勁敵たるを示せり、貿易も非常に盛大を極め、横濱、上海、香港、カルカッタ、ボンベイは、各、其地方貿易の中心となれり。

交通。シベリア鐵道完成の日に至らば、ウラジオストツクよりセントペートルスブルグまで、十日餘にして達するを得べし、又海上に於ける世界の往還としては、地中海よりスエズ運河に入り、紅海を通じ、印度洋を横ぎり、支那海を経て太平洋を渡り、以て北アメリカに至るの線ありて、アデン、<sup>2. Aden</sup> ヨロンボ、シンガポール、<sup>3. Hongkong</sup> 香港、横濱は、寄泊の要港なり。アジア内地の交通に至りては、種々の障害あるがため、毫

- 1 St. Petersburg  
St. Pétersbourg
- 2. Aden  
Aden
- 3. Hong-kong  
Hong-kong

日本郵船會社  
の所請は、  
航路の船は、  
二週一回の  
往來をなす

シベリアの犬  
糧は有名なり

も未だ開けず、これを以て、内地は専ら馬又は駱駝に依り、北部にては馴鹿を用ひ、橇を引かしむ。

然れども、アジア河流の水利は、頗る大にして、大河の下流は如何なる大船をも、碇泊せしむるに足るもの頗る多し。

鐵道は前記シベリア鐵道の外、此支線たる東清鐵道あり、其落成の日も遠きに非ず、又トランスカスピアン鐵道ありて、其東端はバミール高原の西邊に延長せり、又本邦印度、アジアトルコには、鐵道の敷設普及せんどす。

電信は、道路及び鐵道に比して、遙に進歩し、ロシアのセントペートルスブルグよりウラジオストツクに通じ、又西トルケスタンを經て北京及び上海に達し、トルコのコンスタンチノーブルより、ボンベイ、マドラス、シンガポール、サイゴン



ン、香港、長崎に通じ、又シンガポールより、ジャバア及びオーストラリアのポート・ダルウィンに通じ、又ロシアのオデッサよりコーカサスを経、ペルシアのテヘランを経て、ボンベイに至る線あり、其他本邦、支那及び印度の内地には、電線の敷設普及せり、太平洋海底電線の敷設成功の日には、アジアと他大陸との通信は、一層便利なるべし。

アジアは世界第一の高山を有す。

アジアは世界第一の高原を有す。

アジアは世界第一の平原を有す。

アジアは世界第一の半島を有す。

最大の鹹湖あり(裏海)。

最暖の海水あり(紅海)。

最低の窪地あり(死海沿岸)。

アジア西南部の高温度は、熱の赤道たるサハラ沙漠に匹敵す。

4. Sahara

アジア北部の低温度は、世界の寒極たる北アメリカ多島海に伯仲す。

地球上最大なる無雨區域は、アジアの内部に在り。

4. Sahara  
Sahara

3. Teheran  
Teheran

1. Port Darwin  
Port Darwin

2. Odessa  
Odessa

地球上雨量最多の地は、アジアの南部に在り。

人口最も多き大陸なり。

人種最も多き大陸にして、主要なる人種は、アジアを起源地とす。

宗教最も多くして、主要なる大宗教は、アジアを起源地とす。

最古の邦國を有する大陸なり。

世界第一の大運河は、今より千三百年前に於て、開鑿せられたり。

世界第一の大鐵道は、明治三十八年に於て、開通せん。

要するにアジアは、大陸中の大陸にして、凡ての點に於て最大なる大陸なり。

### 第二節。北部アジア。

シベリア

Siberia

總論

位置及び境界。アジアの北部を占め、本部の西北に當る、

(アム) 北部アム

(三十五)

Sibirien  
Sibérie

Siberian  
Siberian war



其境界、北は北氷洋に面し、西はウラル山脈によりて、ロシアに接し、東はベーリング海峡を隔て、<sup>1. Alaska</sup> アラスカに對し、又オコック海、日本海に臨み、南は圖們江を以て朝鮮に、黒龍江を以て滿州に、阿爾泰山系によりて蒙古に接し、又ロシア領中アジアに接す。

面積は我邦の三十倍に當る

面積及び區劃。南北九百里、東西千七百里、面積、八十一萬餘方里あり、行政上東部シベリア、西部シベリア、黒龍江地方に三大別す。

地勢。地勢氣候の差異により、左の四部に區別す。

(イ)凍土帶。<sup>2. Tundra</sup> 凍土帶は、北緯六十五度以北の地域にして、地勢低平なり、海岸に近き所にては、地下深く凍結し、夏季に至れば、其の表面少しく融解して、廣大なる澤地をなす、冬季は

凍結地下六百六十尺に及ぶ

2. Tundra  
Toundra

非常の低溫にして、人の生活に堪へず。

(ロ)森林帶。北緯六十五度以南、五十五度に亘れる森林地帯を包括し、喬木密生し、猛獸徘徊す、夏季炎熱甚しく、無数の蚊虻發生し、猛獸尙これに堪ふる能はず。

(ハ)曠野帶。森林帶以南一帯の平地を總稱す、地味沃饒、氣候溫和にして、農産に富める所なり。

(ニ)山嶽帶。シベリアの西部、東部及び南部に綿亘する諸山脈地方の總稱なり。

海岸。北氷洋岸には、オビ灣深く灣入し、其東北にセウエロ岬あり、これアジア大陸の極北なり、これより南南東にレナ河口の三角洲あり、新シベリア群島其前に横はる、これより以東は屈曲極めて少く、其極點は西經百七十度なる東岬

(アツイ) 北部アジア

Severo  
Sévéro

1. Alaska  
Alaska



にして、ペーリング海峡の西邊なり。

太平洋沿岸は、カムチャツカ半島東北に在りて、南端を口

1. Kamchatka  
ハトカ岬とす、千島海峡を隔て、我千島列島のシユムシユ

2. Lopatka  
島に對す、此海峡の西は、オユツク海なり、樺太島は、韃靼海峡

3. Okhotsk  
の北門を扼し、同島の南端は、宗谷海峡を隔て、我北海道宗

谷と相對す、朝鮮の國境に近く、ペートル大帝灣あり。

水系。シベリアの河流は、大抵南方に發して北流す、而し

て支流の大なるもの多きが故に、少しく人力を加ふれば、ウ  
ラル山脈より太平洋に、又南方の高地より北氷洋に至るま  
で、殆んど間斷なく、水運の便を開き得べし。

オホ河は、シベリア最大の河なり、トボル、イルチツシユの諸支流を合し、オ  
6. Obi 7. Tobol 8. Irtysh  
ビ灣に近く、大小二派に分れ、海に注ぐ、其流身は漁業甚だ盛なり。

シベリアの全長は流  
航路の全長は流  
一萬里を越す  
氷結するの冬季  
便あり

長さは千四百  
里を越へ、  
河より長きも  
水はこれより  
少し

ニセイ河の二源は、共に北蒙古に發し、北流してオビ灣東の一灣に入る。  
1. Yenissei  
レナ河は、バイカル湖の北西に當れる際間に發し、北流して河口七派に分  
2. Lena  
れ、巨大なる三角洲を作りて海に入る。

黒龍江は、交通國防上共に最も緊要なり、北部蒙古に發し、滿州との境をな  
し、松花江、烏蘇里の二支流を合せて、北東に流れ、ニコライスクに於て、韃靼海  
3. Sungari 4. Ussuri  
峽の北門に注ぐ、全長一千二百里、江口より八百餘里まで吃水五尺の汽船を  
通ず。

湖水。バイカル及び興凱の兩湖稍、大にして、バイカル湖  
6. Baikal  
は、アジア淡水湖中の最大なるものなり。

氣候。南は山脈連亘し、温暖なる南風を遮り、北は一面打  
開けて、北氷洋より吹來る寒風を防ぐものなきを以て、他大  
陸の同緯度に比して、平均温度頗る低し。

住民。人口凡そ六百萬、面積に比し非常に稀少なり、土人

本邦人口密度  
の凡そ三分  
の一なり

(フツツ) 北部アジア

(三十九)

- |           |                |            |             |
|-----------|----------------|------------|-------------|
| 6. Baikal | 5. Nikolajewsk | 3. Sungari | 1. Jenissei |
| Baikal    | Nikolaievsk    | Soungari   | Yenissei    |
|           |                | 4. Ussuri  | 2. Lena     |
|           |                | Oussouri   | Lena        |

- |           |          |                     |                |                |
|-----------|----------|---------------------|----------------|----------------|
| 8. Irtysh | 6. Ob    | 5. Peter der Grosse | 3. Okhotsker   | 1. Kamtschatka |
| Irtych    | Obi      | Pierre le Grand     | Okhotsk        | Kamtschatka    |
|           | 7. Tobol |                     | 4. Tartarische | 2. Lopatka     |
|           | Tobol    |                     | Tarakaï        | Lopatka        |



は七十萬人に過ぎずして、今や大抵絶滅に赴かんとす。  
 宗教。主として基督教行れ、「シヤマン」教、佛教これに次ぐ。  
 教育。教育は、日に進み、中學校及び圖書館の設、次第に完備し、トムスク府に大學の設あり。  
 政治。行政管區は左の如し。

管 區

總督府所在地

東部シベリア總督管區

ニニセイスク省  
 イルクーツク省  
 ヤクーツク州  
 イルクーツク

沿黒龍江總督管區

トランスバイカリア州  
 黒龍江州  
 沿海州  
 樺太島  
 ハベロフカ

内務省直轄管區

トボルスク省  
 トムスク省

軍備。シベリアは、ロシア領中アジアの一部を加へて、三軍管の區域をなす、即ちオムスク、イルクーツク及び沿黒龍江の三軍管なり。

コサック兵は、屯田の制にして、最も驍勇と稱せらる。

海軍は、ウラジオストツクに鎮守府を置き、別にシベリア海兵團を設く、太平洋沿岸の防備として太平洋艦隊あり。

産業。氣候不良なれども、地味肥沃、農産に富み、牧畜盛なり、且つ山林鬱蒼として大木多し、又鑛物及び獸皮の名産あり、而して太平洋の沿岸は、海豚、海馬、鯨等の海獸頗る多く、世界三大漁場の一として、世に知らる。

(アジア) 北部アジア

Kosak  
 Cosaque

2. Tomsk 1. Schamanismus  
 Tomsk Chamanisme

千島近海も此  
 大漁場區域の  
 中なり



ハシベリア鐵道  
延今長さは本邦  
延長より長し  
明治三十八年  
此鐵道完成の  
日に一月の一  
周して得べし

東清鐵道の長  
さは一千四百  
哩にして目下  
工事中なり

マンモスの遺骸、北部に多く存し、數多の象牙を出す、鑛物も頗る多く、阿爾泰山の金、銀及び黑龍江の砂金最も名あり。交通。官道の驛には、馬車及び橋の設あり、橋は地方により馬、犬又は馴鹿を用ひ、これを牽かしむ、支道も馬車を通ずる所には必ず其設あり、最も重要なる郵便線路は、ウラジオストツクより、イルクーツクを経て、チューメンに至る官道及びキヤクタより北京に至る郵便線路なり。

有名なるシベリア鐵道は、西はロシアのチエリアピンスク府より起り、オムスク、<sup>2. Tiumen</sup>クーツクの諸府を經、バイカル湖の南岸に沿ひ、ストレテンスク府、ブラゴヴェスチエンスク諸府を經、<sup>4. Strjetensk</sup>ハバロフカ府に至り、これより烏蘇里河の右岸に沿ひ、ウラジオストツクに至る、全長殆んど五千

- 1. Mammuth Mammoth
- 2. Tiumen Tioumen
- 3. Tscheljabinsk Tcheliabensk
- 4. Strjetensk Strietensk
- 5. Blagowjeschtschensk Blagovietchensk
- 6. Chabarowka Khabarovka

哩、其既に敷設したる部分、二千哩に達しぬ、全部完成の日はウラジオストツクより、セントペートルズブルグ府に至るに、凡そ十日間にして達すべし。

シベリア鐵道の東部より分岐し、滿州の齊々哈爾を經、寧古塔を過ぎて、ウラジオストツクに達する線路は、有名なる東清鐵道にして、其大部は滿州を通過す。

郵便及び電線の設は普及し、樺太島及び本邦長崎へは、海底電線を通ず。

地方誌

トボルスク省の首府をトボルスク府と云ひ、トボル河とイルチツシエ河との會點に位す、<sup>3. Tobolsk</sup>トムスク省の首府をトムスク府と云ひ、大學校の設ありて、シベリア中第一の大都なり、<sup>4. Tomsk</sup>エニセイスク省の首府をクラスノヤールスク

- 1. Tsitsikar Tsitsikar
- 2. Ninguta Ningouta
- 3. Tobolsk Tobolsk
- 4. Tomsk Tomsk
- 5. Jenisseisk Ienisseisk
- 6. Krasnojarsk Krasnoiarस्क

(トマン) 北部トマン (四十三)



府と云ふ、エニセイ河畔に在り、イルクーツク省の首府をイルクーツク府といふ、東シベリア總督ここに駐在す、ヤクーツク州の首府をヤクーツク府と云ふ、レナ河の流域に位す、トランスバイカリア州の首府をチタと云ふ、本府の西南にキヤクタあり、清國の賣買城と茶及び毛皮の互市今尙盛んなり、チンメク府はチタ府の東にある一小都會なり。

1. Irkutsk  
2. Yakutsk  
3. Transbaikalia  
4. Chita  
5. Kiakhta  
6. Nerchinsk

黒龍江州の首府をブラニウエンスク府と云ふ、黒龍江岸に位し、黒龍江汽船航路の中點に當る。

7. Blagovieschensk

沿海州の首府をウラツオストツク府と云ふ、シベリアの門戸とも稱すべき地位を占め、シベリア鐵道の起點及び太平洋艦隊の根據地なり、又シベリア海兵團あり、毎年十二月下旬より翌年四月中旬に至るまでは港内氷結す、本邦人の在留するもの頗る多く、本邦貿易事務館及日本郵船會社支店あり、ハバロフカ府は、黒龍江の右岸に位し、沿黒龍江總督の駐在する所なり、ニホライエスク府は、黒龍江の河口左岸に位す、もと鎮守府の在りし地なり、樺太島もと我國の有たりし地なり、南岸のニルサエーフ港に我領事館あり。

8. Vladivostok  
9. Khabrovka  
10. Nikolajevsk  
11. Saghalien  
12. Korsakovsk

舞鶴軍港を距るここ四九一  
日本郵船會社  
汽船の航路に  
當る

二、中アジア

13. Central Asia  
總論

位置及び境界。北はシベリア、南はヘルシア、アフガニスタン及びイギリス領印度に接し、東は支那、西はロシアに接す。

面積及び區劃。凡そ本邦に八倍せり、行政上曠原、トルケスタン、トランスカスピアン14. Steppeの三部に分つ。

地勢。一帯に低平なる曠原にして、所々に沃地あり、唯南東部には、天山及びヒンズークーシユ兩山系の支脈綿亘す。水系。湖沼頗る多くして、大抵無口湖なり、河流はこれ等の湖に注入す、其大なるものを、伊犁河の外に、アムダリア及びシルダリアとす。

15. Turkestan  
16. Trans-Caspian  
17. Amu Daria  
18. Syr Daria  
(トクト) 北亞細亞

シルダリアは  
トルケスタン  
のナイル河を  
種々の水

- |                            |                                    |                                |                               |
|----------------------------|------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| 14. Steppe<br>Steppe       | 12. Korsakowsk<br>Korsakowa        | 10. Nikolajewsk<br>Nikolajewsk | 8. Wladivostok<br>Vladivostok |
| 15. Turkestan<br>Turkestan | 13. Central-Asien<br>Asie Centrale | 11. Sachalin<br>Sachaline      | 9. Chab rowka<br>Khabarovka   |

- |   |                             |                                    |                        |
|---|-----------------------------|------------------------------------|------------------------|
| 7. Blagovieschtschensk<br>Blagovietchensk | 5. Kiakhta<br>Kiakhta       | 3. Transbaikalien<br>Traasbaikalie | 1. Irkutsk<br>Irkoutsk |
|   | 6. Nertschinsk<br>Nerchinsk | 4. Tschita<br>Tchita               | 2. Jakutsk<br>Iakotsuk |



湖沼の大なるものを、裏海、アラル海、バルカッシユ湖とす、  
 裏海21. Caspian Seaの面積は、凡そ二萬八千餘方里、略我邦に等しく、其海面は、地中海面より低きこと八十四尺なり、此三大湖は、もと深く入り込みたる一大内海の跡にして、皆鹹湖なり。  
 氣候。大陸性の氣候を有すれども、稍溫和なり、雨量少く、早魃の患多し。

住民。人口凡そ八百萬、トルコ種最も多數を占む、近來「スラーヴ」種の移住者多し、人民は、多く回教を信じ、大抵遊牧を業とし、駱駝を用ひて、通商に従事す。

政治。ロシアは、軍政を以てこれを治む、トルケスタン總督は南部、オムスク總督は北部を管し、各部の酋長を統御す。交通。河湖の大なるものは、汽船を通じ、又トランスカス

人口の密度は本邦の十分の一なり

此鐵道は將來アシヤ中流を横断すべし

ピアン鐵道は、裏海の東岸より起り、サマルカンドを経て、將に支那の西境に達せんとす。

地方誌。

タシユケントは南部の中心にして、トルケスタン總督此に駐在す、  
 1. Tashkent  
 2. Samarkand  
 舊時ベルシア文學の中心なり、オムスクは、イルチツシユ河畔に在りて、オムスク總督此所に駐在す。  
 4. Omsk

三、コーカサス。

5. Caucasus  
 總論

位置及び境界。黒海と裏海との間に位する地方にして、北はマニツチ河によりて、ロシアに接し、南はベルシア及びアジアトルコに境す。

(アタ) 北部アタ

(四十七)

- 1. Taschkent Tachkend
- 2. Samarkand Samarkand
- 3. Buchara Boukhara
- 4. Omsk Omsk
- 5. Kaukasus Caucasus

- 16. Transkaspisches Transcaspien
- 17. Amu Darja Amou Daria
- 18. Sir Darja Syr Daria
- 19. Aral Aral
- 20. Balchasch Balkach
- 21. Kaspischer See Mer Caspienne



エルブルス峰  
の高さは一  
万八千八百  
七十九尺に  
達する

コーカシア  
ン種は此  
處にあり

面積及び區劃。 コーカサス山脈、中央を横斷し、北部を北  
部コーカサスと云ひ、南部をトランスコーカシアと云ふ。  
地勢。 コーカサス山脈、西北西より東南東に走る、南北兩  
側に急斜し、最高點をエルブルス峰と云ふ、此山脈のダリエ  
ル峠は、軍事上必要なる通路なり、又南には、小コーカサス山  
脈あり、其最高點をアラ、ツト峯と云ふ。  
住民。 人口凡そ一千萬、コーカサス種多く、容貌の美なる  
を以て名あり、音樂を好むこと殊に甚しく、多くは回教を信  
ず。

産業。 コーカサス山脈の兩側に低地ありて、地味肥沃、果  
實能く熟す、又バークの石油は、世界に名高し。

交通。 鐵道は、ロシアの鐵道に連接して、ダリエル峠の麓

- 1. Transkaukasien  
Transcaucase
- 2. Elbrus  
Elbrouz
- 3. Dariel  
Dariel
- 4. Ararat  
Ararat



薩 犬 ア リ ャ シ



に達し、南部にては、バツームより起りて、バークーに至る。

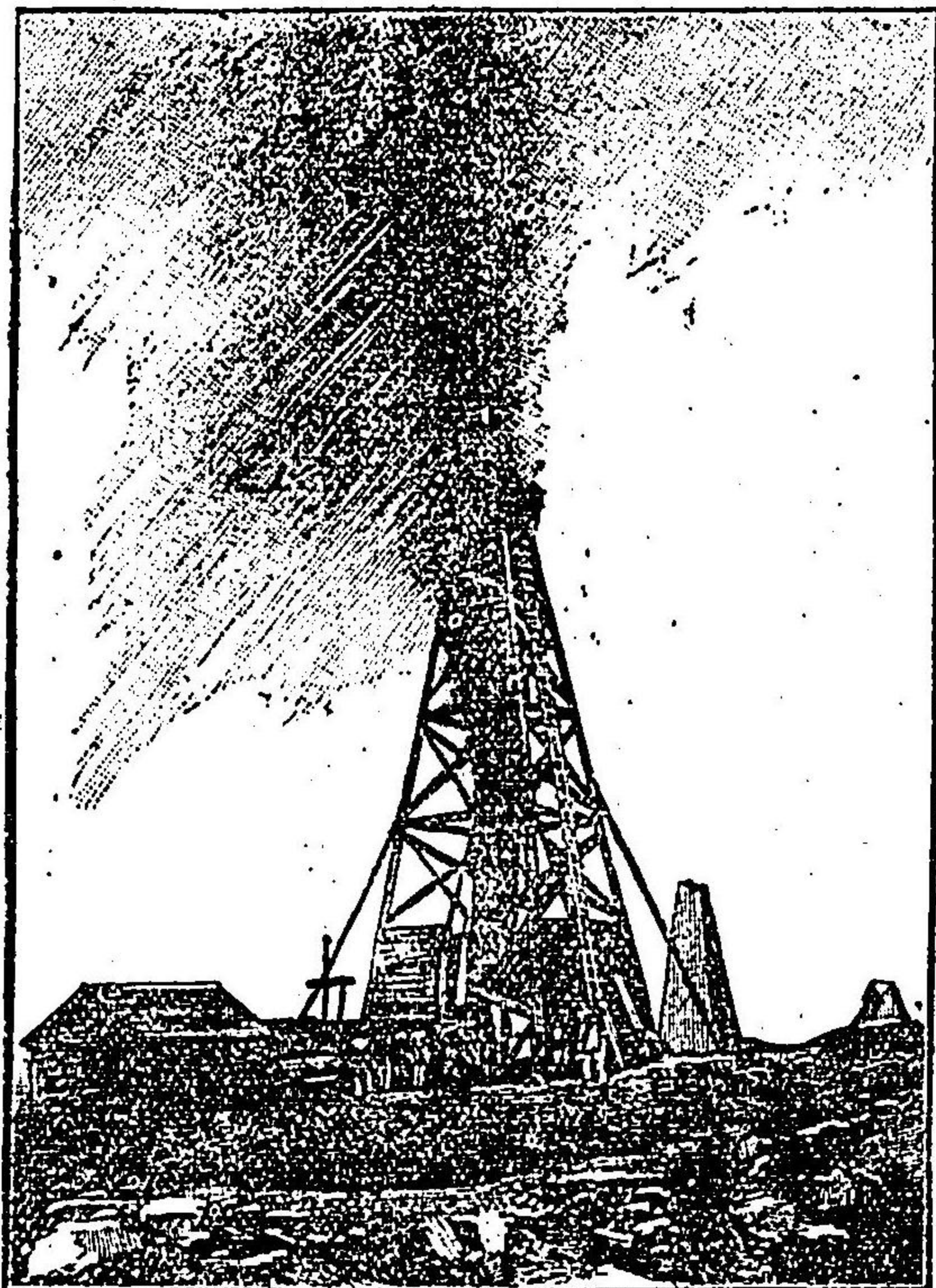
地方誌。

1. Batum

2. Baku

チフリスは、ユーカサスの首府にして、總督此所に駐在す、

3. Tiflis



出噴泉油石のロクレー

ヘルシアとの貿易盛なり、石油の産地なるバークーは、裏海の要港にして、堅固の砲臺あり。

3. Tiflis  
Tiflis

1. Batum  
Baloum

2. Baku  
Bakou



第三節 西部アジア。

一、イラン諸邦。

1. Iran

甲、ベルチスタン。

2. Baluchistan

アフガニスタンの南にあり、面積本邦より少しく小にして、人口五十萬、首府をケラットと云ふ、國內數部に分れ、ケラットの酋長これが長たり、イギリスの保護國なり。

人口の密度は本邦の七十分の一なり

乙、アフガニスタン。

4. Afghanistan

北はロシア領中アジア、東はイギリス領印度に接す、面積本邦より少しく大にして、人口四百萬、中央にヒンヅークーシユ山系綿亘す。

人民は回教を信じ、大抵遊牧を業とす、國內數部に分れ、こ

1. Iran  
Iran

2. Balutschistan  
Baloutchistan

3. Kelat  
Kelat

4. Afghanistan  
Afghanistan

れを總轄する王(アミール)は、カブールに住す、主要なる市邑をカブール及びカンダハルとす、鐵道は、カンダハルより起り、印度に通ず。

丙、ペルシア。

4. Persia

位置及び面積。西アジアの中央に位し、イラン高原の大部分をなす、面積凡そ本邦の四倍あり。

地勢。北部にエルブールズ山脈あり、ヒンヅークーシユ山系に連る、全國高原性にして、大抵は沙漠なり、沿岸は、ヘルシア灣及びアラビア海に濱す、此兩海灣の相通ずる所はオーマン灣をなし、其西をオルムズ海峽と云ふ。

水系。河流の稍、大なるものは、カルーン河にして、アジアトルコのシヤテルアラブ河に注ぎ、下流は舟楫を通ず。

2. Kabul  
Kaboul

3. Kandahar  
Kandahar

4. Persien  
Perse

4. Ormus  
Ormus

5. Karun  
Karoun



空氣の非常に透明なるを以て名あり

陸軍は常備兵は二万四千海軍は隻ありのみ

氣候。大陸性にして、乾燥酷烈なり。  
 住民。人口凡九百萬、遊牧の民と定住の民とあり、回教を信じ、風俗淳良、教育も近來稍進歩し、泰西の學藝を採用す。  
 産業。山地は、森林繁茂せり、物産の主なるものは、米、麥、護謨、絹及び阿片なり。  
 政治。君主專制にして、君主を「シャール」と云ふ、兵力は微弱なり。  
 交通。道路未だ發達せず、鐵道は、僅かに首府テヘランの近傍に、六哩の一短線あるのみ、電線は、主要なる都府を連結す。  
 地方誌。テヘランは、ヘルシアの首府にして、國の北部に位す。

Teheran  
Téhéran



活生幕帳の人アラア

イスバハンは、國の中央にある舊首府にして、ブーシールは、ヘルシア灣の北岸にある貿易港なり。  
 一、アラビア。  
 3. Arabia  
 アラビアは、ヘルシア灣と紅海との間に、介在する大半島にして、其南部を除き、他の沿岸一帯の地は、アジアトルコに屬せり、内部は沙漠多く、

- 1. Isfahan  
Ispahan
- 2. Buschir  
Bouchir
- 3. Arabien  
Arabie



河湖なく、唯降雨の時にこれを見るのみ、中部は高原性を呈し、沿岸には豊沃なる地あり、行政上エジプト、アジアトルコ及酋長、これを分轄すれども、實際は、イギリスの制肘を受くること少からず。

環は常食なり  
メツカ及びメ  
サナは回教徒  
の聖地なり

人口凡そ五百萬、遊牧を業とす、回教の起源地なれば、多く回教を信ず、環珈琲馬を以て最も著名なる物産とす、メツカは、マホメットの誕生地にして、メヂナは、其終焉の地なり。  
2. Mahomet  
3. Medina  
4. Aden  
アデンは、紅海の口に近く横はれる、イギリス領の港にして、世界交通の要衝に當る。

二、アジア・トルコ。

トルコ帝國のアジアに於ける領地にして、西はマルモラ海を隔て、ヨーロッパトルコに對す、面積凡そ本邦の四倍

- 1. Mekka La Mecque
- 2. Mohammed Mahomet
- 3. Medina Médine
- 4. Aden Aden
- 5. Asiatische Türkei Turquie d'Asie

あり、域内を小アジア、アルメニア、クルダスタン、メソポタミア及びシリアの五部に區別す。  
1. Asia Minor 2. Armenia 3. Kurdistan 4. Mesopotamia 5. Syria  
北部は山多く、南部は高原又は低地なり、シリアの南部には、死海の窪地あり。

小アジアは、黒海、地中海の間に於ける半島にして、沿岸屈曲に富む。

河流は、ヘルシア灣頭に注げるチグリス及びユーフラテス二河有名にして、河口に近く相合して、シャテルアラブ河をなす、又死海に入るヨルダン河あり。  
6. Tigris 7. Euphrates 8. Shat-el-Arab 9. Jordan

シリアの南部に死海あり、其海面は地中海面より低きこと凡そ千三百尺、其水非常に鹹味を有す、此地方は基督教の歴史上最も有名なる所なり。  
10. Dead Sea

死海の窪地は  
世界の第一な  
死海の第一な  
死海の第一な  
死海の第一な

- 1. Kleinasien Asie Mineure
- 2. Armenien Arménie
- 3. Kurdistan Kurdistan
- 4. Mesopotamien Mésopotamie
- 5. Syrien Syrie
- 6. Tigris Tigre
- 7. Euphrat Euphrate
- 8. Schatt-el-Arab Chat-el-Arab
- 9. Jordan Jourdain
- 10. Totes Meer Mer Morte



氣候は地勢により一定せざれども、小アジアの西南部は、海に面して溫和なり。

人口凡そ二千二百萬、トルコ種を主とし、多くは回教を信じ、遊牧を業とす。

物産は、穀物・絹綿・珈琲・阿片を主とす、外國貿易盛んにして、アレツポ、ベールート1. Aleppo 2. Beyroutを主要なる港とす。

スミルナは、小アジア貿易の中心にして、ダマスカスは、シリヤ貿易の中心、ジェルサレム4. Damascusは、基督墳墓の地なり。

バグダットは、チグリス河畔に位し、水運の利あり、昔時はアラビア學藝の中心たりし所なり。

附 サイプラス7. Cyprus。地中海に於けるイギリス領の一島なり。

### 第四節。南部アジア。

#### 一、印度

境界及び面積。印度は、一に前印度と云ひ、イギリスの領地にして、北はヒマラヤ山系及びバミール高原を以て、支那及びロシア領中アジアに接し、南は印度洋に面す、面積凡そ本邦の十一倍あり。

地勢。印度は、一大半島にして、一大山地、一大平原及び一

大高原(デツカン)より成る、沿岸は、屈曲に乏しく、南端をコモリン岬とす、南東には、ポーク海峡を隔て、セイロン島あり。

水系。インダス河は、源を西藏に發し、ヒマラヤ山系を横斷し、アラビア海に入る。

ガンダス河は、源をヒマラヤ山系の南に發し、東流して、西

7. Ganges (ガン)

南部アジア

1. India Inde

2. Dekan Dékan

3. Komorin Komorin

4. Palk Palk

5. Ceylon Ceylan

6. Indus Indus

7. Ganges Gange

1. Haleb Alep

2. Beirut Beyrouth

3. Smyrna Smyrne

4. Damascus Damas

5. Jerusalem Jérusalem

6. Bagdad Bagdad

7. Cypem Chypre





望遠の系山ヤラマヒ

藏より發するブラマプ  
Iトラと合し、有名なる  
大三角洲をなし、ベンガ  
ル灣頭に注ぐ。  
氣候。概して乾熱、濕  
熱、冷涼の三季節あり、季  
候風の爲めに雨季には  
雨量非常に多く、河水増  
溢す、ガンデス、ブラマプ  
Iトラの三角洲は、地球  
上最大の雨量を有す。  
住民。人口凡そ三億

Brahmaputra  
Brahmapoutre

東京の雨量の  
八倍あり



印度人象に乗れるる

(五十九) 南部アジア

人種は「サンスクリット」の  
文字を用ふる「ヒンヅ」種  
を主とし、「アラヴァイダ」  
種これに次ぐ、「ドレヴィアン」  
種は、北部の大平原に多く、「ツ  
ラヴィダアン」種はデツカ  
ン高原に多し。  
印度の人民には四大別  
あり、「アラマン」即ち僧族  
第一の階級を占め、兵族こ  
れに次ぎ、商農等を含める  
族又これに次ぎ、最下級に

1. Sanskrit  
Sanskrit  
2. Hindu  
Hindou  
3. Drawida  
Dravidien



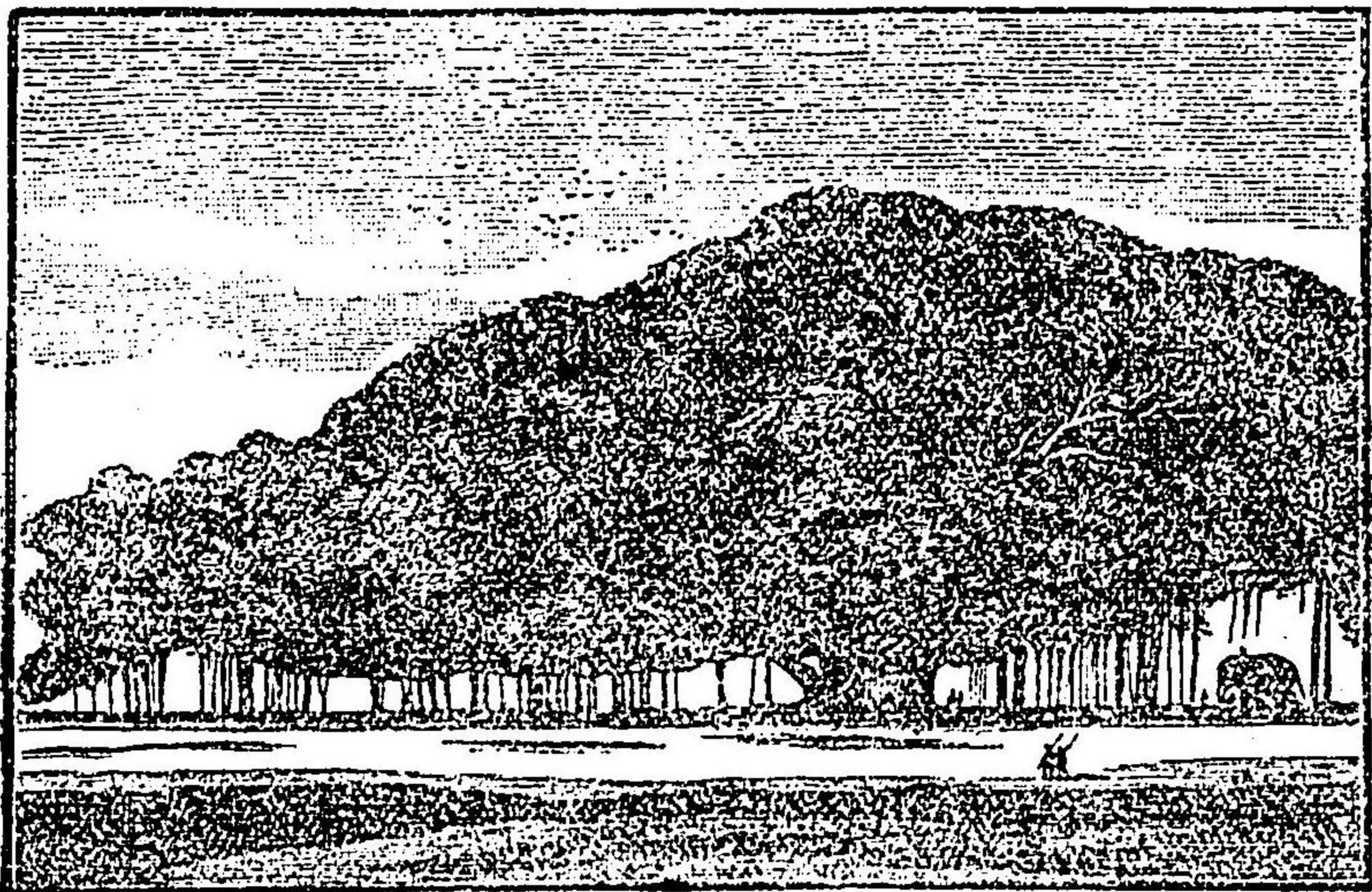
位するを賤民とす。

宗教。大抵婆羅門教を信じ、回教徒これに次ぐ、此國は佛  
教起源の地なれども、本邦に於ける如く行はれず。

政治。行政上、イギリスは特別なる制度を以て、これを治  
む、分ちて、直轄部及び藩部の二となし、更に直轄部を八州に  
區別す、マドラス及びボンベイには總督、其他の州には、副總  
督、代官等ありてこれを治む、藩部は、全く土人の王酋長等の  
自治に任ず、印度大總督ありて、首府カルカッタに駐在し、こ  
れを總轄す。

産業。地味豊饒、氣候炎熱、面積の廣大なるに加ふるに、農  
業の法能く開けたるを以て、農産最も豊なり、其主要なるも  
のを綿米、阿片、茶、藍、菜種の類とす。

本邦との貿易  
も次第に盛大  
なり



印度の榕樹

山林は大なるもの多く、  
殊にヒマラヤ山地は有名  
なり、又榕樹の巨大なるも  
のあり。

動物には、虎、豹、獅子の如  
き猛獸及び毒蛇あり、又象  
は農業上にもこれを用ふ、  
貿易。人口三億に垂ん  
とする大邦土なるを以て、  
商業頗る盛んなり、輸出品  
の主なるものは、棉花、米、木  
織、緯、菜種、阿片、茶、獸皮及び

(アツア) 南部アツア

(六十一)



藍にして、輸入品の主なるものは、綿布及び金屬なり、我國に輸入するボンベイ綿は、普く人の知る所なり。交通。道路及び運河大に發達し、近來最も長足の進歩をなしたるは、鐵道にして、全長二萬哩を超ゆ、電線は、國內の主要なる都府に通じ、又ヨーロッパに連絡せり。

地方誌。

カルカッタは、首府にして、人口八十六萬、河口を距ること三十二里餘の處にあり、  
1. Calcutta  
2. Patna  
3. Gaya  
4. Bombay  
5. Madras  
6. Tuticorin  
カルカッタは、西北に當り、ガンヂス河の右岸に位す、其南にガヤあり、釋迦の誕生地を以て名高し。  
ボンベイは、西岸にあり、人口八十二萬、現今イギリス領印度、商業上之中心として、其繁盛、遙かにカルカッタの上にある、本邦領事館及日本郵船會社支店あり。

マドラスは、東岸にあり、人口四十五萬、チエチエリンは、洲の南部にありて

- |                           |                     |                         |
|---------------------------|---------------------|-------------------------|
| 5. Madras<br>Madras       | 3. Gaya<br>Gaya     | 1. Kalkutta<br>Calcutta |
| 6. Tuticorin<br>Tuticorin | 4. Bombay<br>Bombay | 2. Patna<br>Patna       |

ボンベイは日本郵船會社の航路に當る

チエチエリンには日本郵船

會社の航路時時寄港す

コロロンは日本郵船會社の航路に當る

セイロン島に對す。  
1. Ceylon

附セイロン。

印度半島の南東隅にあり、金剛石及び眞珠を産し、又釋迦の布教地たるを以て、古より名あり、西岸にコロロンがあり、東西交通の衝に當れる要港なり。  
2. Colombo

附ポルチユガル領印度及フランス領印度。

ポルチユガル及びフランスは印度半島の中の一小部分を領す。

附ネパール及びブータン。

ネパールは、ヒマラヤ山系中に於ける一獨立國にして、ブータンはヒマラヤ山地の東部に於ける一獨立國なり。  
4. Bhutan

一印度支那。

5. Indo-China

(六十三)

- |                             |                     |                       |                     |
|-----------------------------|---------------------|-----------------------|---------------------|
| 5. Indo-China<br>Indo-China | 3. Nepal<br>Nepaul  | 2. Kolombo<br>Colombo | 1. Ceylon<br>Ceylan |
|                             | 4. Bhutan<br>Boutan |                       |                     |



### 甲、フランス領印度支那。

印度支那の東部を占め、北は支那本部に接し、南は支那南海、及びシヤムロ灣に濱す、面積殆んど本邦の二倍あり、邦制上、トンキン、安南、コチン支那、カンボヂアの四部に分る。

地勢は、横斷山脈の餘派、域内に綿亘すれども、河岸には平地少からず、河流の大なるものは、紅河及びメーコン河なり、紅河は一にソングイ河又トンキン河と稱し、源を雲南省に發し、南流してトンキン灣に注ぐ、メーコン河は、一にカンボヂア河と稱し、支那海に入る。

熱帯に屬し、氣候、炎熱、乾、濕二季に分る、雨量は頗る多し、人口凡そ二千餘萬、蒙古種を主とす、遊惰にして、虚飾を好み、佛教を信ず、皆フランスの殖民地に非れば保護國なり。

メーコン河の上流を瀾滄江と稱す

- 1. Me-kong  
Mè-kong
- 2. Song-ka  
Song-Coi

- 3. Kambodja  
Cambodge

トンキンは古の交趾の地

産物は、米を主とし、ナンキン米の有名なる一産地なり、

#### 地方誌。

トンキン。紅河の流域に當り、多量の米を産す、首府を河内と云ふ、海防は、良港なり。  
安南。トンキンの南にある狭長の地方なり、首府を順化と云ひ、一にホユエと稱す。

交趾支那。安南及びカンボヂアの南にありて、首府をサイゴンと云ふ、メーコン河の下流に位し、總督此所に駐在す。  
カンボヂア。交趾支那の北にあり、人民多く、コーカシア種に屬す、首府をプノンペンと云ふ、メーコン河に濱す。  
老撾。ビルマ・カンボヂア・トンキン・安南・支那の間に介在する一地域にして、一にシヤン國と稱す。

高居親王印度に至るの途老場に於て玉ふ

(ナン) 南部アナン

(六十五)

- |                           |                         |                               |                          |                        |
|---------------------------|-------------------------|-------------------------------|--------------------------|------------------------|
| 9. Pnom-penj<br>Pnom-penh | 7. Saigon<br>Saigon     | 5. Huë<br>Hué                 | 3. Hai-fong<br>Hai-phong | 1. Tong-king<br>Tonkin |
| 10. Laos<br>Laos          | 8. Kambodja<br>Cambodge | 6. Cochinchina<br>Cochinchine | 4. Annam<br>Annam        | 2. Hanoi<br>Ha-noï     |



乙、シヤムロ。

12. Siam

(六十六)

印度支那半島の中部を占め、面積殆んど本邦の二倍あり、横断山脈の一派、國中に綿亘し、南部は一帯の平地なり、河流の大なるものを、<sup>13. Menam</sup>メナム河とす。

人口凡そ五百萬、佛教信者多し、怠惰にして、進取の氣象に乏しきも、近來大に泰西の學藝を採用せり、國人好んで檳椰子の實を嚙み、其齒黒し。

王國にして、常備兵は、五千人あり、海軍は、二十二隻の小艦隊より成り、三千噸の巡洋艦一隻あり、古來我國との關係密接にして、山田長政の事蹟は人の知る所なり、本邦條約國の一なり。

地味肥沃にして、多額の米を輸出し、又、チーク材、金及び寶

13. Menam  
Mé-nam

11. Sel'an  
Chan  
12. Siam  
Siam

石の産あり、象は、運搬及び軍用に供す。

交通。メナム河は、水運の便あれども、河口に沙洲ありて

大船を通ずるを得ず、鐵道は、バンコック府より南及び東に通じ、電線は國の内外主要の地に通ず。

首府バンコックは、人口凡そ二十萬、メナム河口を距るこ

1. Bangkok

と八里、王宮及び官署は、規模宏大なり、本邦公使館及領事館の設あり。

丙、イギリス領海峽殖民地。

馬來半島の南部を占め、シンガポール、ピナン二島及びマ

2. Singapore

3. Penang

ラッカを含み、外に數多の部落を兼轄す。

4. Malacca

氣候炎熱なれども、驟雨ありて暑氣を和ぐ、シンガポール及びピナン等の良港あり、シンガポールには、本邦領事館あ

4. Malaka  
Malacca

2. Singapur  
Singapour

3. Pinang  
Pinang

1. Bang-kok  
Bangkok

シンガポールの船會社は日本郵船株式會社に當る

(アツア) 南部アツア

(六十七)



り。

### 丁、ビルマ。

1. Burma

行政上イギリス領印度の一部にして、面積我國と匹敵す、イラワデー、サルウィンSalwinの二河、國內を貫流し、地味肥沃交通に便なり、人民は、佛教を奉ず、首府を、ヤンダレーYandaleと云ひ、イラワデー河畔に位す、ラングーンRangoonは、南部の要港なり。

### 二、マレー群島。

6. Malay

東印度群島の一部にして、アジアとオーストラリアとの間に横はる、面積凡そ本邦の五倍あり分ちて、フィリッピン群島、ボルネオ、大サンダ列島とし、アメリカ合衆國、オランダ、イギリス三國に分屬す。

世界僻裂地帯の焦點に當り、隨てジャヴァ島の如きは、三

- |                 |                     |                        |                       |                        |
|-----------------|---------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|
| 7. Java<br>Java | 6. Malai<br>Malaise | 4. Mandale<br>Mandales | 3. Saltien<br>Salouén | 1. Birma<br>Birmanie   |
|                 |                     | 5. Rangun<br>Rangoun   |                       | 2. Irawadi<br>Iraouadi |

十座の活火山を有し、クラカトア島の大火山は、明治十六年八月、一大破裂をなし、我邦までも其影響を及ぼしぬ。

1. Krakatoa

人口凡そ三千四百萬、マレー種を主とし、土人は、太抵マレイ語を用ふ、宗教は回教、基督舊教多し。

オランダは、總督府をジャヴァのバタヴィアBataviaに置き、其領地を治め、別に印度艦隊を有す。

2. Batavia

農産には、砂糖、珈琲、煙草あり、林産に富み、香木少からず、ボルネオの金及び金剛石、バンカ島の錫最も名あり、本邦へは盛んに砂糖を輸出す。

3. Banka

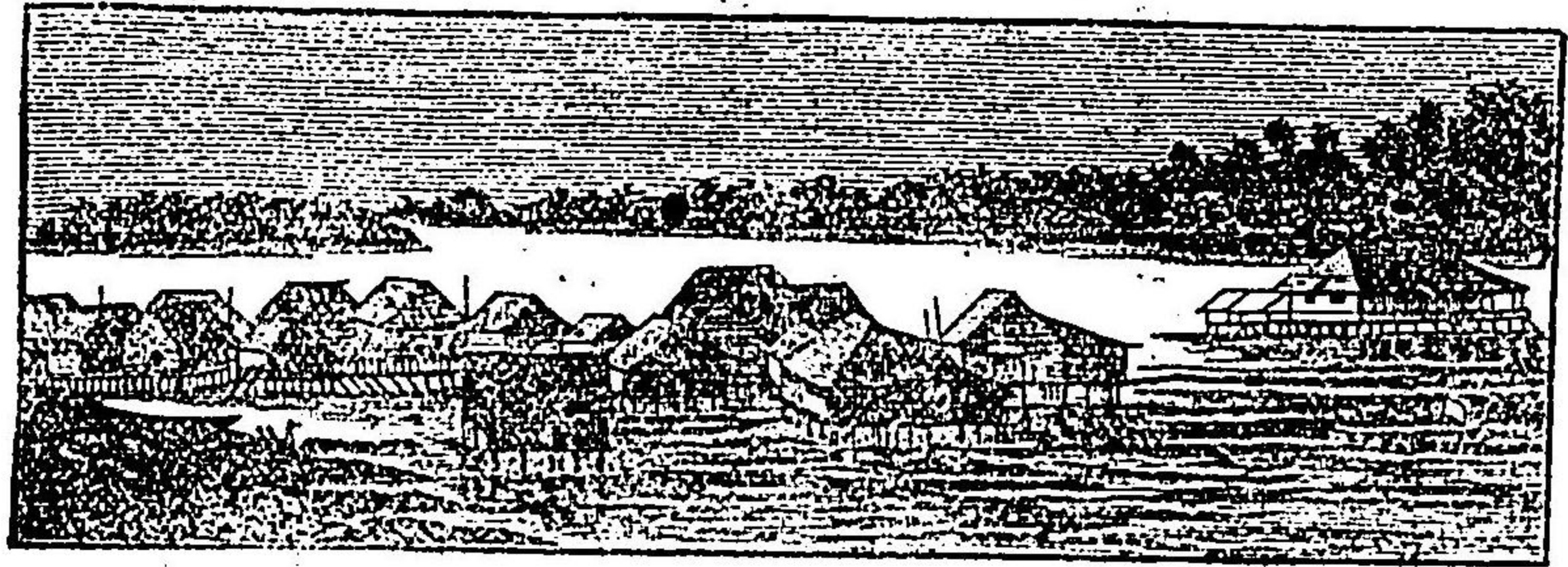
### 地方誌。

### アメリカ合衆國領。

- フィリッピン群島、北にルソン、南にミンダナオの大島あり、ルソン島の
- |                             |          |             |
|-----------------------------|----------|-------------|
| 4. Philippine<br>(ハルン) 南部アン | 5. Luzon | 6. Mindanao |
|-----------------------------|----------|-------------|

- |                         |                               |                         |
|-------------------------|-------------------------------|-------------------------|
| 5. Luzon<br>Luzon       | 3. Banka<br>Banka             | 1. Krakatoa<br>Krakatoa |
| 6. Mindanao<br>Mindanao | 4. Philippinen<br>Philippines | 2. Batavia<br>Batavia   |





活生上水の島群ソヒツリイフ

南西岸にある主要なる都府をマニラと云ふ、南洋貿易の中心點にして、煙草の製造最も盛なり、大風の害少しとせず、本邦領事館あり。

オランダ領。

大サンダ列島。ジャバ、スマトラの二大島と、

2. Sunda

3. Sumatra

附近の島嶼とを含む。ジャバ島最も主要なるものにして、其バタヴィアに總督府あり、ボルネオ島

4. Java

はニューギニアに次げる世界第二の大島にして、

5. Batavia

6. Borneo

南方の大部は、オランダに屬す。

イギリス領。

ボルネオ島の北部にして、主要なる都府をサン

ダカンと云ふ。

8. Sandakan

1. Manila  
Manille

2. Sunda  
Sonde

3. Sumatra  
Sumatra

4. Java  
Java

5. Batavia  
Batavia

6. Borneo  
Borneo

7. Neu Guinea  
Nouvelle Guinée

8. Sandakan  
Sandakan

### 第三章。オセアニア。

1. Oceania

#### 第一節。總論。

オセアニアは、太平洋に於ける無数の群島及びオーストラリアの總稱にして、大別して三となす。

一、オーストララシア。オーストラリア、ニューギニア及び近傍の諸島を含む。

二、マレイシア。

3. Malaysia

三、ポリネシア。

ポリネシア本部、メラネシア及びミクロネシアより成る。

8.

#### 第二節。邦土誌。

一、オーストララシア。

甲、オーストラリア。

5. Australia

(オセアニア)

總論

(471)

1. Oceanien  
Océanie

2. Australasien  
Australasie

3. Malaysien  
Malaisie

4. Polynésien  
Polynésie

5. Australien  
Australie



オーストラリアは面積廣大なるを以て、通常これを大陸とす、此大陸とアフリカとの間には、著しき類似點あり。

- (一) 共に其形状一大團塊をなし、外形頗る簡單にして、著しき出入なし。
- (二) 共に東側に最高山脈ありて、其東南に最高峰を有す。
- (三) 内地に廣大なる沙漠を有し、其中所々に泉地あり。
- (四) 最長の河(ナイル河及びムルレイ河)の水量河口に至るに従ひ、減少す。
- (五) 東海岸の近傍には南に向ふ海流あり、モザンビック海流及び東オーストラリア海流。

オーストラリアは、アジアの東南に位し、北はトーレス海峡、アラフラ海及びチモール海を隔て、ニューギニア及びサンダ諸島に對し、西及び南は、印度洋に面し、東は、太平洋に臨む、面積凡そ五十萬方里、世界最小の大陸なり、行政上分て、ヴィクトリア、新南ウエイルス、クイーンズランド、南オース

- 1. Nil
- 2. Murray
- 3. Mozambique
- 4. Torres
- 5. Arafura
- 6. Timor

トラリア及び西オーストラリアの五部とす。

地勢。

内地は低くして、東海岸及び西海岸に山脈連亘す、高地の大部は沙漠にして、數多の鹹湖其間に存在す、此大沙漠を大ヴィクトリア沙漠と云ふ、海岸の山脈中、東側に於けるオーストラリアアルプスは稍、高く、其最高峰コシユース峰は、七千餘尺に達す、この山脈と中央高地との間は、ムルレイ河の灌域なり、海岸線の凸凹甚しからず、唯北方ヨークの一大半島、長く海中に突出し、トーレス海峡を隔て、ニューギニアに對し、プリンス、オヴ、ウエイルス群島其間に横はる、木曜島此中にあり、ヨーク半島の西に、カーペンタリア灣深く灣入す、南方には、スペンサー灣を除くの外、深き出入なく、オーストラリア灣の如きは、唯海岸の少しく彎曲したる

- 1. Victoria
- 2. Austral-Alpen
- 3. Kosciusko
- 4. York
- 5. Prinz von Wales
- 6. Donnerstag
- 7. Carpentaria
- 8. Spencer

木曜島は其球人の在留するもの頗る多し

(オーストラリア) 邦土誌

(七十三)



に過ぎず、東南は、<sup>1. Bass</sup>パッサ海峡を隔て、<sup>2. Tasmania</sup>タスマニアに對す、又  
 ヨーク半島の東側は一大珊瑚堡礁ありて、陸地と十里乃至  
 八十里を隔て、相連り、南方に延び、南回歸線の近傍に達す、  
 東岸及び東南岸には、小なる灣入ありて、良港に乏しからず、  
 水系。河流の大なるものは、<sup>3. Murray</sup>ムルレイ河あるのみ、此河は、  
 雨季には、上流まで舟楫を通ずれども、河口常に淺くして、小  
 舟も海より入ること能はず、湖水の有名なるものを<sup>4. Eyre</sup>アイヤ  
 湖とす、此四近には數多の鹹湖あり。  
 氣候。オーストラリア大部の氣候は、乾燥、酷熱なるを特  
 性とす、但し東岸は雨量多し、東及び東南の海岸を除くの外  
 は、溫度の劇變あり、洪水、旱魃の二害共に甚しく、乾季には、河  
 多くは乾涸す。

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 3. Murray<br>Murray | 1. Bass<br>Bass          |
| 4. Eyre<br>Eyre     | 2. Tasmanien<br>Tasmanic |

住民。人口凡そ三百五十萬、概ねイギリス人の子孫なり、  
 土人(オーストラリア黑人種)は、非常に減少し、目下三萬に足  
 らず、早晚絶滅に歸すべし、教育は年々進歩し、<sup>メルボルン</sup>、<sup>シドニー</sup>に各、大學  
 の設けあり。



オーストラリア人の土人

政治。各部に總督ありて、  
 行政の事務を掌り、各議會を  
 有す、<sup>シドニー</sup>は、オーストラ  
 リア艦隊の根據地なり。

産業。オーストラリアは、頗る礦物に富み、殊に金を第一  
 とす、又石炭を産す。

オーストラリアの天産物中、植物には、ユーカリ樹を特有

(オーストラリア) 邦七誌

Eucalyptus (41-5)

Eucalypt  
Eucalypte

観物家  
 此地に  
 移すに  
 必要は  
 無し  
 観物家  
 此地に  
 移すに  
 必要は  
 無し





オーストラリアのアリノ金の田

とす、又動物に在りては、胎生獸は、全くこれを缺き、ジヤウア、スマトラに存せる虎象犀の如きもこれを見ず、而して「カンガルー」の如き有袋獸あるを、此大陸の特性とす。

工業及び貿易も次第に盛大を來し、本邦との貿易額は、凡そ二百餘萬圓にして、本邦よりは米を送り、此地より羊毛を購ふ。

Kanguru  
Kangaroo

日本郵船會社  
香港、上海、  
大連、青島、  
天津、烟台、  
威海衛、龍口、  
旅順、大連、  
開往、

交通。主要なる都府は、大抵鐵道を以て連絡し、全長一萬哩を超ゆ、ポート、ダルウィンより海底電線アジアに通ぜり。  
1. Port Darwin  
地方誌。

2. Victoria  
3. Melbourne  
4. New South Wales  
5. Sydney  
6. Queensland  
7. Brisbane  
8. Queensland  
9. Queensland  
10. Queensland  
11. Queensland  
12. Queensland  
13. Queensland  
14. Queensland  
15. Queensland  
16. Queensland  
17. Queensland  
18. Queensland  
19. Queensland  
20. Queensland  
21. Queensland  
22. Queensland  
23. Queensland  
24. Queensland  
25. Queensland  
26. Queensland  
27. Queensland  
28. Queensland  
29. Queensland  
30. Queensland  
31. Queensland  
32. Queensland  
33. Queensland  
34. Queensland  
35. Queensland  
36. Queensland  
37. Queensland  
38. Queensland  
39. Queensland  
40. Queensland  
41. Queensland  
42. Queensland  
43. Queensland  
44. Queensland  
45. Queensland  
46. Queensland  
47. Queensland  
48. Queensland  
49. Queensland  
50. Queensland  
51. Queensland  
52. Queensland  
53. Queensland  
54. Queensland  
55. Queensland  
56. Queensland  
57. Queensland  
58. Queensland  
59. Queensland  
60. Queensland  
61. Queensland  
62. Queensland  
63. Queensland  
64. Queensland  
65. Queensland  
66. Queensland  
67. Queensland  
68. Queensland  
69. Queensland  
70. Queensland  
71. Queensland  
72. Queensland  
73. Queensland  
74. Queensland  
75. Queensland  
76. Queensland  
77. Queensland  
78. Queensland  
79. Queensland  
80. Queensland  
81. Queensland  
82. Queensland  
83. Queensland  
84. Queensland  
85. Queensland  
86. Queensland  
87. Queensland  
88. Queensland  
89. Queensland  
90. Queensland  
91. Queensland  
92. Queensland  
93. Queensland  
94. Queensland  
95. Queensland  
96. Queensland  
97. Queensland  
98. Queensland  
99. Queensland  
100. Queensland

新南ウエイルスは、ヴィクトリアの北にあり、首府をシドニーと云ふ、人口四十萬、オーストラリア最舊の都會にして、其繁盛メルボルンに次ぐ、大學の設けあり、イギリス海軍の根據地にして、本邦領事館あり。  
クイーンズランド。全大陸の東北部を占む、首府をブリスベーンと云ふ、人口四十萬、オーストラリア最舊の都會にして、其繁盛メルボルンに次ぐ、大學の設けあり、イギリス海軍の根據地にして、本邦領事館あり。

- 1. Port Darwin  
2. Victoria  
3. Melbourne  
4. New South Wales  
5. Sydney  
6. Queensland  
7. Brisbane  
8. Queensland  
9. Queensland  
10. Queensland  
11. Queensland  
12. Queensland  
13. Queensland  
14. Queensland  
15. Queensland  
16. Queensland  
17. Queensland  
18. Queensland  
19. Queensland  
20. Queensland  
21. Queensland  
22. Queensland  
23. Queensland  
24. Queensland  
25. Queensland  
26. Queensland  
27. Queensland  
28. Queensland  
29. Queensland  
30. Queensland  
31. Queensland  
32. Queensland  
33. Queensland  
34. Queensland  
35. Queensland  
36. Queensland  
37. Queensland  
38. Queensland  
39. Queensland  
40. Queensland  
41. Queensland  
42. Queensland  
43. Queensland  
44. Queensland  
45. Queensland  
46. Queensland  
47. Queensland  
48. Queensland  
49. Queensland  
50. Queensland  
51. Queensland  
52. Queensland  
53. Queensland  
54. Queensland  
55. Queensland  
56. Queensland  
57. Queensland  
58. Queensland  
59. Queensland  
60. Queensland  
61. Queensland  
62. Queensland  
63. Queensland  
64. Queensland  
65. Queensland  
66. Queensland  
67. Queensland  
68. Queensland  
69. Queensland  
70. Queensland  
71. Queensland  
72. Queensland  
73. Queensland  
74. Queensland  
75. Queensland  
76. Queensland  
77. Queensland  
78. Queensland  
79. Queensland  
80. Queensland  
81. Queensland  
82. Queensland  
83. Queensland  
84. Queensland  
85. Queensland  
86. Queensland  
87. Queensland  
88. Queensland  
89. Queensland  
90. Queensland  
91. Queensland  
92. Queensland  
93. Queensland  
94. Queensland  
95. Queensland  
96. Queensland  
97. Queensland  
98. Queensland  
99. Queensland  
100. Queensland



オーストラリアの在留者多し

スペインと云ふ、タウンズヴィールは、東岸にありて、本港と  
 1. Townsville  
 プリスベインとの中間に位す、本邦領事館あり。  
 南オーストラリア。全大陸の中部を占む、首府アデレイ  
 2. South Australia  
 ドには、大學の設けあり。 3. Adelaide  
 西オーストラリア。全大陸の西部を占め、其内部には南  
 4. West Australia  
 オーストラリアに連続せる大ヴィクトリア沙漠あり、首府  
 をパースと云ふ。  
 5. Perth  
 乙、タスマニア。  
 6. Tasmania  
 オーストラリアの東南、バックス海峡の南にあり、面積殆ん  
 ど我北海道に伯仲し、良港少からず、氣候溫和にして、一の保  
 養地となれり、首府をホバートと云ふ、此島の土人は近時全  
 7. Hobart  
 く絶滅せり。

- |   |                         |  |
|---|-------------------------|--|
| 4. West-Australien<br>Australie Occidentale | 3. Adelaide<br>Adelaide | 1. Townsville<br>Townsville                |
| 5. Perth<br>Perth                           |                         | 2. Süd-Australien<br>Australie Méridionale |

世界的な島の目録

丙、ニューギニア。  
 8. New Guinea  
 又これをバプアと云ふ、世界中最大の島にして、本邦の二  
 9. Papua  
 倍より大なり、赤道及びトールレス海峡の間に横はる、此島山  
 多く、一萬尺に達するの高峰稀なりとせず、森林鬱蒼、地味豊  
 饒なり、オランダ、ドイツ、イギリス三國に分屬す。

一、マレーシア。  
 10. Malaysia  
 小サンダ列島。ロンボック、フローレス、チモール等の諸  
 11. Sunda  
 島より成り火山脈これを貫通す。 12. Lombok  
 13. Flores  
 14. Timor  
 セレベス。此島は、甚だ奇にして、殆んどK字をなし、火山  
 15. Celebes  
 多く、多量の金を産す、本島の北半部は、オランダに屬す。  
 モラッカ諸島。セレベスと、ニューギニアとの間に横は  
 16. Molucca  
 れる群島にして、特に丁子の本國として世に知らる。  
 (オキニヤ) 邦土誌

- |                      |                      |                           |                                  |                          |
|----------------------|----------------------|---------------------------|----------------------------------|--------------------------|
| 13. Flores<br>Flores | 11. Sunda<br>Sonde   | 9. Papua<br>Papouasie     | 8. Neu Guinea<br>Nouvelle Guinée | 6. Tasmanien<br>Tasmanie |
| 14. Timor<br>Timor   | 12. Lombok<br>Lombok | 10. Malaysien<br>Malaisie |                                  | 7. Hobart<br>Hobart      |



二、ポリネシア。

17. Polynesia

(イ)ポリネシア本部。これに屬する主要なる島を、ハワイ及びニュージーランドの二島とす。

ハワイ。 サンドウイツチ諸島中の一大島なり、サンドウ

18. Hawaii

19. Sandwich

イツチ諸島は、北回歸線の南に接し、十二個の火山島より成る、ハワイ島のマウナケア、マウナロア火山最も名あり、各島

二塔の高さ一  
万四千餘尺あり

20. Mauna Kea 21. Mauna Loa

地味豊饒にして、砂糖の産出夥しく、本邦よりの出稼人殆んど三萬人に達す、首府をホノルルと云ふ、オアフ島にあり、港

日本郵船會社  
米國線航路の  
船はホノルル、  
に寄港す

22. Honolulu

23. Oahu

内水深く、大船を入るゝに足る、日本總領事館あり。此國は、もと土人の王國なりしも、アメリカ合衆國よりの移住民實權を占め、王國を廢して、共和國となし、終に合衆國に合併せり。

- |              |               |              |                |             |
|--------------|---------------|--------------|----------------|-------------|
| 22. Honolulu | 20. Mauna Kea | 18. Hawaii   | 16. Molukka    | 15. Celebes |
| Honolulu     | Mauna Kea     | Hawai        | Moluques       | Cèlèbes     |
| 23. Oahu     | 21. Mauna Loa | 19. Sandwich | 17. Polynesien |             |
| Oahu         | Mauna Loa     | Sandwich     | Polynésie      |             |

水半球の極は  
ニュージーランドの  
東方にあり

クック峰の高  
さ一萬二千尺  
餘あり

ニュージーランド。オーストラリアの南東に位し、全く

1. New Zealand

温帯中にあり、北島、南島の二大島と、スチユアートの一小島

2. Stewart

より成る、南北二島は、クック海峡にて相離れたりと雖も、全體より見れば、形状長靴に密似す。

3. Cook

南島は、高山脈西岸に沿ふて走る、これを南方アルプスと

4. Southern Alps

稱す、クック峰最も高し、大氷河の奇觀あり、北島は、山脈東海岸に接近し、火山多し、富士形のエグモント峯、ロトマハナの

5. Cook

6. Egmont

7. Rotomahana

間歇温泉何れも有名なり。氣候温暖にして、劇變なく、南部にても平地には、雪を見る

こと稀なり、濕潤なる西北風常に多きを以て、西海岸は、雨量多し。

人口は、七十萬に過ぎず、此中土人は極めて少し、全島イギ

(オセアニア) 邦土誌

(八十一)

- |               |           |                   |                  |
|---------------|-----------|-------------------|------------------|
| 7. Rotomahana | 5. Cook   | 3. Cook           | 1. Neu Seeland   |
| Rotomahana    | Cook      | Cook              | Nouvelle-Zélande |
|               | 6. Egmont | 4. Südliche Alpen | 2. Stewart       |
|               | Egmont    | Alpes de Sud      | Stewart          |



リスの所轄にして、總督は文武の政を掌る、産物は羊毛及び金を主とす、オーストラリアに存せるカンガロは此島になし、又蝙蝠の外哺乳獸なし、此島に固有の鳥あり、アプテリツ



身文の人士トナライニ

クスと稱し、羽翼短くして地を走る、穀物菓實はもと本島になかりしも、近時の移植により、盛んに産出す、鐵道次第に延長し、又オーストラリアに海底電線を通ず。

首府は、ウエリントンにして、北島の南端にあり、オークランドは北端の西岸にあり、商港として、又海軍の根據地として緊要なり。

- 2. Wellington  
Wellington
- 3. Auckland  
Auckland

- 1. Apterix  
Apterix

ポリネシアに屬する島尙數多あり、此中トンガ(フレンドリー)島は、ニュージーランドより、ハワイに至る漁船、皆寄港するを以て重要なり、ポリネシアの島は珊瑚島又は火山島にして、ポリネシア人種これに住し、大抵イギリス又はフランスの領地なり、但しサモアは獨立の王國なり。

(ロ)メラネシアに屬するは、サロモン、ニューヘブリッツ、ニューカレドニア、フィジー等の諸島にして、火山島又は珊瑚島多く、メラネシア人種これに住す、ニューカレドニア及びフィジー二島最も重要なり、ニューカレドニアは貴金屬に富み、多量の白銅を出す、此島はフランスに屬す。フィジー群島は、南回歸線の北少許の所にあり、島數二百餘、地味豊饒にて、甘蔗の産額頗る多し、首府をスヴァと云

(サモア) 邦土誌

9. Suva  
(K+III)

- 5. Salomo  
Salomon
- 6. Neue Hebriden  
Nouvelle-Hébrides

- 3. Samoa  
Samoa
- 4. Melanesien  
Mélanesie

- 1. Tonga  
Tonga
- 2. Freundschafts  
Amis



ふ、イギリス領にして、ニュージールランド、オーストラリアを  
經て、イギリスとの間に定期航海あり、將來太平洋貿易の中  
心たるべき所なりとす。

(ハ) ミクロネシア。ギルバート、マーシャル、カロリン、パラ  
オ及びマリアナの五群島を包み、珊瑚島多し、土人の種類一  
定せず、アメリカ合衆國、イギリス、ドイツこれを分領す、マリ  
アナ群島は、最も我國に接近する火山島にして、其火山脈は、  
我富士火山脈に接續せるものなり。

マリアナ群島  
のミクロネシア  
合衆國領  
のイリヤ  
ベリヤ  
の所領  
をイリヤ  
國に收

- |                            |                          |                               |   |
|----------------------------|--------------------------|-------------------------------|---|
| 13. Carolinen<br>Carolines | 11. Gilbert<br>Gilbert   | 9. Suva<br>Suva               | 7. Neu-Caledonien<br>Nouvelle-Caledonie |
| 14. Palao<br>Pelew         | 12. Marshall<br>Marshall | 10. Mikronesien<br>Mikronesie | 8. Fidschi<br>Fidji                     |

## 第四章。ヨーロッパ。

16. Europe

### 第一節。總論。

位置。東半球の西北、アジア大陸の西方に突出する大陸  
にて、世界交通の燒點なり。

アジア及びヨーロッパの比較。兩大陸の相類似せる點を擧ぐれば、一、各  
三個の大なる半島ありて皆南に向ひ、二、東南に大なる群島を有し、三、山地、高  
原は主として南部に存せり、其相反對せる諸點を示さば左の如し。

アジア。

ヨーロッパ。

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 一、最大なる大陸なり。         | 一、最小なる大陸なり(オセアニアを除く)。 |
| 二、一様なる高原大陸なり。       | 二、表面錯綜せる大陸なり。         |
| 三、半島は僅に全面積の五分の一を占む。 | 三、半島は全面積の三分の一を占む。     |

四、海岸線短し。

四、海岸線長し。

(ヨーロッパ) 總論

(八十五)

15. Marianen  
Mariannes
16. Europa  
Europe



- 五、世界最高の山あり。
- 六、雙子河數多あり。
- 七、概して大陸的氣候を有す。
- 八、南北の交通不便なり。

- 五、世界最高の山なし。
- 六、雙子河一もなし。
- 七、大抵海洋的氣候を有す。
- 八、南北の交通便利なり。

境界。北は北氷洋に面し、南は地中海に臨み、東はウラル山脈、及び裏海を以て、アジアに境し、西は大西洋に面す。

面積及び區劃。面積凡そ六十万方里、行政上二三の小獨立國を除き、十七個國あり、即ちロシア、トルコ、オーストリア、ハンガリー、イギリス、ドイツの五帝國、スペイン、ポルチュガル、イタリー、ベルギー、オランダ、デンマルク、スウェーデン、ノルウエー、ルーマニア、セルヴィア、ギリシヤの十王國、及びフランス、スウェイツルの二共和國あり。

地勢。アルプス山系南部にあり、其脈東西に延び、又支脈

Alpen  
Alpes

アの四分  
支那より少  
く小なり

イギリスは其  
本國のみは  
て云ふべき  
王國なり

モンブラン峰  
の高さは一  
万六千尺あり

を出す、最高點をモンブランとす、其氷河は一大壯觀なり、此山系は、舊時交通の障害たりしも、近時隧道を通じて鐵道を敷設したり。

アルプス山系は、東に延び、二脈に分れてハンガリーの大平原を包む、これをカーパシアン山脈とす。

交通上の一大障屏をなす。

火山脈。地中海の沿岸には、火山脈少からず、エトナ、ヴェスヴィウス及びストロンボリは主要なる火山なり。

火山脈。地中海の沿岸には、火山脈少からず、エトナ、ヴェスヴィウス及びストロンボリは主要なる火山なり。

7. Vesuvius (ヴェスヴィウス) 越 略

(八十七)

- 1. Mont Blanc  
Mont Blanc
- 2. Ungarn  
Hongrie

- 3. Karpaten  
Karpathes
- 4. Pyrenäen  
Pyrenées

- 5. Kjölen  
Kjælen
- 6. Aëtna  
Etna

- 7. Vesuv  
Vésuve
- 8. Stromboli  
Stromboli



ヨーロッパの北部は、一大平原をなす、其内最も著名なるは、北ドイツ及びロシアの平地とす、南部は山多く、高原も少からず、就中スペイン及びバルカン半島は、高原性を呈す。沿岸。面積に比して、海岸線の長さは、六大洲中の第一にして、半島、港灣に富み、島嶼又少からず。

(イ)地中海の沿岸。大西洋より地中海に向ひ、これが門戸たるシアラタル海峡を過ぎて、東北に至れば、リオン灣あり、これより東方に向ひ、<sup>1</sup>Gibraltar エンブ灣を過ぎ、イタリー半島の西岸を、南東に走り、<sup>2</sup>Lion コルシカ及びサルチニアの二島を西方に望み、南シ、<sup>3</sup>Genoa リー島とイタリーとの間なるメツジナ海峡を過ぎ、<sup>4</sup>Corsica シナ海峡を過ぎ、<sup>5</sup>Sardinien イタル島の東南に望み、北東に向ひ、<sup>6</sup>Sicily タラント灣を過ぎ、<sup>7</sup>Messina れば、海岸線北に走り、<sup>8</sup>Malta アドリアチック海をなす、これが東側は、<sup>9</sup>Taranto リア及び其附庸國の西岸にして、海岸線南東に走り、終にバルカン半島の南端に達し、屈曲に富みたるギリシヤの海岸となり、<sup>10</sup>Adriatic アイオニアン群島、其北西部に羅列す、ギリシヤの南東には、<sup>11</sup>Ionians 島あり、<sup>12</sup>Crete 北方多島海、<sup>13</sup>Archipelago

- |                             |                    |                       |                  |                        |
|-----------------------------|--------------------|-----------------------|------------------|------------------------|
| 9. Taranto Tarente          | 7. Malte Malte     | 5. Sardinen Sardaigne | 3. Genua Gènes   | 1. Gibraltar Gibraltar |
| 10. Adriatisches Adriatique | 8. Messina Messine | 6. Sicilien Sicile    | 4. Corsica Corse | 2. Lion Lion           |

を横ぎり、ヨーロッパ、アジアの間なるマルマヤル海峡、マルモラ海、ボスフォラス海峡を過ぎ、黒海に出づ。

黒海の北部には、クリミア半島突出し、西にオデッサの要港あり、東方にアゾフ海を抱く。<sup>14</sup>Crimea <sup>15</sup>Odessa

(ロ)大西洋の沿岸。大西洋岸も、亦屈曲に富み、アイベリアン半島及びフランスの西北岸は、稍、出入に乏しく、唯ビスケイの大灣あるのみ、イギリス海峡を過ぎ、東して、北海の區域に入る、西側は、良港に富み、東側は、<sup>16</sup>Azov <sup>17</sup>Iberian <sup>18</sup>Biscay

ノマルク及びビスカンチナヴィア兩半島これを限り、其間に、スカゲルラツク及びバワテガット海峡あり、これより東は、北に轉入して、<sup>19</sup>North Sea <sup>20</sup>Skager Rack <sup>21</sup>Cattegat <sup>22</sup>Baltic 海をなし、<sup>23</sup>Bohnia <sup>24</sup>Finland 二支灣を出す。

イギリス及びビスカンチナヴィア半島の西岸は、一體に屈曲に富み、殊にイギリスには、良港多し、洋中遙かに氷洲の大島あり。

(ハ)北氷洋岸。此海岸は屈曲に乏し、獨り、<sup>25</sup>Iceland 白海深く、灣入せるのみ、又東北隅に、<sup>26</sup>White Sea <sup>27</sup>Nova Zembla <sup>28</sup>Kara 大島ありて、カラ海の西側を限る。

水系。ヨーロッパには、河川多く、又一方に偏在せずして、

- |                            |                         |                    |                         |                         |
|----------------------------|-------------------------|--------------------|-------------------------|-------------------------|
| 19. Nord See Mer du Nord   | 17. Iberische Ibériques | 15. Odessa Odessa  | 13. Archipelag Archipel | 11. Ioni-ches Ioniennne |
| 20. Skager Rak Skager Rack | 18. Viscaya Gascogne    | 16. Azówsches Azov | 14. Krim Crimée         | 12. Kreta Crète         |



全體に配布宜しきを得、河口は多く開て三角江となり、良港をなす、且つ支流によりて、遠隔の地に至るべく、加之諸河は多く運河を以て連結せらる。

ヨーロッパの大河は、裏海にウラル及び本洲第一の長流なるヴォルガの二河あり、地中海に本洲第一の大河なるダニュープ河あり、大西洋に注ぐものは、稍小なれども、水運の便は却て大なり、ライン河最も名あり。

湖沼。東北の平原には、浅き湖沼多く、ラドガ、オチガ最も

32. Ladoga 33. Onega

大なり、アルプス山系の湖は、水深く、風景甚だ佳なり、ジエチヴァ、コンスタンスの二湖最も名あり。

35. Constance

氣候。

ヨーロッパの大部は、氣候溫和なり、而して此大陸の温度は、南より北に行くに従て減ずるよりも、西より東に

他大陸の同緯度より温度高し

アフリカの赤道より温度高し

至るに従て其減度尙甚しとす、これ大西洋の灣流、此大陸の西岸を洗ふが故に、降雨多きと、風の影響とによりて然るなり。

産業。農産は、平原地方に盛にして、南部には葡萄の産出多し、山地は森林に富み、ドイツ特に然り、又畜産に富み、羊及び馬最も多し、鑛産は頗る富裕にして、鐵及び石炭を主とし、イギリス、ドイツこれが最たり、其他ウラルは、貴金屬に、カシアン山脈は、岩鹽に富む。

住民。人口凡そ三億餘にして、アジアの三分の一より多し、其密度最も小なるは東北部、最も大なるはイングランド西部及びベルギーなり。

人種。

(ヨーロッパ) 地誌

Europe (land)

37. Slav 38. Greek (九十一)

- |                  |                        |                   |                   |                  |
|------------------|------------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 37. Slav Slave.  | 35. Boden Constance    | 33. Onega Onega   | 31. Rhein Rhin.   | 29. Wolga Volga  |
| 38. Griche Grec. | 36. England Angleterre | 34. Genfer Genève | 32. Ladoga Ladoga | 30. Donau Danube |

Handwritten notes in German: "Griechenland's naturgeographische Verhältnisse" and "Commerzial Handel..."

- |                                   |                              |                         |                         |
|-----------------------------------|------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 27. Nowaja Semlja Nouvelle Zemble | 25. Island Islande           | 23. Bottnischer Bothnie | 21. Kattegat Cattégat   |
| 28. Kara Kara                     | 26. Weisses Meer Mer Blanche | 24. Finland Finlande    | 22. Baltisches Baltique |



ローマン、セルツ及びチュートンの五大族に分つトルコ種  
これに次ぐ。  
1. Roman 2. Celt 3. Teuton 4. Turk

宗教。ヨーロッパは概ね基督教國なり、基督教は舊教、新  
教及び希臘教の三大派に分る、概するに舊教はローマ人種  
中に行はれ、新教はドイツ人種中に行はれ、希臘教は主とし  
てロシア、ギリシヤ等に行はる、回教はトルコに行はる。

文明。ヨーロッパは學術技藝の進歩世界に其比を見ず、  
隨て其邦多く富強にして、就中イギリス、ドイツ、フランス、イ  
タリー、オーストリア、ロシアを本洲の六大強國と稱す。

第二節。ロシア。

總論

ロシアは、ヨーロッパの東部に位せる大國にして、北は北

- 1. Roman Romain
- 2. Kelt Celte
- 3. Teuton Teuton
- 4. Türke Turc

5. Russland Russie

面積本邦の十  
二倍なり

氷洋に、南は黒海に濱し、東はウラル山脈及びウラル河を以  
てアジアに接す、面積三十五萬方里、即ちヨーロッパの大半  
を占む、大別してロシア本部、フィンランド、ポーランドの三  
部とす。  
1. Finland 2. Poland

地勢。ロシアは、一大平原より成り、稍高き丘地、國の中央  
を走り、其北は低濕の平地にして、湖沼頗る多く、其最北部は  
凍土帯にして、鮮苔及び灌木を生ずるのみ、中央高地の南も  
亦一帯の低地にして、裏海沿岸最も低し、山脈と稱すべきも  
のは、彼のウラル山脈あるのみ、其山勢急峻ならず。

水系。ロシアは河川に富み、此河流と運河とに依りて、裏  
海、アゾフ海或は黒海より、白海或はバルチック海に至る  
ことを得べし、今其注入する海に就て、列擧すれば、北氷洋に、

- 1. Finland Finlande
- 2. Polen Pologne

3. Ural Ourals

(ヨーロッパ) ロシア

(九十三)

ロシアの交通  
は主として  
河川に依りし  
るに、本國に  
居る力多きに  
よるなり

教育の最も進  
歩せるは、イ  
ツナリ



ドヴィナ、バルチック海に、<sup>1. Dvina</sup>キウア及びヴィスチユラあり、黒海に、<sup>2. Neva</sup>ツォニスター、<sup>3. Vistula</sup>ツォニーパー及びドン、裏海に、<sup>4. Dniester</sup>ヴォルカ及<sup>5. Dnieper</sup>ピウラルあり、<sup>6. Don</sup>

湖沼。西北部は、ヨーロッパに於て、最も大なる湖水を有す、ラドガ、オネガこれなり、フィンランドは、湖沼の丘地とも<sup>8. Ladoga</sup> 9. Onega

稱すべく、其最大なるものをサイマ湖とす。<sup>10. Saima</sup>

氣候。多くは大陸性氣候にして、雨量少なし、河水は冬季氷結す、蓋し全國平原濶然として、北方の寒風及び南方の暖風自在に通過するによる。

住民。人口は、一億餘、ヨーロッパの三分の一を占め、スラ<sup>イ</sup>種の一、支、ロシア種を主なるものとす、ギリシヤ教徒最も多く、ロシア皇帝これが首長たり、舊教徒も亦多し、初等教

高等教育は盛んに於て大學の數九あり

- |                    |                     |                      |                        |                   |
|--------------------|---------------------|----------------------|------------------------|-------------------|
| 9. Onega<br>Onéga  | 7. Wolga<br>Volga   | 5. Dnjepr<br>Dnieper | 3. Weichsel<br>Vistule | 1. Dvina<br>Dvina |
| 10. Saima<br>Saima | 8. Ladoga<br>Ladoga | 6. Don<br>Don        | 4. Dnjestr<br>Dniester | 2. Neva<br>Néva   |

一等國十  
七あり

育は、未だ普及せず。

政治。君主專制にして、中央政府には、四の政治機關あり、參事院、元老院、宗務院、及び内閣これなり、宗務院の權限は頗る大なり、此國は本邦條約國の一なり。

全國を六十八州に分ち、數多の州を合して、一總督管區とし、全國を五總督管區となす。

兵備。常備は、平時八十七萬、戰時二百五十萬の陸軍あり、海軍は、世界第三位に居り、バルチック艦隊は、クロンスタットを根據とす。

此國のアジアに於ける勢力は甚だ大にして、大連灣及び旅順口の如きも、實際此國の領地なり。

産業。南部地方は、黒土と稱する地質より成り、穀物能く



生熟し、此國の富源なり、中部の林産、裏海及び諸河口の水産亦少からず、畜産はヨーロッパ第一にして、就中馬最も多し、鑛産は金、白金及び鐵に富み、主としてウラル山脈にあり、又石炭の多量を埋藏すと云ふ、工業は漸次盛大を來し、特に食料品及び綿布に關する業を然りとす。

貿易。内地の商業は頗る盛大にして、ニジューニノヴゴロツドを其中心とす、外國貿易も亦漸次盛大を來し、輸出品は農産物殊に小麥を第一とし、輸入品は茶、綿等を推し、セント

ペートルスブルグ、リガ、オデッサ等を主なる開港場とす。  
交通。ロシアは、水利大にして、且つ鐵道も近來長足の進歩をなし、郵便、電信の制度も次第に發達せり。

地方誌

一、ロシア本部。

セント、ペートルスブルグ。ロシア帝國の首府にして、外國貿易の中心なり、人口百二十七萬、フィンランド灣頭、テヂア河畔にあり、鐵道、運河、河川の利によりて、内地の交通容易なり、但し冬季は河海の面氷結し、交通全く絶ゆ。有名なるペートル一世の騎馬像、儼として街頭に立ち、王宮官衙の壯麗なること、ヨーロッパ中他に其比を見ず、大學校、女子大學校及び帝國圖書館あり、又本邦領事館あり。

リガ。リガ灣頭に位し、ロシア第三の貿易港なり。  
2. Riga  
モスクー。セントペートルスブルグの南東に當れる舊都にして、人口百萬を越え、全國の中央に位し、商業の一大中心たり、ナポレオン一世の大に窮したる古跡なり、ロシア帝は此地に於て戴冠式を行ふを常とす、ニジューニノヴゴロツドはモスクーの東に當り、七月より九月に至る間の大市場なり。  
3. Moscow  
オデッサ。ロシア第二の貿易港にして、人口四十萬、黑海艦隊の根據地なり、又義勇艦隊は、ウラシオストツクと本港との間を往復す、府の南東クリミア半島に、セバストポールの砲臺あり。  
4. Nishnii Nówgorod  
5. Nijni Novgorod  
6. Odessa  
7. Sebastopol

諸島の沖合に七  
里の沖合に七  
トロンスタツ  
島の沖合に七  
十二の沖合に  
河内を開き船  
府内に開き船

Ca-rank) 口

- |                             |                                       |                     |                                      |
|-----------------------------|---------------------------------------|---------------------|--------------------------------------|
| 6. Odessa<br>Odessa         | 4. Napoleon<br>Napoléon               | 2. Riga<br>Riga     | 1. St. Petersburg<br>St. Pétersbourg |
| 7. Sewastópol<br>Sébastopol | 5. Nishnii Nówgorod<br>Nijni Novgorod | 3. Moskau<br>Moscou |                                      |

1. Nishnii Nówgorod  
Nijni Novgorod
2. Riga  
Riga



一、ポーランド。此地方は、古昔ポーランド王国の一部にして、其中心をワルソーとす、人口六十萬を越え、番王国の都たり。  
 1. Poland  
 2. Warsaw  
 三、フィンランド。此地方は、ボスニア灣の東、フィンランド灣の北を占む、其中心たるヘルシンゲンフォールスは、フィンランド灣口の北に位し、堅固なる砲臺あり。  
 3. Finland  
 4. Helsingfors

第三節。スウェーデン、ノールウェイ。

5. Sweden-Norway

總論。

ロシアの西北に當り、スカンデナヴィア半島の全部をなす、南は海峽を隔て、デンマルクに對し、西は大西洋及び北氷洋に臨む、面積五萬方里、ノールウェイ及びスウェーデンの二國に分る。

地勢。一面高原性を呈し、北部には、キオレン山脈あり、此

7. Kjolen  
Kjelen

5. Schweden-Norwegen  
Suède-Norvège

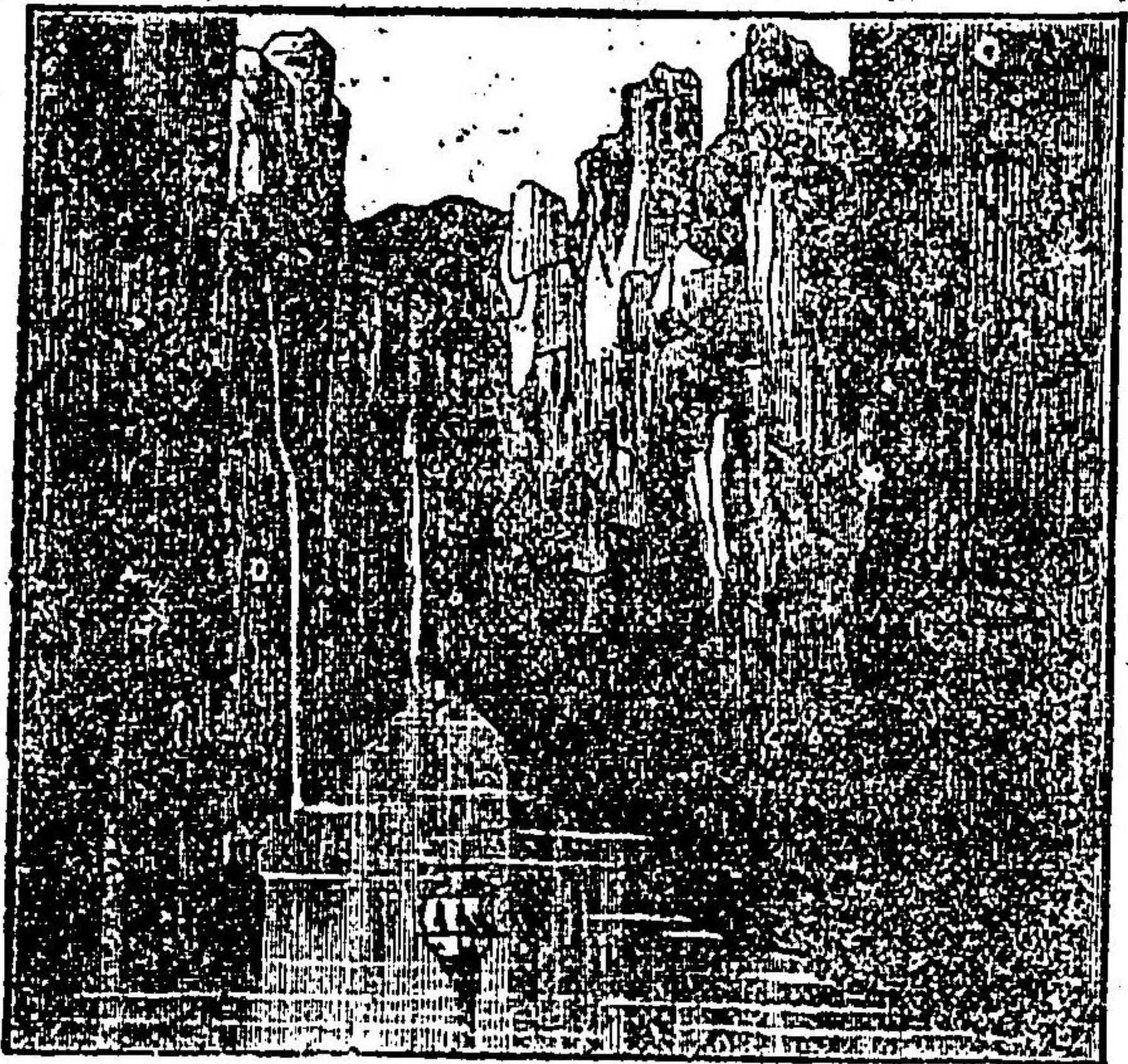
3. Finland  
Finlande

1. Polen  
Pologne

6. Skandinavien  
Scandinavie

4. Helsingfors  
Helsingfors

2. Warschau  
Varsovie



ノールウェイの峽灣

以東はスウェーデンにして、バルチック海に向て地勢緩斜し、以西はノールウェイにして平原なし、沿岸。ノールウェイ西岸は、狹隘なる入海ありて、兩岸絶壁をなす、これを峽灣と稱す、又無数の群島前に羅列す。氣候。西部の海岸は、灣流の影響を受け、温暖にして、最北の港灣も氷結するものなし、これに反して東部は、冬季氷結す。

(ヨーロッパ) スウェーデン、ノールウェイ

Fjord  
Fjord



住民。人口凡そ七百萬、大抵「チュートン」種にして、新教を奉ず、教育は普及せり。

政治。スウェーデン、ノールウェイは合して、一立憲王國を爲すと雖も、各立法部、行政部及び陸海軍を別々に有す、此國は本邦條約國たり。

産業。スウェーデンは、農産及び鐵、石炭に富み、林産は兩國共に富裕なり、ノールウェイは、世界有數の水産國にして、其鯡及び鱈は産額最も多し、兩國の輸出品は材木、鐵及び水産物を主なるものとす。

地方誌。

ストックホルム。スウェーデンの首府なり、バルチック海に瀕する良港にして、數多の島上に立てり、クリスチアニアは、ノールウェイの首府にして、又

- 1. Stockholm  
Stockholm
- 2. Christiania  
Christiania

ノールウェイの沖合は、世界三大漁場の一なり  
商船の噸數多きことは世界第四なり

第一の貿易港なり、冬季は兩港海水氷結して、航通を絶つ、ベルゲンは國の西岸に在りて、第二の貿易港なり、水産を以て最も著はる。

1. Bergen

第四節。デンマルク。

總論。

2. Denmark

ドイツの北方に突出する「ジャトランド」半島及び附近の島嶼より成る、北及び東は、スカンデナヴィアに臨み、西は太西洋に面す、面積凡そ我九州に等し。

3. Jütland  
Jütland

地勢は概するに低平にして、沿岸は往々海面以下に位する所あり、氣候溫和なれども、霧深くして濕潤なり。

人口二百萬、「チュートン」種に屬し、新教を奉ず、教育は普及し、立憲王國なり、海軍は微弱にして、戰艦一艘あるのみ、本邦條約國の一なり、首府を「コーペンハーゲン」と云ふ。

4. Copenhagen  
Copenhagen

(ヨーロッパ) デンマルク

(百一)

- 1. Bergen  
Bergen
- 2. Dänemark  
Danemark



平地にして、地味農耕に適し、穀物を主産とす、又牧場に富み、牛酪及び豚を産す。

地方誌

デンマルクの主要なる殖民地を氷洲とす、イギリスの西北に當れる一大島にして、火山及び間歇温泉は其名天下に高し、住民流木を採りて薪炭に充つ。

第五節。ドイツ。

總論

2. Germany

位置及び面積。 ヨーロッパの中央にある一強國にして、面積三萬五千餘方里あり。

地勢。 國の中央以南は高地に屬し、森林多く、北部は一面低平なる北ドイツ平原なり、沿岸は出入に乏し、北海の海岸

ケイマン群島の一部分に此の殖民地あり

面積本邦より稍大なり

1. Island  
Islande

2. Deutschland  
Allemagne

は頗る低し、バルチック海の海岸は、沙洲一帯遠く並行し、天の橋立に似たる奇觀あり、これをキールングと稱す。

水系。

1. Nehrung

2. Danube

リヤに入る、ヨーロッパ第一の大河なり。

ライン河は、ドイツ第一の大河なり、源をスヰツツルのアルプス山系の氷河中に發し、北流してコンスタンス湖に入り、これより出で、遂に北に屈折し、オランダに入る、舟運の便大に、又運河によりてダニユーナ、ローヌ二河に連る、河畔の風景亦其名高し。

3. Rhine

4. Constance

其他ヴィスチヌラ、オートル、エルベの三河何れも有名なり。

氣候。 バルチック海沿岸地方は、寒冷にして、北海地方は

1. Nehrung  
Nehrung

2. Donau  
Danube

3. Rhein  
Rhin

4. Boden  
Constance



ドイツ人口の密度は本邦に似たり、人口は近來ドイツ人は合衆國に移住するもの頗る多し

温暖なり、ライン河畔の如きは、最も溫和なり、中央以南の高  
地は、寒暑共に甚し。

住民。人口五千萬を超へ、大抵ドイツ種にして、正直、勇敢、  
勤勉、愛國の情に富み、過半新教を奉ず、教育は、世界中最も進  
歩し、特に中等、高等及び實業教育最も盛なり、大學の數二十  
一の多きに達す。

政治。ドイツは、立憲帝政國なり、四王、六大公、五公、七侯國  
と三自由市との聯邦に成る、別に帝領一あり、王國はプロシ  
ア、<sup>1. Prussia</sup> バウアリア、<sup>2. Bavaria</sup> サクソニー、<sup>3. Saxony</sup> ユルテンベルク、<sup>4. Württemberg</sup> ルヒナリ、此國は本  
邦條約國なり。

ドイツ皇帝は、プロシヤ國王これに當る、議會には、聯邦議  
會及び帝國議會の二種あり、聯邦議會は、恰も上院の如し。

- 1. Preussen Prusse
- 2. Bayern Bavière
- 3. Sachsen Saxe
- 4. Württemberg Wurttemberg

ドイツの森林制度は最も進歩せり

ドイツは世界の製糖及び製糖の各四分の一を出す

兵備。陸軍は、常備兵五十九萬、最も精銳なりと稱す、海軍  
は、近來長足の進歩をなし、世界第四位に居る。

産業。農産は、北ドイツ平原、林産は、中部及び南部に多し、  
鑛産は、イギリス及び北アメリカ合衆國に次で最も多し、特  
に鐵及び石炭に富み、<sup>Chemnitz</sup> ヒエムニッツ、プレスラウの二地近傍  
最も名あり、工業教育の制度完全なるがため、工業非常に進  
歩せり、就中製鐵を第一とし、製糖及び織物業これに次ぐ、其  
麥酒は世界に名あり。

Chemnitz  
Chemnitz

本邦はドイツより買ふことより進んで多し

貿易の年額は四十億圓を超へ、主として、イギリス、ロシア、  
オーストリア、北アメリカ合衆國の四國と取引をなし、ハン  
ブルヒ及びブレドメンは、商業上の二大中心なり、本邦との  
貿易も、頗る盛大なり。







事實上ドイツの領地に外ならざるなり。

### 第六節。オーストリア、ハンガリー。

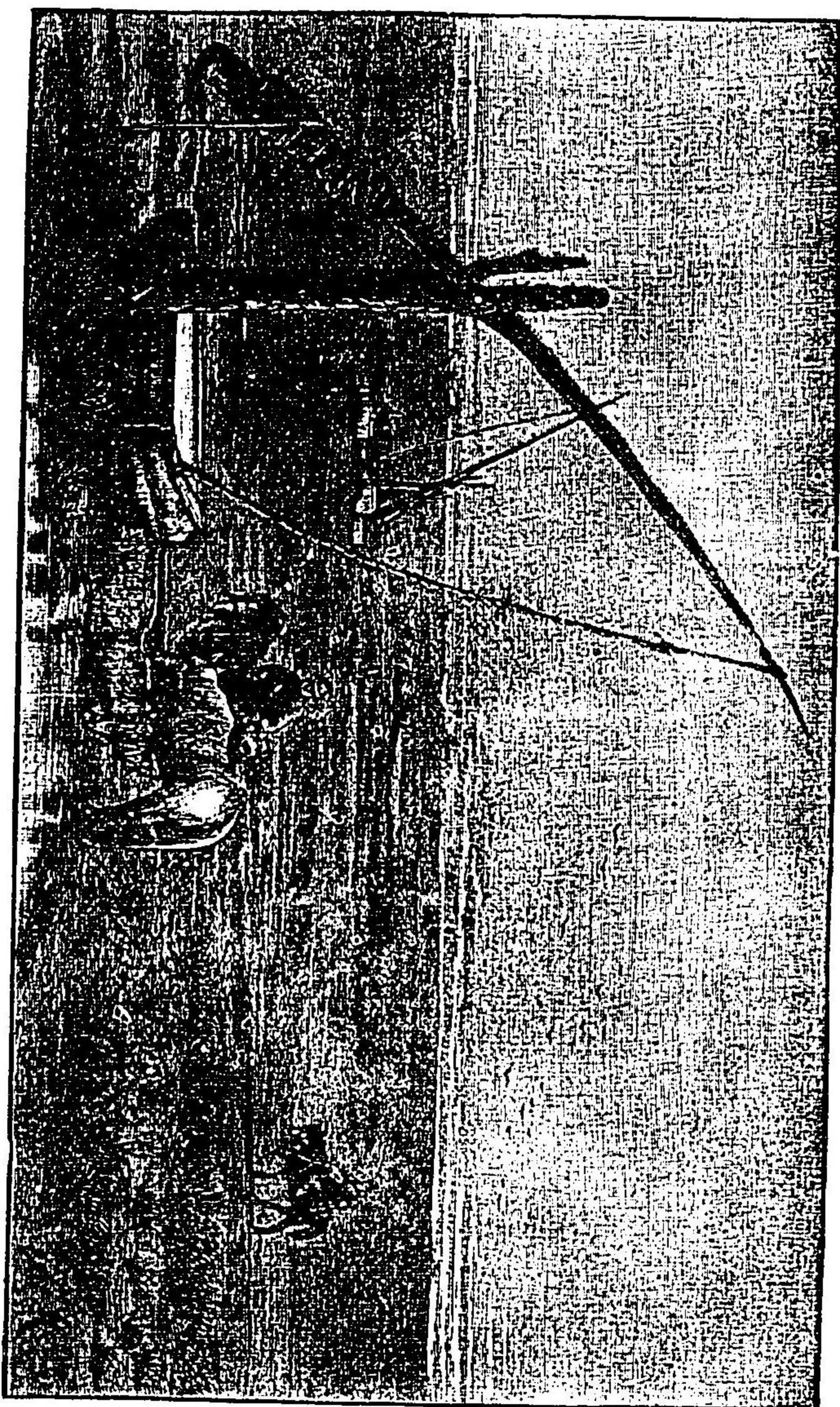
12. Austria-Hungary

#### 總論。

位置及び面積。ヨーロッパの中部に位し、バルカン半島の西北部に當る、面積凡そ四萬方里、邦制上オーストリア帝國と、ハンガリー王國とより成る。

地勢。アルプス山系の東部は國の西部に綿亘し、其脈延て、カーパシアン山脈となり、以て國の北部を限り、其南側にハンガリーの大平原をなす、アルプス山系より一支脈を出して、國の東南に連り、アドリアチック海岸に沿ひて走り、其一部にカルスト地方あり、又ボヘミアの高地を圍める山脈あり、海岸線は甚だ短し。

カルスト地方は石灰岩より成り、地下に湖水あり



(ヌクヌブ) 原平ノ一ツガム

13. Kárpáten  
Karpathes

11. München  
Munich

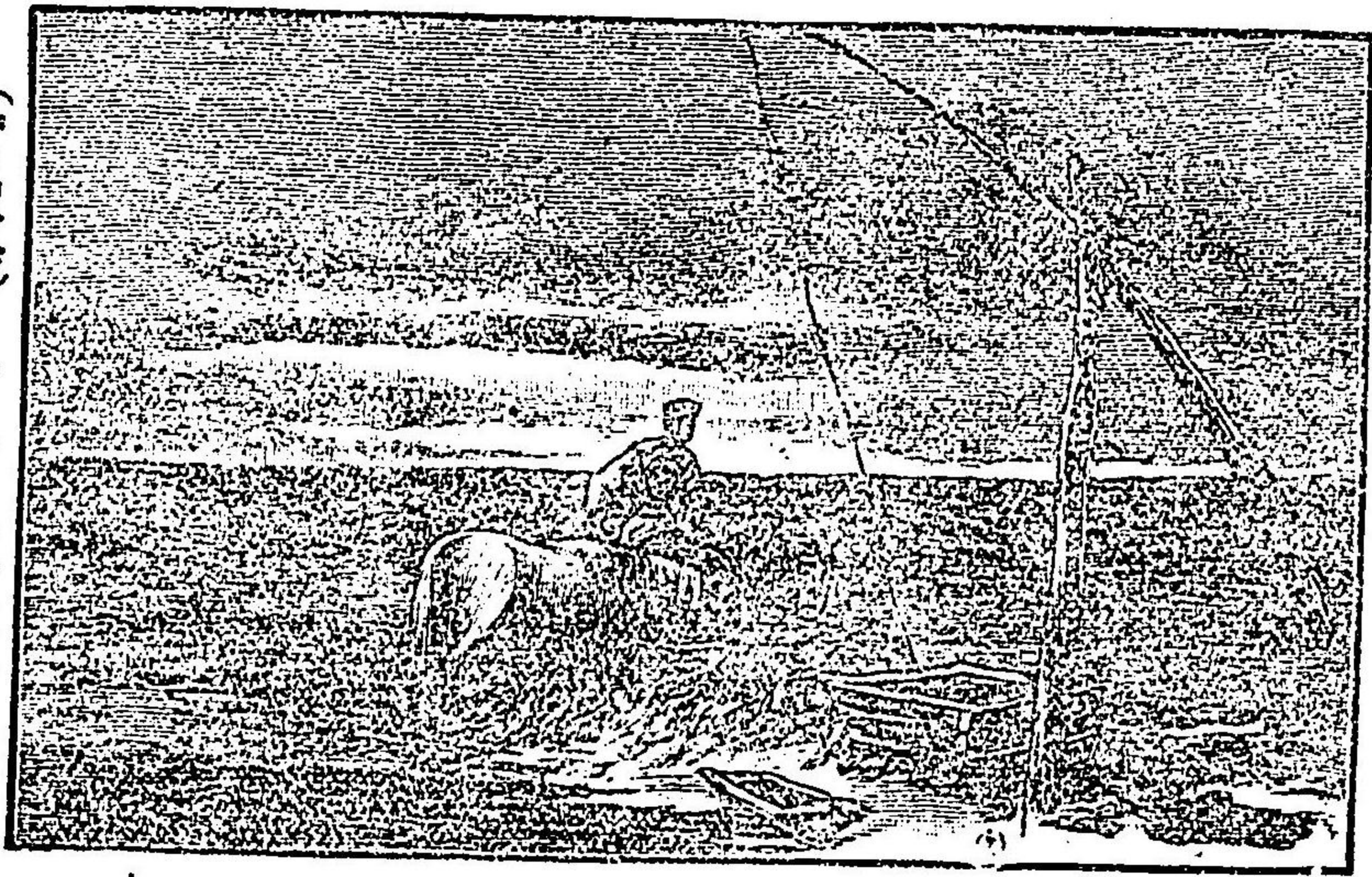
9. Strassburg  
Strasbourg

12. Oesterreich-Ungarn  
Autriche-Hongrie

10. Elsass-Lothringen  
Alsace-Lorraine



ルーマニアの境に、  
 交通の便を、  
 開通した。この  
 利便は、  
 交通の便を、  
 開通した。



(ヨーロッパ) オーストリア、ハンガリー

ハンガリーの平原

水系。ダニューブ河は、  
 ドイツより來り、東流して  
 ハンガリーのブダペスト  
 2. Budapest  
 トに於て、南に轉じ、東流し、  
 ルーマニアに入りて、遂に  
 黒海に注ぐ、全長七百餘里、  
 水運の便至大なり。  
 氣候。氣候は三様に分  
 る、(一)葡萄の生ぜざる北方  
 氣候、(二)葡萄及び小麦に適  
 するハンガリー平原の氣  
 候、(三)温暖なるアドリアチ

1. Donau  
 Danube

3. Budapest  
 Buda-Pest



人種の一ならざるは國勢の振はざる所以

ツク海沿岸の氣候これなり。

住民。人口四千四百萬、人種は非常に多く、主なるはドイツ種、マギアール種、ボヘミア種、ルーミア種等にして、言語の種類二十種を超ゆ。

多くは舊教を奉ず、教育は近來進歩し、大學の數十一に達せり。

政治。一帝國と一王國とより成り、各別に議會及び行政部あり、而してオーストリア帝は、同時にハンガリーの王たり、國號をオーストリア、ハンガリーと云ふ、陸軍は平時三十六萬、戰時百八十七萬の兵を有す、此國は本邦條約國の一なり。

産業。農業は甚だ盛大にして、全面積の三分の一は耕作

地なり、畜産は産業中第一位を占む、又鑛産に富み、特に岩鹽多し、工業はオーストリアを推す、内國貿易は外國貿易に比して却て盛なり、輸出品の第一は諸種の畜産なり、砂糖及び農産これに次ぐ。

地方誌。

ザイエンナは、首府にして、ダニューブ河に臨み、人口凡そ百四十萬、製絹の業盛大なり、其醫科大學は世界に名高し、本邦公使館あり、<sup>1. Vienna</sup> プライグは、ボヘミアの中心たる都府にして、エルベ河の支流に位し、<sup>2. Prague</sup> ツリエステは、アドリアチック海の窮極する所に位し、此國第一の貿易港とす。<sup>3. Trieste</sup> ブーダペストは、ハンガリーの首府なり、<sup>4. Budapest</sup> ブーダ及びペストの二部より成り、人口五十餘萬あり。<sup>5. Buda 6. Pest</sup>

第七節。スヰツツル。

7. Switzerland

ヨーロッパ大陸の中央にある小國にして、四大國の間に

(ローザン) スヰツツル

(百十一)

1. Wien Vienne

2. Prag Prague

3. Triest Trieste

4. Budapest Buda-Pest

5. Buda Buda

6. Pest Pest

7. Schweiz Suisse



介在し、面積我九州に殆んど相等し。

アルプス山系の一部を占め、半圓形をなし、ヨーロッパ中の最高地にして、諸大河の水源地をなし、高山は氷河を有し、山中湖水多く、風景最も美なり。

ライン河は、源を國の南部に發し、北流してコンスタンス湖に入り、遂にドイツに入る、ローヌ河の源は、ラインの水源地に接し、西流して、ジエネヴァ湖に入り、遂にフランスに入る。湖水頗る多く、ジエネヴァ、コンスタンスの二湖最も名あり、湖畔風景の美を以て著はる。

人口殆んど三百萬、新教を奉じ、教育は完全にして大學五あり、國民の三分の二はドイツ語を用ひ、フランス語これに次ぐ、國民は自由を好み、勤儉なり、立憲民主國にして、大統領

1. Rhein  
Rhin

2. Rhône  
Rhône

3. Genfer  
Genève

4. Boden  
Constance

本邦はスヰツツルより年々巨額の時計を買ふ

は行政の長たり、本邦條約國の一なり、首府をベルンと云ふ。

産業。

1. Bern  
Berne

農産物甚だ少なく、林業と牧畜業とは頗る盛なり、人民は、水力を利用して、盛んに絹布綿布時計等の製造に従事す、就中時計は最も名高し、これを以て商業甚だ盛にして、主なる輸出品は絹木綿時計及び製乳とす。

交通。道路、鐵道及び電線共に發達し、交通至便なり、而してスヰツツルよりイタリイに通ぜるセント、ゴータード隧道は、其長さ九哩四分の一あり。

第八節。

3. France

總論。

位置及び面積。ヨーロッパ大陸の西部を占め、東はアルプス山系によりて、ドイツに接し、北はイギリス海峡を隔

(ヨーロッパ) フランス

2. St. Gotthard  
St. Gothard

3. Frankreich  
France



我國より少く大なり

て、イギリスに對す、面積は、三萬四千餘方里あり。

フランスの大平原は、北東部の一部を組成す

地勢。國の東南は、多く山地にして、北西部は大平原なり、南境は、ピレニース山脈境を限り、東方イタリー及びスヰツツルと境を接する所は、アルプス山系の西側にして、モンブランの高峰あり、國の中部オーヴェルヌ高原の外、國中凡て平地なり。

2. Auvergne

1. Mont Blanc

コルシカ島は、ナポリ半島の北東部の生地

海岸。地中海岸の中、東部はアルプス山系の端、走りて斷崖を作り、南東の沖にコルシカの大島あり、西部は低平にして沙濱多し、澤湖少からず、ビスケー湾沿岸は沙丘相連り、澤湖を控ゆ、ブリタニー半島の地は海岸絶壁多し。

3. Corsica  
Corse

4. Garonne  
Garonne

水系。注入する海に從て、河を列擧すれば、ビスケー湾に、

ガロンヌ及びロアル、地中海に、ローヌ、イギリス海峡に、セイ

7. Seine  
Seine

5. Loire  
Loire

6. Rhône  
Rhône

又あり、河口開て三角江をなし、且つ潮波の侵入急劇なり。  
氣候。南方に至るに從ひ、温暖なり、又東に往くに從ひ、海洋の影響漸く減す。

住民。人口は、三千八百餘萬、大抵舊教を奉ず、高等及び中等教育は、甚だ完全なれども、初等教育は未だ普及せず、フランス人の性質は快活なり、且つ都雅にして嗜好の優美なるは世に名高し。

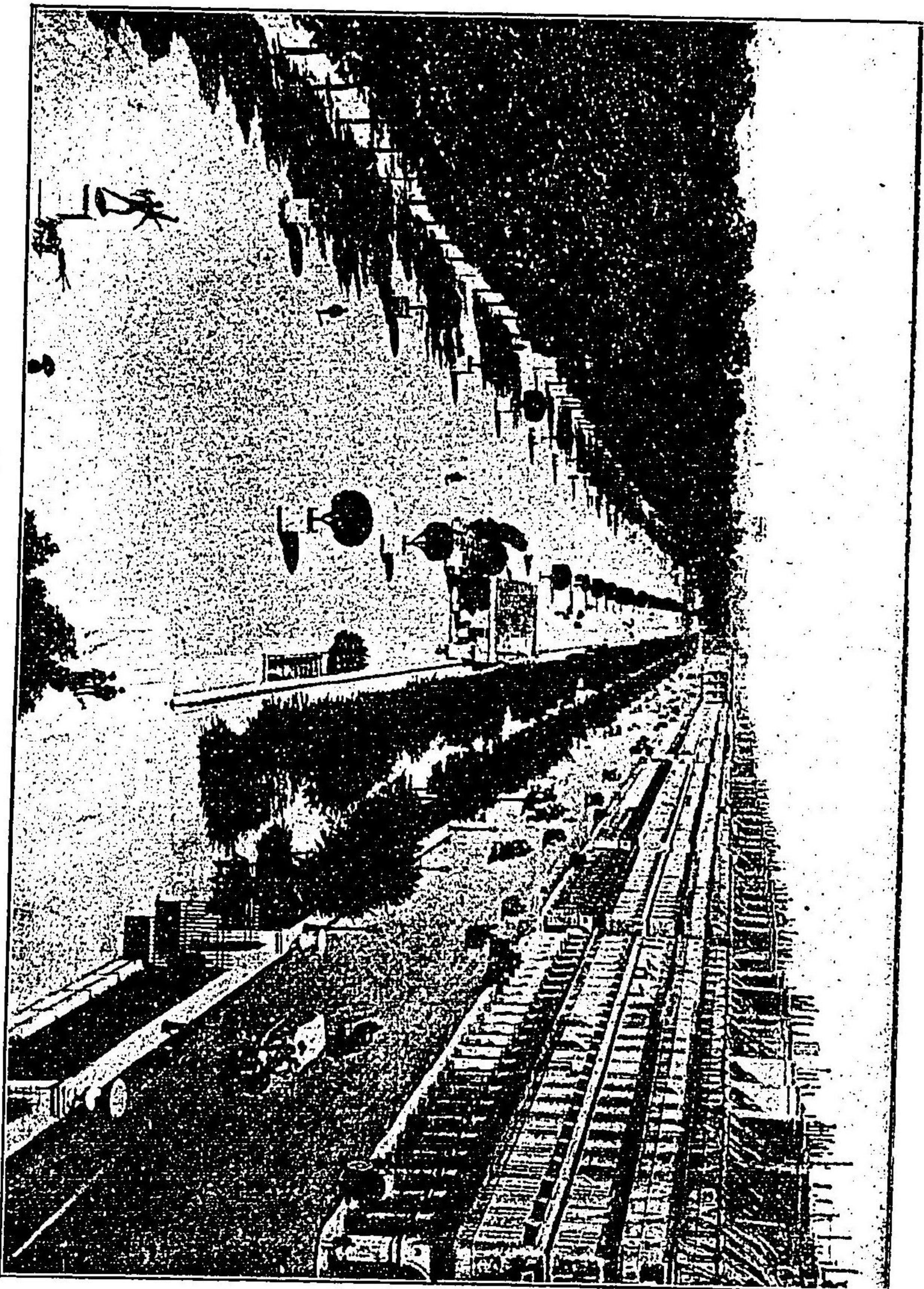
政治。共和政體にして、行政權は大統領これを握る。

常備兵五十五萬、戰時には二百五十萬の陸軍を有し、海軍は非常に強盛にして、世界第二に位す、本邦條約國の一なり。  
産業。植物は三帯の別あり、穀物帶、葡萄帶、橄欖帶これなり、葡萄の産出夥しきは、世人の普く知る所なり。

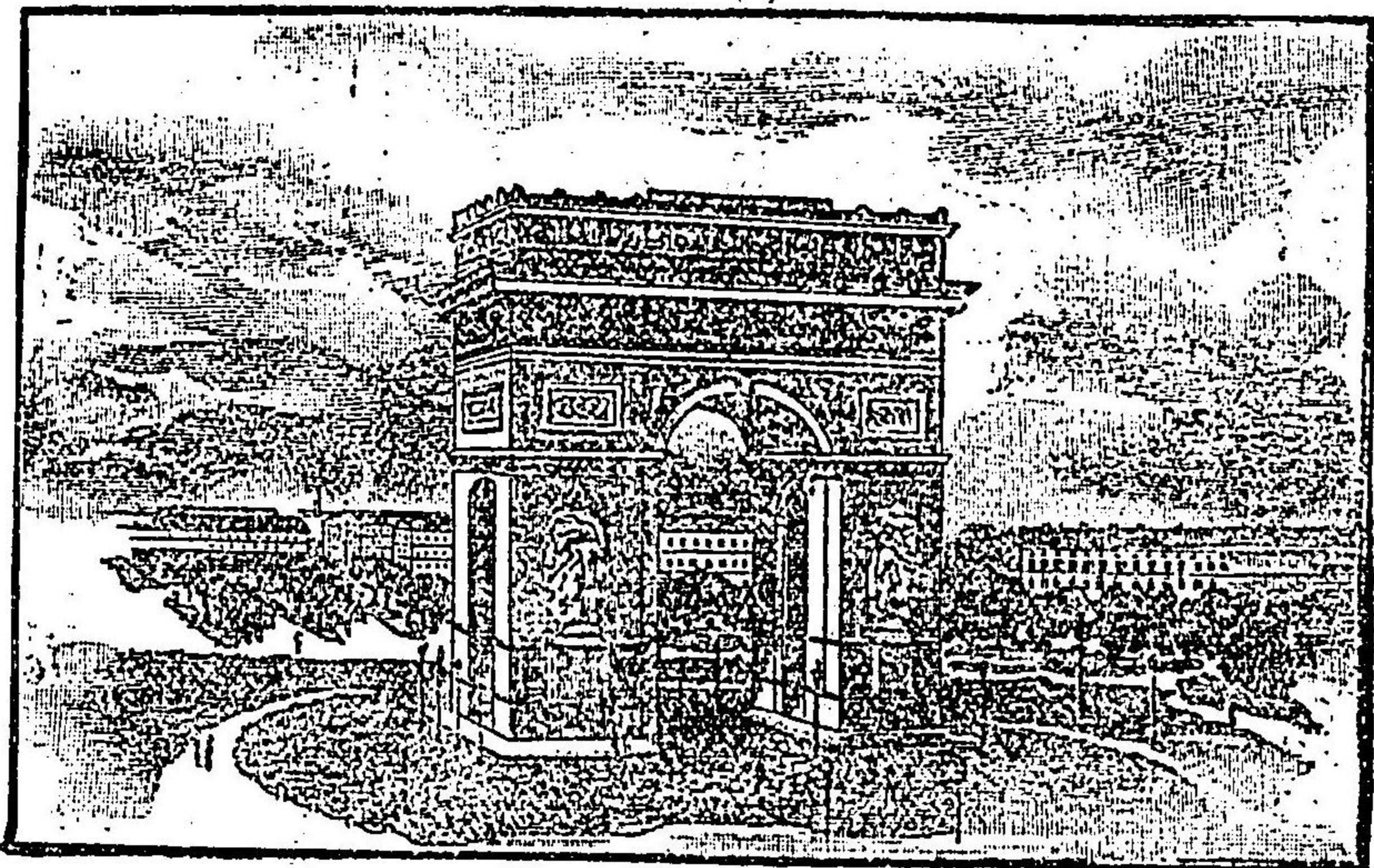
共和政體

フランスは世界一の葡萄酒産出國なり





本邦はフランスに多く買入るが、フランスは本邦に多く買入る。



町正新機地理 外國ノ部

門 旋 凱 の 1 リ バ

工業は、極めて盛なり、其最も大なるを絹となし、リヨンこれが中心なり、葡萄酒これに次ぎ、毛織物又これに次ぐ、而して精巧なる美術品に至りては、實に全世界に冠たり。  
貿易、其地位三海洋の間に在て、外國貿易には最も便利なり、貿易の年額は四十億圓に達し、本邦との貿易も頗る盛大なり。

(百十六)

Lyon  
Lyon



交通。鐵道、運河、電線等非常に發達し、鐵道は二萬哩を越ゆ、マルセイユは世界交通の要衝にして、パリイはフランス交通の中心なりとす。

地方誌。

パリイ。パリイは首府にして、セイヌ河に跨り、人口二百五十餘萬、ヨーロッパ第二の都府なり、府を圍らすに堅固なる廓壁を以てす、府内には、ノートルダム大寺、凱旋門等廣大なる建築物少からず、パリイは服裝流行の中心にして、又娛樂の別天地なり、本邦公使館あり。

1. Paris  
2. Notre Dame  
3. Bordeaux  
4. Havre  
5. Marseille  
6. Lyon  
7. Lille

ホルドールは、ガロンヌ河口に位し、葡萄酒の産出を以て其名世界に高く、アマンはセイヌ河口の右岸にあり、此國第二の貿易港なり。

マルセイユ。地中海岸にありて、世界交通の要衝に當り、此國第一の貿易港なり、人口四十餘萬、リオンは、ローヌ河の上流に位し、絹織物製造の中心にして、人口凡そ五十萬、本邦領事館あり、リオンは、パリイの北方に當り、織物製造の業盛んなり、府の堡塞は堅牢第一と稱せらる。

(ヨーロッパ) フランス

- |                   |                           |                         |                             |
|-------------------|---------------------------|-------------------------|-----------------------------|
| 7. Lille<br>Lille | 5. Marseille<br>Marseille | 3. Bordeaux<br>Bordeaux | 1. Paris<br>Paris           |
|                   | 6. Lyon<br>Lyon           | 4. Havre<br>Le Havre    | 2. Notre Dame<br>Notre Dame |



フランスの領地。此國の領地は本國に十八倍し、主としてアフリカにあり、就中アルジェリアは最も肝要なるものなり。

第九節。ベルギー。

1. Belgium

境界及び面積。北はオランダ、南はフランス、東はドイツに接す、面積我九州より小なり。

地勢。南及び東に高く、北及び西に低し、西方最低の地は、海面の下にあり、海岸線は、僅に二十五里に過ぎず、國の北半部は、ヨーロッパ北部大平原に屬す。

水系。マース及びシエルトの二河は、共にフランスに發し、此國を貫流してオランダに入る、水運の便甚だ大なり。

2. Maas

3. Schelde

氣候。概してイギリス南部の如きも、稍大陸性を帶ぶ、西部は、濃霧多し。

2. Maas  
Meuse  
3. Schelde  
Escaut

1. Belgien  
Belgique

人口の密度は本邦に二倍す

大學四あり

住民。人口六百五十萬にして、フレミング族を多しとす、多くは舊教を奉ず、教育は頗る進歩せり。

政治。立憲王國にして、陸軍は常備五萬の兵あり、海軍の設けなし、本邦條約國の一なり。

産業。農業の進歩せること他に比類少し、されば其人口非常に稠密にして、國土狹小なるにも拘はらず、農産物の剩餘を外國に輸出せり、又鑛物に富み、石炭多く、工業甚だ盛なり、織物及び器械等を重なる製造品とす、又商業頗る盛にして、其大部分はフランスとの貿易なり、貿易の年額二十億圓を超へ、本邦との貿易盛大なり。

交通。水路、鐵道、電線發達して、其交通の至便なること、イギリス、ドイツ諸國に劣らず。

本邦はベルギーより殆んど倍の面積を有するに比して、人口は僅かに倍す



地方誌。

アントワープは日本郵船會社の航路に當る

○ブリュッセルは人口五十三萬首府にして、小ハリーの名あり、本邦公使館あり、此府の南にウォーターローの古戰場あり、アントワープは、商船の出入頻繁にして、大陸のリップフルと稱せらる、本邦領事館あり。

第十節。オランダ。

4. Netherlands

境界及び面積。 低平なる小國にして、東はドイツ、南はベルギーに接し、面積我九州より小なり。

地勢。 西北部にズイデル、ゼー灣深く入り込み、土地往々海面より低く、海はオランダ人の永久の敵なり、オランダ人は常に海洋より新陸地を作出するを務む。

水系。 河流頗る多く、マース河及びシエルト河は、ベルギーより來り、又ライン河は、ドイツより來り、三河口數多の三

1. Brüssel  
Bruxelles

3. Antwerpen  
Anvers

4. Nederland  
Hollande

5. Süder See  
Zuyder Zee

角洲に分れ、互に相錯綜す。

氣候。 概して溫和にして、始んどイギリスに同じ、但し國の東北隅の運河は冬季氷結す。

住民。 人口凡そ五百萬、チューリトン種に屬し、宗教は過半新教にして、教育普及せり、國人自由を愛し、勤儉にして、舊習故俗を慕ふ。

政治。 立憲王國なり、徳川氏の世以來本邦と通商し、維新前西洋の文物を輸入したるは、主として此國の媒介による。産業。 土地の一半は瘠土砂地にして、唯牧場多く、隨て牛酪、乾酪の産多し、工業盛ならず、此國の位置、商業上非常に便利なる地位にあり、故に現今貿易尙盛大にして、輸出入の總額二十億圓を超ゆ。

現今は本邦との貿易盛なり

昔時世界第一の商業國たり







して、周圍に高地あり。

水系。河流は凡て長からずと雖ども、其河口開て三角江をなし、障礙物少なきを以て、皆自ら良港をなす、これ此國海事の發達を來したる一源因なり、且つ河床の傾斜緩なるを以て、船舶は内地に深く溯ることを得べし。

大ブリタインは、分水山脈國の西方に偏在するを以て、東側にのみ稍、長き河あり、<sup>1. Thames</sup> タイムス、<sup>2. Tyne</sup> タイン等は此例なり、アイ  
ルランドにては、中部平原を貫通して、南西流するシヤン  
ン河を主なるものとす。<sup>3. Shannon</sup>

湖沼。スコットランドは、頗る湖沼に富み、<sup>4. Loch</sup> ロックと云ひ、其形狹長にして、河流の經路に當り、スカンヂナヴィアの湖に似たり。

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 3. Shannon<br>Shannon | 1. Themse<br>Tamise |
| 4. Loch<br>Loch       | 2. Tyne<br>Tyne     |

人口の密度は  
本邦より大なり

氣候。北温帯に在り、且つ洋中に位するを以て、其氣候概して温和にして、雨量多し、就中西岸は東岸に比して、温和濕潤なり、これ<sup>海流</sup>流の影響による。

住民。人口殆んど四千萬、其密度はイングラントの平原を第一とし、一方里につき、一萬人を超ゆる所少からず。

人種はチュートン種を第一とす、セルツ種も亦少なからず、新教を奉ずるもの多し、アイルランドには、舊教新教共に  
行はる、初等中等教育は、ドイツに比して大に劣れり、高等教  
育も未だドイツを凌駕するに至らず、大學は凡そ八あり、國  
人着實保守の氣象に富み、容易に舊慣を捨てず、又古より海  
を以て立國の本とし、最も海軍を重んず。

政治。立憲政體なり、イギリス帝國は甲、大ブリタイン及



印度は特別に  
これを治む

富士、八島、朝  
日、数島等の  
軍艦は皆イギ  
リスに於て製  
造せられたり

イギリスの世  
界第一等國業  
たる所以

ビヤイルランドの合衆王國、乙、印度、殖民地、保護地、屬地とよ  
り成る、イギリス國の皇帝は、合衆王國の王にして、又印度皇  
帝及び殖民地、保護地、屬地の元首たり、此國は本邦條約國の  
一なり。

兵備。陸軍は常備兵二十二萬あり、海軍は世界第一と稱  
す、戦闘艦、巡洋艦、水雷艇等を合して、四百隻を超ゆ。

産業。農産、林産、水産は、工業及び商業に比して實に微々  
たり、蓋しイギリスは鑛産、殊に鐵と石炭とに富むこと世界  
第一たり、而して石炭は鐵の産地に近くして、製鐵上甚だ便  
利なり、且つ良港多く、國の位置は世界陸地の中心に位し、其  
領地は廣大にして、棉花其他製造の原料を多量且つ廉價に  
産出す。

工業。此國の二大製造品は、織物及び鐵にして、棉布は製  
造品中最も重要なるものとす、織物産額、一年二十億圓に達  
す。

商業。商業に於ても世界の第一位を占む、輸出入額は、年  
額七十六億圓に達す、輸入品の重要なるものを、穀類、棉花、羊  
毛、肉類、材木及び砂糖等となし、輸出品の重要なるものを、棉  
布、毛布、鐵機械、石炭等とす、本邦との貿易も頗る盛大なり。

交通。道路、水路、鐵道の便大なり、運河の最も有名なるは、  
マンチエスター運河なり。  
Manchester

又此國の港灣は、世界各國交通の中心となるもの少から  
ず、海運業は、最も發達し、此國の船にて、内外國の航通に従事  
せる商船の噸數一千三百萬噸、海員の數二十四萬人に至

Manchester  
Manchester

自由貿易にし  
て酒類、烟草  
等を除くの外  
輸出入税を課  
せず

本邦はイギ  
リスより買  
ふ高  
最も多し  
鐵道の全長二  
万哩を超ゆ







マンチエスタ  
は一に給の  
都を稱す

の西に當り宏大なる造船所あり、共に貿易盛大なり。

丙、西岸の部。

1. Liverpool

リヴァプールは、此國第二の都にして、ロンドンに匹敵する

大港なり、對岸のビルケンヘッド府を合すれば七十萬を超ゆべし、外國貿易

2. Birkenhead

額は、此國全體の三分の一を占むるを以て、此府の繁盛なることを推知すべ

く、北アメリカとの貿易は、遙にロンドンに超過す。

マンチエスタ

3. Manchester

リヴァプールの東にありて、對岸のサルフォードを合

4. Salford

すれば、人口七十五萬に達す、世界の最大工業地方の中心として知らる、鐵路

四方に走りて、リヴァプールとは有名なる運河を以て通ず。

丁、内地の部。

5. Leeds

リーズは、ロンドンの北に當り、毛織物の製造は此國第一た

り、ヴァーミンガム

6. Birmingham

は、ロンドンの北西に當り、殆んどイングラントの中心に

位す、人口五十餘萬、金屬器具の製造を以て、其名世界に高し、又ロンドンの北

7. Cambridge

に、ケンブリッジ、西に、オクスフォードあり、共に有名なる大學あり。

8. Oxford

スコットランドの都府。

9. Glasgow

(ゴラスゴー)

イギリス諸島

スコットランドの西岸に接近し、クライド河に跨る、スコツ

7. Cambridge  
Cambridge

5. Leeds  
Leeds

3. Manchester  
Manchester

1. Liverpool  
Liverpool

8. Oxford  
Oxford

6. Birmingham  
Birmingham

4. Salford  
Salford

2. Birkenhead  
Birkenhead



トランド工業の中心にして、造船業の盛なると英國第一たり、人口六十餘萬あり、エヂンバラは、其東に當り、出版醸酒の業盛大なり、有名なる大學の設あり。  
10. Edinburgh

三、アイルランドの都府。

ダブリンは、首府にして、國の東岸に位し、大學の設けあり、ベルファストは、ダブリンの北に當る、工業貿易盛なり。  
11. Dublin  
12. Belfast

イギリスの領地。

イギリス帝國の全面積は、殆んど二百萬方里にして、世界陸地の五分の一以上を占め、人口四億に垂んとす、而して地球上到る所殆んど其領地散在せるを以て、イギリス人は、太陽決してイギリスの國中に没せざるを誇れり、威海衛の如きも、實際イギリスの領地なり。

### 第十二節。スペイン。

13. Spain

#### 位置及び面積。

ポルチユガルと共にアイベリア半島をなし、ヨーロッパの西端に位し、西はポルチユガルに接す  
14. Iberian

我邦は日出の國イギリスは日没の國なり

面積殆んど我邦に等し

面積三萬四千方里あり。

地勢。一大高原にして、北境にピレニース山脈あり、國中

所々に高峻なる山脈あり、又海岸に狹長なる低地あり。

沿岸は極めて出入に乏し、然れども良港少からず、其南端

はジブラルタル海峡を隔て、アフリカのモロッコに對す、  
1. Morocco

水系。大西洋に入るものに、  
2. Douro 3. Tague 及び  
4. Guadalquivir

ルキヴィルの三河あり、又地中海に入るものには、  
5. Ebro 河あり。

氣候。半島は四様の氣候を有す、一、ピレニース及び北方

の氣候は、降雨頗る多く、二、東方斜面の地中海氣候は、稍、溫和なり、三、南方のアフリカ氣候は、熱風多く吹き、四、中央高原の乾燥なる氣候は、寒暑共に甚し。

5. Ebro  
Ebre

3. Taje  
Tage

4. Guadalquivir  
Guadalquivir

1. Marokko  
Maroc

2. Duero  
Douro

13. Spanien  
Espagne

14. Iberische  
Iberique

11. Dublin  
Dublin

12. Belfast  
Belfast

9. Glasgow  
Glasgow

10. Edinburgh  
Edimbourg



人口の密度は  
本邦の半ばに  
及ばず

住民。人口は一千八百萬、アリアン人種なれども混濬せり、殆んど皆其國教たる舊教を信奉し、教育は古昔高等教育を以て、有名なりし所なれども、現今は中等及び初等教育と共に、萎靡して振はず、人民の性質は、其氣候の如く差異頗る甚く、闘牛今尙盛んに行はる。

政治。立憲王國にして、兵備は陸海軍共稍整頓せしも、近時北アメリカ合衆國と、戦端を開きて大敗したり、本邦條約國の一なり。

産業。主なる産業を農業とし、地中海の沿岸を第一とす、牧畜、漁業及び鑛産これに次ぐ。此國の商業は現今衰頽して復昔日の觀なし。

地方誌。

銅の産出頗る  
多し

マドリッド。首府にして、海面を抜くこと二千四百尺の高所に位し、テ

1. Madrid  
ガス河の支流に跨る、人口殆んど五十萬、其大學は古代の創設に屬して、今尙名あり、又國立圖書館には五十萬卷の書を藏す、巴塞ロナは第二の大都にして地中海岸に位し、マドリッドの東に當り、貿易盛なり。

カヂズは、國の南西岸に位し、アメリカ發見の當時は、新舊兩世界交通の要點なりし港にして、貿易今尙盛なり。

3. Cadix  
現今スペインの領地は、アフリカに六萬方里の地あるのみ。

4. Gibraltar  
アンラタルは、スペインの南端に近き一小半島なり、地中海の門戸を扼し、堅牢無比の砲臺あり、イギリス國の所轄なり。

第十三節。ポルチユガル。

5. Portugal

位置及び面積。スペインの西に在りて、ヨーロッパの極西に位す、面積凡そ我北海道に等し。

地勢。アイベリア半島なる、一大高原の西端を占め、沿岸

(ヨーロッパ) スペイン

- 1. Madrid  
Madrid
- 2. Barcelona  
Barcelone

- 3. Cadix  
Cadix
- 4. Gibraltar  
Gibraltar

- 5. Portugal  
Portugal



殊に河流の口には平地少からず、又沿岸は出入多からず。  
水系。ヅーロ河及びティガス河は、スペインより來り、海に入る、ティガス河口は三角江をなす、共に下流は舟楫を通ず。

氣候。國の東境を除くの外、凡て大洋の影響を受け、氣候溫和にして、雨量多し。

住民。人口五百餘萬、人種は、略ぼスペインに同じく、アラビア人及び黒人の血統を混ぜず、宗教はスペインに同じ、教育は未だ完全ならず。

政治。立憲王國にして、兵備は微弱なり、本邦條約國の一なり。

産業。重要な産業を農業と爲す、其産額の最も多きは、

穀類なれども、最も價值あるものは葡萄酒なり、工業は未だ盛大ならず。

地方誌。

リスボン。1. Lisbon テーガス河口に跨り、ポルチュガルの首府なり、其港良好なり。

オポルトは、ヅーロ河口に位し、此國第二の都會にして、貿易繁盛なり。

此國の領地は、アマアに於ては、香港の西なる澳門、アフリカに於ては、ギニアの一部等を始めとし、面積十三萬方里に達す。3. Guinea

附言。スペイン及びポルチュガルの二國は、舊時探検及び商業を以て世界に雄視し、其當時は領地極めて廣大なりしも、近時は全く衰微し、世界の航海權は、主としてイギリス人の手に移れり。

第十四節。イタリー。

4. Italy

ヨーロッパの南部に突出せる中央の大半島なり、東はアドリアチック海に濱し、南西は地中海に濱す、面積凡そ二萬

- 1. Lissabon  
Lisbonne
- 2. Oporto  
Porto

- 3. Guinea  
Guinée
- 4. Italien  
Italie



方里あり。地勢。地形長靴の如く、其爪先及び前脛に巨大なる島を控ゆ、國の北部には、アルプス山系半圓形に走りて其境を限り、其支脈國の中部を貫通す、<sup>1. Apennine</sup>アペニン山脈これなり、地勢斯の如くなるが故に、自ら大陸部、半島部及島嶼部の三に分る、島嶼部とは、シシリイ、サルヂニアの二大島及び其他附近の小島を總稱す、何れも山岳多し。此國は頗る火山に富み、地震亦多し、就中チイプルス府の東に在るヴェスヴィアス峰<sup>2. Vesuvius</sup>シシリイ島の東邊に聳ゆるエトナ峯<sup>3. Etna</sup>及び北に於けるストロンボリの小島最も名あり。<sup>4. Stromboli</sup>沿岸。東北部は低平なるも、南部及び西部は絶壁多し、今海岸の屈曲を見るに、西北端にはジェノア灣あり、其南には、<sup>5. Genoa</sup>

- 1. Apennin Apennins
- 2. Vesuv Vesuve
- 3. Aetua Etna
- 4. Stromboli Stromboli
- 5. Genua Gènes

エニス島はナ  
イオン一世紀  
流の地なり

フラシスに屬する名高きユルシカ島を控へ、ユルシカ島とイタリイとの間には、<sup>1. Elba</sup>エルバ島あり、これより以南チレニア<sup>2. Tyrrhenian</sup>ン海岸一帶は小灣頗る多し、シシリイ島と本陸との間を、<sup>3. Messina</sup>メッシナ海峽と云ふ、シシリイ島の東岸及びイタリイ半島の南岸は、<sup>4. Ionian</sup>アイオニアン海の沿岸にして、長靴の跗に當る大灣を、<sup>5. Tarento</sup>タラント灣と云ふ。<sup>6. Adriatic</sup>アドリアチック海の沿岸は、頗る屈曲に乏しく、北部をヴェニス灣といふ、其沿岸卑濕にして澤湖多し。<sup>7. Venice</sup>水系。地勢狭長なるを以て河流の大なるものなし、<sup>1. Rome</sup>ローマ府あり。及びタイパーの二流稍大なりとす、タイパー河畔には、首府氣候。イタリイは、南北に長きを以て各種の氣候を有せ

- 1. Elba Elbe
- 2. Tyrrhenisches Tyrrhénienne
- 3. Messina Messine
- 4. Ionisches Ionienne
- 5. Tarent Tarent
- 6. Adriatisches Adriatique
- 7. Venedig Venise



り、大陸部は大陸的氣候を有し、半島部は概して乾燥溫暖にして、氣候劇變なし、ヨーロッパ人がイタリーの氣候を愛するは、即ちこの部なり、島嶼部は殆んど半熱帯の氣候を有す。  
**住民。**人口凡そ三千餘萬、多く舊教を奉ず、高等教育は頗る發達の緒に就き、初等教育は漸次普及せんとす、國人は古より詩歌音樂を好み、美術に長じたりしかば、従てヨーロッパの美術國として、其名今尙高し。

イタリーは、氣候溫和、火山饒多、風光明媚、美術卓絶、蠶業盛大等に於て本邦と相似たり、而して古代に盛大に、近世に又勃興し、特に俄に強大なる海軍を有するに至りたる如き點に於ても、亦我國勢と稍、似たる所あり。

**政治。**立憲王國にして、海軍は世界の第五位を占む、本邦

鐵及び石炭に  
乏しきは此國  
の欠點なり

條約國の一なり。

**産業。**鑛物は、硫黃及び大理石最も名あり、大抵農を業とし、穀物、葡萄酒及び橄欖を主産とす、養蠶は北部に盛にして、絹はイタリー國産の一なり、工業は未だ盛大ならず、牧畜業は北部に盛にして、水産は珊瑚を以て名あるも、産額は少なし。

イタリーは、海岸線の屈曲に富み、良港を有し、島嶼の大なるものありて、地中海に於て、好位置を占む、又ヨーロッパに於て、商工業の最も盛なる諸國と相接し、三大隧道はアルプス山を通じて、フランス、オーストリア及び西部スヰツツルと直接に貿易することを得べし。

**交通。**交通は海運至便の地にありて、世界航通の衝に當



ローマ帝國の  
首府



ヴェスヴィア火山

れり、又鐵道は殆んど一萬哩に達し、三個の隧道によりてアルプスを横斷す。

地方誌。

ローマ。首府にして、人口凡そ五十萬、タイペー河畔に跨り、現今世界美術の淵藪なり、セント・ピートルの大寺、及びヴァチカンの大宮殿等、宏大なる建築少からず、本邦公使館の設あり。

3. Genova。ジェノヴァ灣頭に位し、貿易繁盛なり、コロムブスの生地を以て名あり。

5. Naples。ヴェスヴィアスの

(百四十一)

1. Rom  
Rome

2. Vatican  
Vatican

3. Genua  
Gènes

4. Colombus  
Colomb

5. Neapel  
Naples

テロップルは火山の噴火によりて、破砕に陥り、昔の遺跡を發掘す

大火山に對し、テロップル灣頭に位し、風光明媚、氣候温和なり、人口五十餘萬、イタリー第一の大都なり。

1. Palermo。シシリー島の北西隅に近く位し、メッシーナは同島の北東隅に位す。

3. Venice。ヴェニス灣岸に位し、七十二の島嶼に跨り、全市は恰も水上に浮べる如し、昔時は商業の一大中心として名高かりしが、其後非常に衰頹し、近時スエズ運河開通によりて、又頗る繁盛を見るに至れり。

4. Brindisi。イタリー南東隅に近き一要港にして、ヨーロッパより、印度及びアフリカに至る要衝に當り、現今世界の交通上有名なる港なり。

5. Milan。ミランは、セントゴリアードの大隧道を通ずる鐵道によりて、チネーリッンは、モンセニョーの大隧道を通ずる鐵道によりて、貿易繁盛なり。

第十五節。バルカン半島。

位置及び境界。ヨーロッパの南部三半島中、最東にあり、三面海を繞らし、北方はダニユープ河の本支流及びカー

(ヨーロッパ) バルカン半島

(百四十一)

1. Palermo  
Palerme

2. Messina  
Messine

3. Venedig  
Venise

4. Brindisi  
Brindisi

5. Mailand  
Milan

6. Turin  
Turin

7. Balkan  
Balkan



パシアン山脈の一部を以て界を限る。

地勢。東北部は平原低地多く、西南部は山多し、蓋しバルカン半島の地は、地勢錯雑して、山脈の方向も一定せざるごと、猶其邦國の數多あるが如し、其山脈の稍、大なるものは、中央に當り東西に走れるバルカン山脈なり。

海岸線の出入極めて多く、島嶼に富む、其大なる者には、クリート(一名カンデア)及びユーピアあり、又群島には、西にア  
1. Crete 2. Candia 3. Euboea  
イオニアン、東にサイクレイヅ及びスピレイヅの群島あり、  
4. Cyclades 5. Sporades  
此東方には、數多の島嶼あるにより、稱して多島海と云ふ。

水系。ダニユーフ河は、三角洲をなして、黒海に注ぐ、此河は鐵門に至るまで、各國公共の航路たる規定あり。  
6. Archipelago  
氣候。北方は、大陸的氣候を呈し、南方に至るに従ひ、次第

- |                           |                         |                     |
|---------------------------|-------------------------|---------------------|
| 5. Sporaden<br>Sporades   | 3. Euboea<br>Eubée      | 1. Krete<br>Crète   |
| 6. Archipelag<br>Archipel | 4. Kycladen<br>Cyclades | 2. Candia<br>Candie |

に海洋の影響を受け、氣候溫和雨量多し。

住民。人口は多からず、これ山岳の多きと、交通の不十分  
なると、商工の業未だ發達せざるとによる、人種は數多あれ  
ども、其主なるものはスラヴ種、ギリシヤ種、トルコ種なり。  
區劃。バルカン半島の政治上の區劃左の如し。

ボスニア。及びヘルゼゴヴィナは、もとトルコに屬し、  
1. Bosnia 2. Herzegovina  
が、今はオーストリアハンガリーの一部をなす。

モンテネグロ。ボスニアの南にある小侯國なり。  
3. Montenegro  
セルヴィア。ボスニアの東にある小王國なり。  
4. Servia

ルーマニア。バルカン半島の東北隅を占むる一王國に  
5. Rumania  
して、ダニユーフ河、國の南境及び東部を流る、農業を主とす、  
首府をブハレストと云ふ、大學の設けあり。  
6. Bukarest

(ブーハク) マルカン半島

- |                         |                             |                               |
|-------------------------|-----------------------------|-------------------------------|
| 5. Rumänien<br>Roumanie | 3. Montenegro<br>Monténégro | 1. Bosnien<br>Bosnie          |
| 6. Bukarest<br>Bucarest | 4. Serbien<br>Serbie        | 2. Herzegovina<br>Herzégovine |



ブルガリア。トルコの附屬國にして、其内治は全く獨立の侯國なり、ブルガリア本部及び南部ブルガリア(東ルーメリア)の二部に分る。

トルコ。トルコは、一にオットマン帝國と稱す、第十七世紀に於ては、強盛なる一大帝國なりしが、現今僅かにバルカン半島の一部を有するのみ、面積我邦の半より小にして、人口僅かに六百萬、人種の數頗る多く、トルコ種、ギリシヤ種を主とす、概ね回教を奉ず、教育は宗教にこれを一任す、帝號を

サルタンと云ひ、回教の經典に背馳せざる限りは、無限の權力を有すること、ヘルシアの王に似たり、穀物、葡萄及び蠶絲の産出盛にして、輸出品の第一に位し、鐵道及び電線も近來非常に進歩せり。

5. Sultan

非常に進歩せり。

1. Bulgarien  
Bulgarie  
2. Rumelien  
Roumelie

- 1. Bulgarien  
Bulgarie
- 2. Rumelien  
Roumelie
- 3. Türkei  
Turquie
- 4. Ottoman  
Ottoman

5. Sultan  
Sultan

近時本邦條約  
國の一さなれ

コンスタンチノブルは首府にして、人口凡そ九十萬、ボスフォラス海峽に臨み、黒海の口を扼す。

アドリアノブルは、コンスタンチノブルの西北に當る、嘗て此國の首府たりしことあり。

ギリシヤ。バルカン半島の南端に位する小半島王國にして、舊時はヨーロッパ先進國の第一を占め、文學技藝の淵藪たりき、其後久しくトルコの領地たりしが、諸強國の力によりて、遂に獨立するを得たり、而して近來又トルコと戦を交へ、一敗殆んど立つこと能はざるに至れり、面積北州より小に、人口二百四十萬、ギリシヤ種に屬し、ギリシヤ教を奉ず、教育は未だ普及せず、首府アゼンズには大學の設けあり。

立憲王國にして、議會は一院より成る、物産は乾葡萄及び

立憲王國にして、議會は一院より成る、物産は乾葡萄及び

立憲王國にして、議會は一院より成る、物産は乾葡萄及び

立憲王國にして、議會は一院より成る、物産は乾葡萄及び

立憲王國にして、議會は一院より成る、物産は乾葡萄及び

(Balkan) 大バルカン半島

(百四十五)

- 1. Constantinople  
Constantinople
- 2. Adrianopel  
Andrinopel
- 3. Griechenland  
Grèce
- 4. Athen  
Athènes



諸種の礦物を主とす、鐵道、電線は漸次發達し、又ユリンス地  
峽を通ずる運河ありて、交通稍便なり。  
Corinth

Korinth  
Corinthe

# 第五章。 アフリカ。

Africa

## 第一節。 總論。

位置及び面積。 東半球の西南に位し、東はスエズの運  
河を含める地峽及び紅海を以て、アジアに接し、印度洋を隔  
て、遠くオーストラリアに對す、西は大西洋を隔て、南ア  
メリカに向ひ、北は地中海を挟みて、ヨーロッパに接す、面積  
凡そ二百萬方里あり。

面積ヨーロッパに三倍す

特性。 アフリカは、一に暗黒大陸と稱す、これ此大陸の世  
に知らるゝこと少きによる、蓋しサハラの大沙漠或は赤道  
近傍の大森林により、交通探險に不便なるが故なり。

南北大陸の反對點、六大陸を南北に分つときは、兩者の間に著しき差異

(アフリカ) 總論

(百四十七)

Afrika  
Afrigue

Afrika



あり、北の三大陸は互に相接し、南の三大陸は、頗る廣き大洋を中に挟んで遠く相隔離せり。

北の三大陸は、海岸線頗る長く、港灣深く陸地に侵入し、陸地長く海中に突出し、群島頗る夥多なり、南の三大陸は、其海岸線一様短少にして、大洋の陸地に侵入すること少く、島嶼も至て少し。

アフリカ及びヨーロッパの比較。アフリカ及びヨーロッパ二大陸の相反對せる諸點を列擧すれば左の如し。

アフリカ。

ヨーロッパ。

- 一、大部は熱帯にあり。
- 二、形狀簡單にして、一大團塊をなす。
- 三、枝なき幹の如し。
- 四、比較上海岸線最も短し。
- 五、島嶼頗る少し。
- 六、河流頗る多きも、舟航に適せず。
- 七、二大沙漠あり。
- 一、大部は温帯にあり。
- 二、不規則にして、凸凹出入多し。
- 三、西部に枝多し。
- 四、比較上海岸線最も長し。
- 五、島嶼頗る多し。
- 六、河流頗る多く、皆舟航すべし。
- 七、沙漠なし。

二峰の高さ各二萬尺に垂んとす

サハラ沙漠は東西千二百餘里南北四百餘里其面積本邦の十五倍あり

- 八、二大内地瀝域を有せり。
- 九、其山脈は海岸に沿ふ。
- 十、其氣候は概ね熱帯性なり。

- 八、内地瀝域極めて少し。
- 九、其山脈は殆んど中部を走る。
- 十、其氣候は概ね頗る温和なり。

地勢。其外形既に一樣にして、内地も亦然り、一言以てこれを掩へば、實に高原大陸と稱すべし、其大山脈は海岸に沿ふ、山脈の主要なるものには、北にアトラス、西にコン山脈あり、大陸中の最高峯を、キリマンジャロ及びケニアの二峰となす、共に東方に屹立す。

原野及び沙漠。重なる原野は、皆高地にして、サハラ及びカラハリの沙漠頗る著名なり、サハラは、世界第一の沙漠にして、所々に泉地あり。

3. Kilima Njaro

4. Kenia

1. Atlas

2. Kong

沿岸。海岸は屈曲少なく、陸地の形は殆んど三角形を呈

5. Kalahari  
Kalahari

3. Kilima Ndscharo  
Kilimandjaro

4. Kenia  
Kenia

1. Atlas  
Atlas

2. Kong  
Kong



し、次第に南方に狭く、アガルハス岬は其の極南に位し、西方  
 大西洋の岸には、アゾールス、カナリー等の諸群島散布し、ギ  
 ニア灣深く入る、而して東方印度洋面は、マダガスカル島、モ  
 ザンビツク海峡を隔て、大陸と平行し、北方遠くイギリス  
 領のソコトラ島に向ふ、此島はガルダファイ岬と相對す、其北  
 面は印度洋の水、北に入りて、バベルマンデフの海峡及び紅  
 海となり、スエズ運河となる。

水系。内地灌域。アフリカには、二大内地灌域あり、サハ  
 ラ及びカラハリこれなり。

沿海灌域。海に注げるアフリカの四大河を、ナイル、コン  
 ゴー、ニジエル及びザンベシとす、コンゴは最も大にして、  
 6. Nile  
 7. Congo 8. Niger 9. Zambesi  
 大西洋に注ぎ、ナイルは最も長くして地中海に注ぎ、ニジエ

ルはギニア灣に注ぎ、ザンベシは印度洋に注ぐ。

湖沼。アフリカは、大湖の多きこと、北アメリカに次ぐ、ヴ

イクトリア・ニアンザ、ニヤツサ、タンガニーカの三湖最も名  
 あり。  
 1. Victoria Nyanza 2. Nyassa 3. Tanganyika

氣候。アフリカは多く熱帯中に横はりて、乾燥酷熱なり、  
 これ港灣の出入、半島の突出少きと、海岸に沿ひて走れる山  
 脈の濕風を遮るとによる、故にアフリカの氣候は多く大陸  
 的にして、サハラ沙漠は、地球上最熱の所なり、本洲の西岸は、  
 南方より寒流來るが爲めに溫度を減ず。

住民。人口凡そ二億あり、人種を大別して三となす、土人  
 舊移住民及び新移住民これなり、土人は南部及び西南部に  
 住するホツテントット及びブツシユメンの二族を主とし、

4. Hottentot  
 (ホツテントット)

5. Bushman  
 (ブッシュマン)

(百五十一)

4. Hottentot  
Hottentot  
5. Buschmann  
Boschiman

3. Tanganjika  
Tanganyika

1. Victoria Njansa  
Victoria Nyanza  
2. Njassa  
Nyassa

9. Sambesi  
Zambèze

7. Kongo  
Congo  
8. Nigir  
Niger

5. Guardafui  
Guardafui  
6. Nil  
Nil

3. Mozambique  
Mozambique  
4. Sokotra  
Sokotora

1. Nadel  
Aiguilles  
2. Madagascar  
Madagascar



舊移住民は(一)舊エジプト人種、(二)アラビア及びアビシニア人を主なるものとし、新移住民は、ヨーロッパ諸國の人に係る。

回教の勢力頗る強く、南部及び西南海岸の土人は、數多の拜物教を奉じ、南部アフリカの新移住民は、基督新教を奉ず、言語の數も非常に多く、アラビア語最も行はる。

發見。

ナイル河邊は、古昔より人文最も開けたる地方なれども、アフリカは、現今尙十分に明ならず、最も重要なる探險は、リヴィングストーン及びスタンレー二氏の旅行なり。

1. Livingstone

2. Stanley

區劃。アフリカには真正なる獨立國なく、ヨーロッパ諸國の保護國又は殖民地なり、即ちイギリスは、喜望峰及其他數多の殖民地を有し、又エジプトは土耳其の領なれども、其

1. Livingstone  
Livingstone

2. Stanley  
Stanley

實權は、イギリスの掌中に在り、フランスは、アルジェリアを始め、數多の領地を有す、ドイツ、イタリーの領地も少からず、又コンゴ自由國の君主は即ちベルギー王なり。

アフリカを分て(一)エジプト、(二)ヌビア及び東部スーダン、(三)アビシニア、(四)バルバリー地方、(五)東部アフリカ、(六)西部アフリカ、(七)南部アフリカ、(八)島嶼の八部とす。

産業。

アフリカには、サハラ沙漠の如き不毛の地あり、雖ども、其他の所には天産少からず、唯氣候の不良と交通の不便とにより、未だ十分開發の緒に就かざるのみ、エジプトの棉砂糖、南部アフリカの羊毛、金、金剛石、バルバリー地方の果樹は最も名あり、内地には珍奇なる大木森林をなし、又た象、河馬、犀、鱧魚の如き巨大なる動物あり、河馬はアフリカの

アフリカには  
産なし



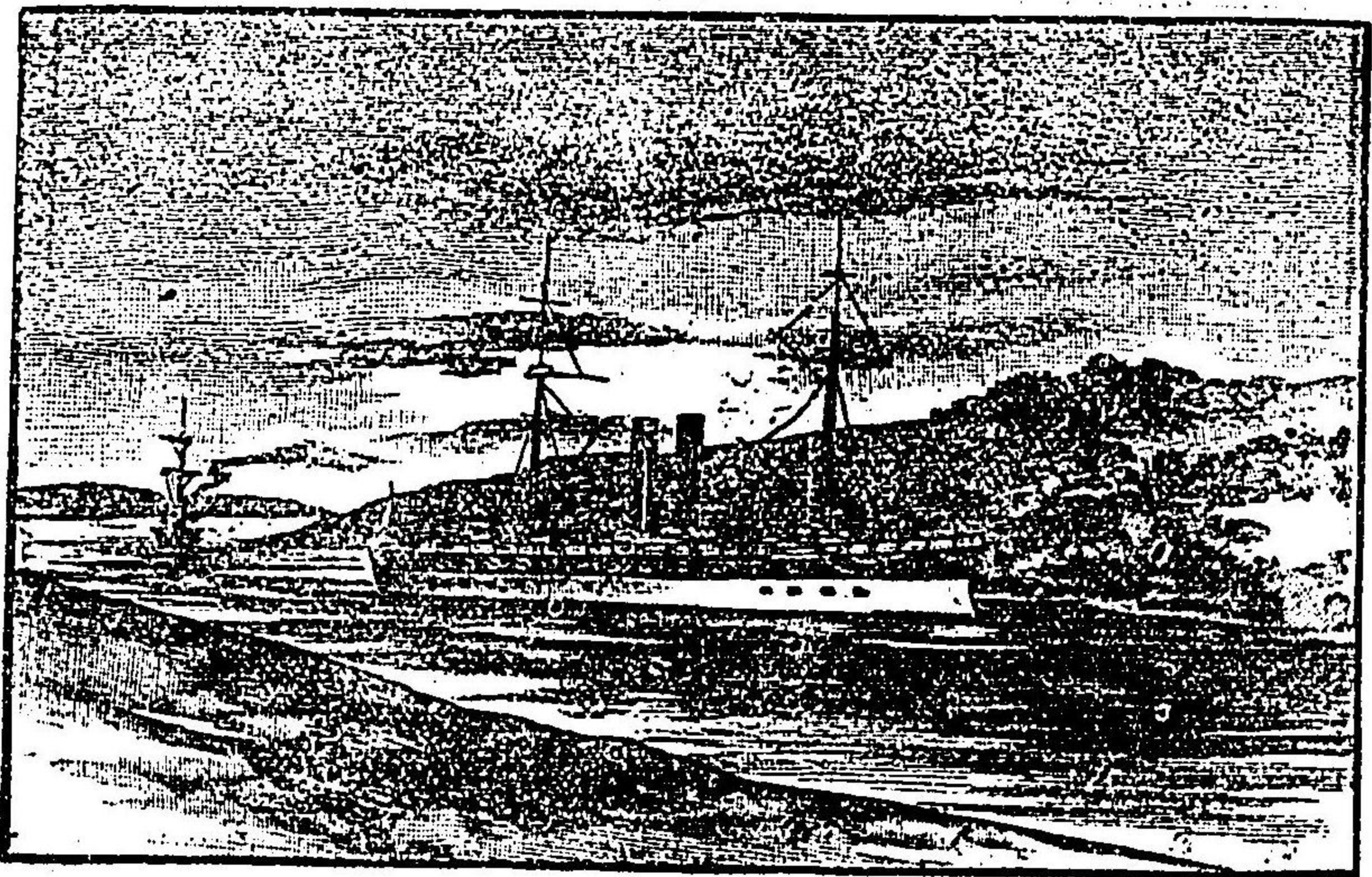
特産なり。

交通。 エジプト、アルジェリア、南部アフリカを除くの外は、交通至て不便にして、内地に到るの道路未だこれなく、其河川は概ね急流にして、特に河口に急流瀑布あり、多くは海より入航する能はず。

第二節。 アフリカ邦土誌。

一、エジプト。 エジプトは、ナイル河の下流に沿へる國にして、<sup>Egypt</sup>沙漠は國の兩側に横はる、ナイルの三角洲は、國の北部をなす、面積廣大なれども、住居に適する所は非常に狭し。此國の位置、世界交通の要點にあり、加之スエズ運河開通以來、アメリカ、オーストラリア間交通の衝に當りて、商業上大に好地位を占むるに至れり。

Aegypten  
Egypte



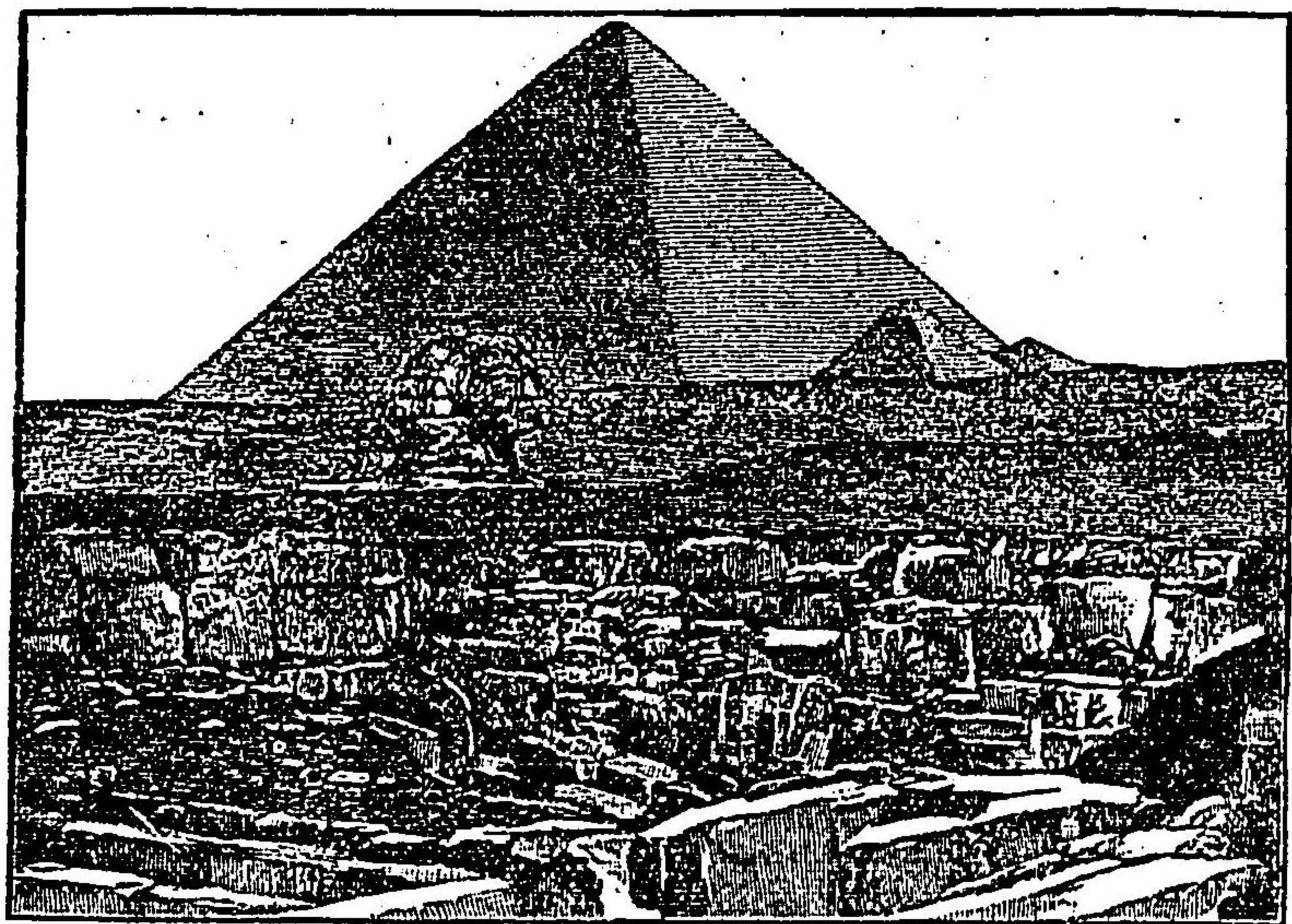
河 運 ス エ ス

ナイル河の灌漑により、農産に乏しからず、輸出品の主要なるものを、棉花及び砂糖と爲す、鐵道、ナイル河及びスエズ運河により、交通至便なり。

スエズ運河は、フランスの土木工師レセップ氏の計畫に成れるものにして、明治二年に開通したり、ポ  
1. Port Said  
2. Port Said  
まで八十七哩あり。

1. Lesseps  
Lesseps  
2. Port Said  
Port Said





三 角 塔 及 次 男 面 獅 身 像

首府を、カイロ<sup>1. Cairo</sup>と云ふ、  
 ナイル河の右岸に立ち、ア  
 フリカ第一の大都にして、  
 往昔アラビア文學の中心  
 たりし所なり、河の左岸に  
 ギゼ<sup>2. Gizeh</sup>府あり、カイロと  
 相對す、最大なる金字塔三  
 個、此近傍に屹峙せり、アレ  
 キサンドリア<sup>3. Alexandria</sup>は、ナイル三  
 角洲の北隅に位し、貿易繁  
 盛なる要港なり。  
 一、ヌビア<sup>4. Nubia</sup> 及び 東部ス

- 1. Kairo  
Le Caire
- 2. Gise  
Gizeh
- 3. Alexandria  
Alexandrie
- 4. Nubien  
Nubie

一、ダン。共にエジプトの南にあり。

三、アビシニア<sup>1. Abyssinia</sup>。ヌビアの東南に隣り、高原の國にして、

往々アフリカのスヰツツルと稱せらる。

四、バルバリー<sup>2. Barbary</sup>地方。アフリカの北方、地中海に濱する

四國の總稱にして、モロッコ<sup>3. Morocco</sup>、アルジェリア<sup>4. Algeria</sup>、チュニス<sup>5. Tunis</sup>、トリポリ<sup>6. Tripoli</sup>

リより成り、アトラス山脈これを貫て走る。アルジェリアは、

フランスの領地中最要なるものなり、地味豊饒、物産に富む、

鐵道、電線漸次延長せり。

スーダン<sup>7. Sudan</sup>。サハラ<sup>7. Sudan</sup>の南に横はりて、大西洋の岸より、アビ

シニアに至る所を、スーダント稱す、未知の謂なり。

五、東部アフリカ。ドイツ及びポルチユガルの保護國

にして、東海岸に於ける狹長なる地方なり。

- 1. Abessinien  
Abyssinie
- 2. Berberei  
Barbaresques
- 3. Marokko  
Maroc
- 4. Algerien  
Algerie
- 5. Tunis  
Tunisie
- 6. Tripoli  
Tripoli
- 7. Sudan  
Soudan



六、南部アフリカ。主要なる國は左の如し。

コンゴ自由國。ベルギー王これが主なり、殆んどコ

1. Congo

ンゴ河の流域全部を包含す、此河は下流に急流あれども、  
其他は舟運の利大なり、地味豊饒、交通も次第に發達せり。

喜望峯殖民地。

海岸に低地あり、後ろは階段をなして

2. Cape Colony

次第に高し、岬角の主要なるものを喜望峰及びアガルハス  
岬とす。

3. Cape of Good Hope

住民多くはカツフィル及びホツテントトの二種とす、

4. Kaffer

内地の高原は牧畜に適し、牧羊を重要なる産業とす、主なる  
貿易品は、羊毛及び金剛石なり、道路及び鐵道漸次延長す、首  
府をケイプタウンと云ふ。

5. Cape Town

ナタール。喜望峯の東北にあり、地味豊饒、主なる産業は

6. Natal

- 1. Kongo  
Congo
- 2. Kapland  
Colonie du Cap

- 3. Kap der guten Hoffnung  
Cap de Bonne-Espérance
- 4. Kaffer  
Kafre
- 5. Kapstadt  
Le Cap
- 6. Natal  
Natal

牧羊なり。

オレンジ自由國。此國は、ナタールの西にある小獨

1. Orange

立國なり、重なる産業を牧羊と爲す。

トランスヴァール。此國は、一に南アフリカ共和国と

2. Transvaal

云ふ、オレンジ自由國と共にオランダ人の建てし國なり、  
地味氣候共に農業、牧畜に適せり、金を産すること頗る多く、  
國の東邊に鐵道開通せり。

七、西部アフリカ。サハラ南端より、南緯十八度の間にあ

る地方を、西部アフリカと云ふ、其中にセネガムビア、上下兩

3. Senegambia

ギニアを含む、ヨーロッパ諸國皆此海岸に於て貿易場を設  
け、尙ほ進で、其驢足を内地に展べんとせり。

八、アフリカの諸島。アフリカの島嶼は、皆大陸と地理

(アフリカ)

邦土誌

(百五十九)

イギリスは此  
國に注目する  
こと久し

- 1. Oranje  
Orange
- 2. Transval  
Transvaal

- 3. Senegambien  
Sénégalie



上の關係甚だ少く、或は無きものあり、多くはヨーロッパ諸國に隸屬す、大西洋にあるものは、皆火山質なり。

スペイン領にカナリー、ポルチユガル領にアゾールス、マ  
1. Azores  
デイラ、イギリス領にセントヘレナ、モーリシアス等あり、  
2. Madeira  
マダガスカル島はフランス領なり。

カナリー諸島。カナリー諸島の中、最も西に在る小  
3. Canary  
島をフェーロー島と爲す、此島は東西兩半球の分割點な  
4. Ferro  
り。

セントヘレナは、アフリカの南西に當り、一世ナポレ  
5. St. Helena  
オン流瀆の地を以て著はる、又イギリス國海軍の根據  
地なり。

モーリシアスは、マダガスカルの東にありて、亦イギ  
6. Mauritius

- |                             |                         |                      |
|-----------------------------|-------------------------|----------------------|
| 5. St. Helena<br>St. Hélène | 3. Kanarien<br>Canaries | 1. Azoren<br>Açores  |
| 6. Mauritius<br>Maurice     | 4. Ferro<br>Fer         | 2. Madeira<br>Madère |

リス國海軍の根據地なり。

マダガスカル。アフリカ島嶼の最大なるものにして、  
Madagascar  
長さ殆ど四百餘里あり、東側は印度洋に面し、南東貿易  
風を受くるを以て、降雨最も多く、隨て土地頗る肥沃なり、  
人民専ら牧畜、農業を勉め、其森林は良材に富む、現今フラ  
ンスに屬す。

Madagascar  
Madagascar



# 第六章。アメリカ。

America

## 第一節。總論。

位置及び境界。西大陸は、アメリカにして、新世界と稱す。此大陸は太平、太西兩洋を限り、南北凡そ四千里に亘り、其幅はこれに比して頗る狭し、面積凡そ二百八十萬方里にして、ヨーロッパ、アフリカを合したるものより大なり、西大陸と東大陸との間には著しき差異あり、左の如し。

西大陸。

東大陸。

- 一、南北長し。
- 二、主なる山脈は北より南に亘る。
- 一、東西長し。
- 二、主なる山脈は西より東に亘る。

- 三、平原の大陸なり。
- 四、大なる沙漠なし。
- 五、前途有望なる土地なり。
- 三、高原の大陸なり。
- 四、大なる沙漠あり。
- 五、過去に開けたる土地なり。

## 第二節。南アメリカ總論。

總説。南アメリカは、新世界の南半部にして、殆んど熱帯に位し、又其大半は南東及び北東の貿易風を受くる好位置にあり、貿易風はアンデス山脈に遮られ、其東側に最多の降雨を生じ、西側には乾燥なる氣候を生ず、これによりて、東側にはアマゾン、オリノコ、ラブラタの如き大河を涵養し、又アマゾン河の谷には、世界最大の森林あり。

地勢。アンデス山脈は、ホルン岬よりパナマ地峽に至る

(アメリカ) 南アメリカ 總論

(百六十三)

- 1. Andes  
Andes
- 2. Hoorn  
Horn

Amerika  
Amérique